

エクアドル共和国
チンボラソ県貧困削減のための持続的
総合農村開発実施体制強化プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成22年8月

(2010年)

独立行政法人国際協力機構

農村開発部

農村
J R
10-100

序 文

独立行政法人国際協力機構は、エクアドル共和国政府からの要請に基づき、2009年2月24日から2011年2月23日までの予定で、技術協力プロジェクト「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を実施いたしました。

今般、プロジェクトの協力期間の終了を2011年2月に控え、当機構は2010年7月25日から同年8月12日まで当機構国際協力専門員（農村開発部課題アドバイザー）である永代成日出を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣し、エクアドル共和国側の評価チームと合同でこれまでの活動実績等について総合的評価を行いました。これらの評価結果は、日本国・エクアドル共和国双方の評価委員による討議を経て合同評価報告書としてまとめられ、署名交換のうえ、両国の関係機関に提出されました。

本報告書は、同調査団による協議結果、評価結果を取りまとめたものであり、今後プロジェクトの実施にあたり広く活用されることを願うものです。

終わりに、本調査実施にご協力とご支援を頂いた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成22年8月

独立行政法人国際協力機構
農村開発部長 熊代 輝義

目 次

序 文

目 次

プロジェクト位置図

現地調査写真

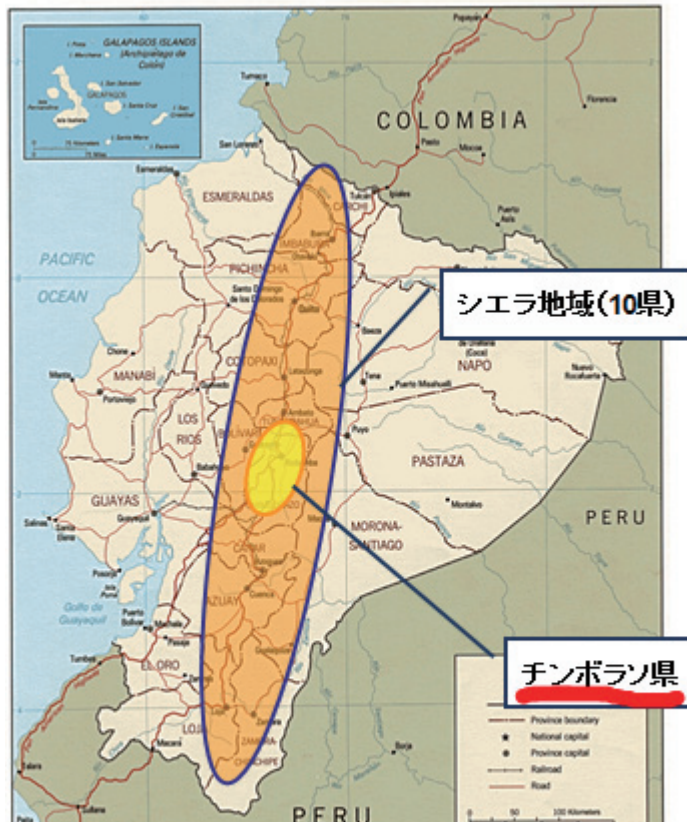
略語表

評価調査結果要約表（和文・英文）

第1章 プロジェクトの概要	1
1-1 プロジェクト名称	1
1-2 プロジェクト期間	1
1-3 プロジェクト対象国、対象地域	1
1-4 裨益者	1
1-5 プロジェクト実施機関	1
1-6 協力の背景	1
第2章 終了時評価概要	3
2-1 終了時評価の目的	3
2-2 終了時評価の方針	3
2-2-1 政策上の配慮事項	3
2-2-2 プログラム上の配慮事項	4
2-3 合同評価委員会の構成	9
2-3-1 終了時評価調査団（日本側）	9
2-3-2 エクアドル側評価委員会	10
2-4 調査日程	10
2-5 評価手法と評価項目	10
2-5-1 評価手法	10
2-5-2 評価項目	11
第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス	13
3-1 投入の実績	13
3-2 活動の実績	13
3-3 指標の達成度	13
3-3-1 成果（アウトプット）の指標	13
3-3-2 プロジェクト目標の指標	16
3-3-3 上位目標の指標	17
3-4 実施プロセスにおける特記事項	18
3-4-1 全体の進捗	18

3-4-2	プロジェクトのマネジメント体制	18
3-4-3	関係機関のコミュニケーション	19
3-4-4	関係機関のオーナーシップ	19
3-5	効果発現に貢献した要因	20
3-6	問題点及び問題を惹起した要因	20
第4章	評価5項目による評価結果	21
4-1	妥当性	21
4-2	有効性	22
4-3	効率性	23
4-4	インパクト	24
4-5	自立発展性	25
第5章	結 論	28
第6章	提言及び教訓	29
6-1	提 言	29
6-2	教 訓	30
付属資料		
1.	調査日程表	33
2.	PDM ver. 1	34
3.	評価グリッド	37
4.	質問票	45
5.	質問票回答集計結果	76
6.	投入実績表	83
7.	活動実績一覧表	92
8.	PDM 改訂版	94
9.	PO 改訂版	97
10.	ミニッツ（署名版）（西文）	98
11.	ミニッツ〔和文（仮訳）〕	103
12.	合同評価報告書（署名版）（西文）	111
13.	面談者リスト	169
14.	持続的農村開発戦略（西文）	172
15.	持続的農村開発戦略〔和文（仮訳）〕	246
16.	プロジェクト関係資料	309

プロジェクト位置図



プロジェクト対象地域



Chimborazo – 10郡 551村落 (2001年国勢調査)

郡	パロキア	村落
Riobamba 100,000	Licto	Cecel San Antonio 850人 / 85世帯
	Calpi	Rumicruz 350人 / 65世帯
Guamote 112,000	Palmira	Sarachupa 200人 / 42世帯
	Matriz	Chismaute Telán 650人 / 110世帯
Colta 155,000	Columbe	San Martín Alto 265人 / 50世帯
	Cicalpa	El Lirio 300人 / 120世帯

↓
Guacona Grande, Rumiloma, Canal Guacona

現地調査写真



リリオ村の圃場。
肥料の使い方によって作物の育ち方が違う。



リリオ村に供与した塩素浄化器



ルミクルス村の圃場でメモをとる村人



サラチュパ村圃場



合同調整委員会。プレゼンテーション



ミニッツ署名

略 語 表

canton		郡
COP	Comité de Operación del Proyecto	プロジェクト運営委員会
C/P	Counterpart	カウンターパート
EBVR	Buen Vivir Rural	農村での良い生活
ECA	Escuela de Campo de Agricultores	農民野外学校
GADPCH	Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo	チンボラソ州政府
INEC	Instituto Nacional de Estadísticas y Censos	国家統計調査局
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
MAGAP	Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca	農牧漁業省
M/M	Minute of Meetings	協議議事録（ミニッツ）
municipio		郡
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
parroquia		パロキア（郡の下の行政区分）
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PNBV	Plan Nacional para el Buen Vivir	国家開発計画
PO	Plan of Operations	実施計画
POA	Plan of Operations Annual	年間実施計画
provincia		県
R/D	Record of Discussions	討議議事録

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：エクアドル共和国	案件名：チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト
分野：農村開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部畑作地帯第一課	協力金額（評価時点）：総投入額約 1.5 億円
協力期間	(R/D) : 2009 年 2 月～ 2011 年 2 月
	(延長) :
	(F/U) :
	先方関係機関：チンボラソ県政府（GDPACH）、農牧漁業省（MAGAP）、環境省、教育省、保健省
	日本側協力機関名：なし
	他の関連協力：シエラ地域における貧困削減のための小規模農家支援体制再編計画調査（開発調査）
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>エクアドル共和国（以下、「エクアドル」と記す）チンボラソ県は、人口約 40 万人のシエラ（山岳）地域のほぼ中央部に位置し、シエラ地域 10 県のなかでも深刻な貧困問題を抱えており、貧困ライン以下の人口が県総人口の 54.9%を占めている（2009 年、エクアドル国家統計調査局）。貧困の主な要因としては主要な生計手段である農業所得の低さに加え、教育、医療及び基礎インフラの未整備による劣悪な生活環境が挙げられる。</p> <p>このように複合的な要因による貧困問題の軽減のためには、地方自治体や各分野を所管する中央省庁が、中長期的な視点に基づき各種事業の企画、実施、運営・管理、評価等を協力して実施する必要がある。しかし、チンボラソ県の開発に関係する機関は、こうした事業を協調して行う経験が十分でないことから、関係機関が協調して持続的総合農村開発を実施するための体制の整備を目的とした協力を日本に要請した。これを受けて、独立行政法人国際協力機構（JICA）は、2009 年 2 月から 2011 年 2 月まで GDPACH、MAGAP、教育省、環境省、保健省を実施機関（C/P）として「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を実施した。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。</p> <p>(2) プロジェクト目標</p> <p>チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。</p> <p>(3) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果 1：チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。 ・成果 2：チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。 ・成果 3：チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される。 	

1-3 投入（評価時点まで）

<日本側>

長期専門家派遣 2名
短期専門家派遣 延べ6名
本邦研修 2名、第三国研修（於：ボリビア）13名
機材供与 総額86,113米ドル
ローカルコスト負担 0.07億円

<相手国側>

C/P配置 延べ18名（プロモーターは含まない）
ローカルコスト負担 131,106米ドル（1米ドル=92.7円、2010年4月）

2. 終了時評価調査団の概要

調査者	1. 永代 成日出（団長／総括） JICA 国際協力専門員（ペルー事務所企画調査員） 2. 山中 祥史（計画管理） JICA 農村開発部 畑作地帯第一課 3. 田中 恵理香（評価分析） グローバルリンクマネージメント株式会社 社会開発部シニア研究員 4. 八木 優子（通訳） 個人通訳	
調査期間	2010年7月25日～2010年8月14日	評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績

成果1：チンボラソ州政府（GADPCH）、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。

成果1は達成されている。C/Pによりモデル集落の現況調査とベースライン調査が計画・実施され、現状調査報告書が作成された。また、9モデル集落で参加型ワークショップが開催されている。C/Pの実際の問題分析能力については、ベースライン調査時から通してプロジェクトに参加しているメンバーが少ないこともあり、明言することは困難であるが、C/Pのなかには活動を通じワークショップ運営能力が向上したと感じているとコメントする者がいた。

成果2：チンボラソ州政府（GADPCH）、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。

成果2は達成されつつある。2009年12月に、「チンボラソ県持続的総合農村開発戦略」が策定され、GADPCH及び4省庁の合意を得た。これに基づいて、部門連携のパイロット・プロジェクト総合計画が策定された。これにより、住民のニーズを把握し、関係機関が連携して戦略を策定し、それに基づいた具体的な計画を立案する、という一連のプロセスを、C/Pが経験することができた。しかしながら、C/Pの事業計画策定能力については、終了時評価でのインタビューによれば、計画策定能力が向上した者も一部いるが、全体的戦略を策定しそれに基づいて具体的事業計画を策定していくという一連の事業計画策定能力はまだ十分強化されていない面もあると思われる。

成果3：チンボラソ州政府（GADPCH）、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される。

成果3は、活動実施計画上今後の活動によるところもあり、評価時点では、すべてが達成さ

れている状況ではない。

パイロット・プロジェクトは、農村開発手法の妥当性の検証を目的として、2010年4月から3郡の9モデル集落で実施されている。現時点では、すべてのモデル集落で同一の内容で農民野外学校（ECA）が行われている。ECA以外では、識字教育、小学校校舎の修理、塩素浄化器の設置、土壌分析、植林に関連した活動を行った。終了時評価で訪問した集落では、プロモーターやMAGAPの技術者の支援の下、いずれも活発に活動が行われていた。しかしながら、ECAの戦略上の位置づけ及び目的が明確でなく、ECAの概念は、まだ関係機関や住民に十分伝わっていないところもある。インタビューによれば、住民は、ECAの活動に活発に参加しており、活動から、肥料の使い方などの農業技術を学び、霜対策などに祖先からの伝統的知識を自主的に試みており、学んだことを各世帯で実施している。

パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価については、今後評価及び住民の満足度調査を行う予定であるが、継続的・定期的なモニタリング・評価のための体制づくりについては、検討途中である。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

チンボラソ県のニーズ、エクアドルの政策、日本の対エクアドルODA方針の観点から、妥当性は高い。

チンボラソ県農村部の住民の生活は厳しく、コミュニティの住民は農業生産、識字、保健、環境保全など、多くの問題を抱えており、持続的総合農村開発は重要である。協調のための体制はまだ整備途上であり、持続的総合農村開発体制強化のニーズは高い。

エクアドルの国家開発計画である「Plan Nacional para el Buen Vivir (PNBV) 2009-2013」では、「目的3」で、住民の生活の質の向上を挙げている。また、「戦略8.9」では、地方分権化の推進と計画運営の強化を挙げている。このような地方分権化の流れの中で、本プロジェクトが事業実施機関として県庁を核としたことは妥当である。

日本の対エクアドルODAの重点分野は、貧困対策、環境保全、防災で、貧困対策分野には、農村開発、教育改善、保健衛生向上が含まれる。プロジェクトは、貧困対策分野と合致しており、環境保全の要素も含んでいる。

プロジェクト・デザインの計画プロセスは適切である。事前評価において、チンボラソ県の多岐にわたる部門の職員、コミュニティの住民を対象にワークショップを実施し、関係機関の意見を幅広く聴取し、関係者の合意の下、プロジェクト計画を策定した。

プロジェクトのデザインは、情報分析・計画・実施の点から関係省庁の実施体制の整備を図るもので、実施体制の整備という観点からは、適切といえる。戦略計画の策定、パイロット・プロジェクトの実施など、統合的農村計画を実践的に計画・実施する訓練になるようデザインされている。パイロット・プロジェクトは、持続的総合農村開発に関する手法の妥当性を検証するものとして位置づけられており、妥当である。ただし、現行のプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）では、パイロット・プロジェクトのこうした位置づけが若干不明確であり、パイロット・プロジェクトの結果をどのように活用するのかの明確な共通認識が関係者の中にない。

(2) 有効性

有効性は、ある程度高い。

プロジェクト目標の達成度は、ある程度進捗しているが、評価時点では、期待された水

準に十分に達しているとはいえない。

プロジェクト目標の指標のうち、1つめの「マルチセクターから成る開発事業実施チームが形成される」については、開発事業実施チームは形成されており、定期的会合で開発事業実施に必要な討議が行われるなど、機能しつつある。ただし、プロモーターが継続雇用されない、パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価がまだ行われておらずその実施体制が十分検討されていない、などの課題があり、開発事業実施を円滑かつ効果的に行うためのチームとしての能力は、現時点ではまだ脆弱である。2つめの指標の「事業実施のための予算が確保される」については、GADPCH では予算化の動きが進み、4省庁では通常予算のなかから事業予算を拠出するとしている。

成果は、評価時点までに予定されていた活動が終了しているものについては達成されつつある。ただし、C/P 機関の能力という点について、問題分析・計画に関してはベースライン調査や農村開発戦略策定等の活動が終了したものの、C/P だけで実際に業務を遂行していく能力については、まだ強化していく必要があると思われる。実施能力の向上については、現時点ではまだ活動の途中であるため、明確には判断できない。パイロット・プロジェクトは、モデル集落において成果を上げつつある。

成果からプロジェクト目標に至るロジックは、適切である。実施体制には、現状の分析、計画、実施というプロセスが必要であり、3つの成果が適切に設定されている。

(3) 効率性

効率性は、ある程度高い。

日本側は、適切な専門性をもつ専門家を予定どおり派遣した。長期専門家、短期専門家とも、適切な専門性をもつ者が派遣され、それぞれの任務を適切に遂行した。実施体制構築が目的の本プロジェクトにおいては、全体の運営管理及びC/Pの能力強化全般を行う長期専門家と、プロジェクトの中核的活動を支援する短期専門家という組み合わせによる派遣は適切であったといえる。しかしながら、多くの関係機関が関与する本プロジェクトにおいては、長期専門家2名では、管理業務に割かれる時間が多くなりがちで、関係機関の問題分析・計画能力の強化に関する活動やパイロット・プロジェクトのモニタリングに十分な時間を取るのが困難な時があった。

供与機材は、事務所用備品、車両等、プロジェクトの基本的活動に必要なものが中心であり、ほぼ適切であるといえる。

本邦研修は、県知事と公共事業部長の2名を受け入れた。C/P関係機関のプロジェクトの理解を深め、円滑なプロジェクト進行を推進するという点では効果があったといえる。ただし、実施体制の強化という点では、問題分析・計画・実施の実務に携わる人材の研修もあれば、より効果的であった。ボリビアにおける第三国研修へは、GADPCH職員、プロモーター、モデル集落住民らを派遣した。各参加者とも、ボリビアとの比較から、土壌保全の重要性や適正な農業技術について学んだ。

日本側からの必要な経費（在外事業強化費）は、適切なタイミングで支出された。

エクアドル側からの投入では、C/Pの配置が遅れたが、2010年3月以降は、4省庁のC/Pが正式に配置され、ほぼ定着している。C/Pの給与はプロジェクト開始時より各省庁から支払われている。配置されたC/Pは適切な経験・能力と高いモチベーションを有しており、プロジェクトの進捗と達成に貢献している。プロモーターは、村落のなかから推薦により選定された。当初プロジェクトで要請した要件（農業の経験と自動二輪免許）を満たさない者も採用されたが、多くの者は、先住民言語を話し、モデル集落住民との円滑な活動に

貢献している。一方で、プロモーターは1年ごとの契約雇用となるため、効果的な活動に影響を与えている。

GADPCH からプロジェクト事務所とプロモーターの執務室が提供されている。GADPCH からは、そのほか、プロジェクト事務所の光熱費・備品、車両ガソリン代が拠出されている。教育省は、識字及びポスト識字教育の教員給与、テキスト代を、保健省は巡回医療活動の費用を、通常予算から拠出している。

日本側・エクアドル側とも実施された投入はおおむね適切に活用されている。

(4) インパクト

上位目標の達成見込みは、評価時点では明確には判断できない。

上位目標の指標である「アクションプランの実施」については、評価時点では、アクションプラン作成には着手しておらず、達成の見込みは判断できない。プロジェクト目標である「持続的農村開発実施のための実施体制の整備」は進捗しつつあるので、今後活動が順調に進めば、上位目標達成の見込みはある。

プロジェクト目標から上位目標に至るロジックは適切である。予算確保も含めた実施体制が整備され、プロジェクト期間中から必要な取り組みがなされれば、プロジェクト目標達成後2、3年でアクションプランを実施することが可能であると考えられる。

上位目標達成の外部条件のうち「GADPCH、関係省庁の役割・体制が大幅に変更されない」は、現状では、満たされている。しかしながら、地方分権化が進んでいくなかで、GADPCH、関係省庁の役割分担が変更される可能性があり、今後の動向を注視する必要がある。もうひとつの外部条件である「パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員が確保される」は、プロジェクト目標の指標と関連性が高く、外部条件としては「関係省庁の全体予算が削減されない」などと修正して、モニタリングすることが適切と思われる。

上位目標以外のインパクトに関しては、パイロット・プロジェクトにおける ECA の参加者の大部分が女性であり、女性のエンパワーメントという点で、インパクトがみられた。負のインパクトは、特に認められない。

(5) 自立発展性

自立発展性は、ある程度見込まれるが、自立発展性を高めていく努力は今後も必要である。

政策面での自立発展性は見込まれる。複数の省庁間の協調は、現政権の政策で重視されており、当面継続すると考えられる。PNBV は 2013 年までの期間となっているため、少なくとも 2013 年までは、現在の政策・制度が継続するものと思われる。

技術面での自立発展性はある程度見込まれるが、関係機関・関係者の一層の能力強化が必要である。プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM) 手法、参加型計画手法等は、C/P の中で定着しつつあると思われる。計画策定能力、プロジェクト実施・モニタリング能力及び体制の構築等については、定着のためには、更に時間が必要と思われる。2010 年以降、実務レベルの C/P は比較的安定しており、活動に積極的に取り組んでいる。

懸念材料として、開発手法の妥当性の検証というパイロット・プロジェクトの位置づけに関し関係者の間で共通認識が醸成されていないことが挙げられる。また、パイロット・プロジェクトのモニタリング、またその結果をより大きな事業や実施体制の強化に反映させるための仕組みが不明確である。さらに、モデル集落におけるパイロット・プロジェクトのパイロット期間終了後の継続の仕組みが、現時点では十分に検討されていない。

財政面での自立発展性は、ある程度見込まれるが、確実ではない。本プロジェクトは、

パイロット・プロジェクト以外には、あまり費用を必要とせず、パイロット・プロジェクトについても、多額の費用がかからない活動が実施されている。GADPCHでは、パイロット・プロジェクトの予算の半分程度を拠出する予定であり、引き続きパイロット・プロジェクト実施の費用を予算化していく方針である。4省庁は、総合農村開発計画の実施に向け通常予算から拠出することとしている。教育省では、パイロット・プロジェクトの活動が通常計画に組み込まれているため、継続が見込まれる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

持続的総合農村開発に向けた関係機関の連携による実施体制の整備は、エクアドルの政策と合致しており、既に取り組みを進めていた。

(2) 実施プロセスに関すること

2009年11月の運営指導調査の提言を受け、C/Pが正式に配置され、その後はC/Pの配置が比較的安定している。関係機関が積極的に取り組んだ。その背景には各中央省庁がR/Dに署名し支援を行ったことがある。また、パイロット・プロジェクトのモデル集落の住民が事業実施に積極的であった。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

PDMの内容やパイロット・プロジェクトの位置づけ、ECAの概念につき、関係者の間で認識が統一されていなかったこと。

(2) 実施プロセスに関すること

C/Pの配置が遅れたこと。エクアドル政府の方針によりプロモーターの雇用が1年契約であること。

3-5 結論

プロジェクト目標は、現時点で達成されておらず、今後関係機関、関係者のより一層の努力を必要とする状況にある。

本プロジェクトの上位目標の先にあるのは、「エクアドル側の自助努力によるチンボラソ県集落住民の生計向上」にある。本プロジェクトでは「自助努力」、「意識改革」をキーワードに、貧困削減に有効な開発のあり方と実施体制整備を求めた活動を展開してきている。新たな開発手法と体制の創出をめざすというチャレンジングなプロジェクトであるがゆえの課題は尽きないが、関係者一同の尽力により成果が徐々に発現していることは評価に値する。

PDMと実施計画(PO)に基づいた活動自体は実施されてきているものの、それらがプロジェクト目標である「貧困削減に向けた持続的農村開発実施体制の整備」に適切に結び付いていない部分もある。複数の機関による事業実施体制も、現状では当初めざしたレベルに至っていない。

コンポーネントごとの問題点は次のように指摘できる。「①人材育成」については、プロモーターの交代や関連省庁からのC/Pの配置の遅れなどによりその達成が十分ではない。「②総合農村開発戦略と開発手法」については、現状では関係組織、関係者間の開発戦略についての十分な共有化がなされておらず、戦略上での位置づけが明確とはいえない状況のまま各事業が実施

されている。そのためか、パイロット・プロジェクトは各集落、地区の状況に適応した開発手法の模索と検証を目的としていたにもかかわらず、現状では同一内容のECAが全モデル集落で行われているなど、目的からみると整合性に欠けた活動となってしまっている。またマルチセクターによる総合農村開発を標榜している本プロジェクトではあるが、環境、教育、保健分野のパイロット・プロジェクトなどへの参画度合いは低く、プロジェクトのコンセプトである「総合農村開発による集落住民の生計向上」への基盤が構築されつつあるとは言い難い。「③事業実施資金」では、開発戦略に基づく中期計画実施に向けた資金計画策定と関係機関への申請を計画していたが、未着手の状況となっている。「④組織横断的体制」では、チンボラソ州政府と4省庁（農牧漁業、環境、保健、教育）との協調体制は整備されてきているが、具体的な連携事業の企画立案とその実施という域にまでは達していない。

3-6 提言

- (1) 本プロジェクトの協力期間は2011年2月までとなっているが、目標である「貧困削減のため持続的農村開発実施体制の整備」をより確実にするために、合同評価委員会として半年間の協力期間延長をC/P機関及びJICA本部に対して提言する。その延長期間の活用で農民学校を中心とするパイロット・プロジェクトの完全実施とモニタリング・評価を通じた適切な開発手法の検証及び2011年以降の本格事業の開始に向けた準備業務（開発事業実施体制強化、事業資金調達、モデル集落の選定、地方政府のプロジェクトへの参画に向けた協議など）を行うことを提案する。
- (2) 「チンボラソ県持続的総合農村開発戦略」の詳細化を行い、C/Pによる全体的戦略の策定能力の強化、及びC/P間の「持続的農村開発戦略」の目的の共有の強化を行う必要がある。具体的には、全体戦略の目標・上位目標の修正、全体戦略及びセクター戦略のベースラインと指標の設定を行い、持続的総合農村開発戦略の実施により達成される対象地域の将来像を明確にする。
- (3) 「持続的総合農村開発戦略」の詳細化に従い、事業計画の詳細化を行う必要がある。具体的には、適切な技術を使いながら、各事業計画の戦略との整合性の明確化、各計画のベースラインと指標の設定、各事業の主要実施機関の参加・調整・役割と対象地域の明確化、各事業の実施手法（ECAとECA以外）の明確化を行う必要がある。
- (4) 事業計画に基づく年度計画は、集落住民の参加と技術面での適切な動機づけを促進し、合意に基づき決定したうえ、過去の経験、事業の各対象地域の現状・ニーズ・リソースを考慮して個々に計画される必要がある。
- (5) アンデスの伝統的な技術、祖先から伝わる知識及び作物の復興や、集落のポテンシャルを可能な限り生かした収入源創出に向けた事業の企画・立案を行い、実行する必要がある。
- (6) 開発計画の作成に基づき、GADPCH及び各省の予算計画を作成し予算の確保を行う必要がある。今後の戦略内での活動の拡大・対象集落の拡大を踏まえ、各省の中央機関の予算管理部門と調整し、各省内での予算化（開発計画実施のための予算項目の創設など）を図る必要がある。

(7) 戦略及び開発計画実施のための人員の継続的な割り当てを徹底する必要がある。具体的には、各関係機関のC/P、プロモーター、長官会議の定期的な開催と、各機関からの出席者の継続化（可能な限りの固定化）である。プロモーターについては新規着任者への研修と前任からの引き継ぎのための十分な時間を確保する必要がある。長官会議が十分な機能を果たせるように、各関係機関の権限をもった者が継続して出席する必要がある。

3-7 教訓

(1) 本プロジェクトでは、プロジェクトのコンセプトやPDMの解釈、パイロット・プロジェクトの位置づけについて、必ずしも関係者の認識の統一が十分に図られていなかった。持続的開発のための実施体制の整備に関するプロジェクトでは、プロジェクトの方針やめざすものが抽象的になりがちであるので、住民から地方自治体、関係省庁までを含めた関係者の中で、プロジェクトのコンセプトを可能な限り具体的に共有することが重要である。そのためには、PDMやPOを誰が見てもわかりやすい表現で作成すること、PDMやPOの記載内容について共通認識を得ておくこと、指標を具体的に設定することが必要である。また、コミュニティの人々にまでプロジェクトのコンセプトを伝えるため、PDM、POのみならず、必要に応じ、プロジェクトのコンセプトや持続性に向けた実施体制などを、概念図やイメージ図などで示し共有することが有効である。

(2) 本プロジェクトは、実施体制の整備を図るものであったが、エクアドル側C/Pの配置が遅れ、組織間連携が十分に機能できる実施体制整備が遅れた。開発の実施体制整備をめざすプロジェクトでは、効果的な組織間連携の促進が重要である。組織間連携を促進するためには、プロジェクト開始時から、各セクター関係機関のアクターすべてが揃い、問題分析、開発戦略策定などの作業を共に行うことが有効である。そのためにも、プロジェクト開始時に、各機関のC/Pが配置されていることが必要である。

(3) プロジェクトの自立発展性を高めるためには、コミュニティの有識者との対話を通して、国・地域レベルの開発ビジョン、地域の習慣、伝統、自治体制を把握し、これらを尊重して行政・コミュニティの共同による参加型計画を行うことが有効である。

Summary of Terminal Evaluation

1. Outline of the Project	
Country: Republic of Ecuador	Project title: Project of Capacity Development for Promoting the Sustainable Integral Rural Development for Poverty Reduction in Chimborazo Province
Issue/Sector: Rural Development	Cooperation Scheme : Technical Cooperation Project
Division in Charge: Rural Development Department	Total cost (As of August 2010) : Total : 150 million yen
Period of Cooperation: February 2009 – February 2011	Partner Country's Implementing Organization : Prefectural Government of Chimborazo (GADPCH), Chimborazo Provincial Department of the Ministry of Agriculture, Livestock, Aquaculture and Fisheries (MAGAP), Regional Department of the Ministry of Environment for Cotopaxi, Chimborazo, Tungurahua and Bolivar (MIA), Chimborazo Provincial Department of the Ministry of Education (ME), Chimborazo Provincial Department of the Ministry of Public Health (MSP)
	Supporting Organization in Japan: None
	Related Cooperation: None
1-1 Background of the Project	
<p>Chimborazo Province is located approximately in the centre of Sierra (mountainous) area of 400,000 populations in the Republic of Ecuador. Poverty is especially serious as compared to other 9 provinces in Sierra and the population below poverty line accounts for 54.9% in the total provincial population (2009, National Institute of Statistics and Census). Major factors of poverty are low income of agriculture, the major income source, and low living environment due to poor conditions of education, health, and basic infrastructure.</p> <p>To reduce poverty caused by such complicated factors, it is necessary that GADPCH and related agencies such as MAGAP, MIA, ME, and MSP perform planning, implementation, operation and management, and evaluation from a mid- and long- term perspective. However these agencies do not have much experience to perform such administration in collaboration, therefore, technical cooperation project aiming at establishing a system to perform a series of the above administration and to implement integrated sustainable rural development was requested to Japan. Based on the request, the Project of Capacity Development for Promoting the Sustainable Integral Rural Development for Poverty Reduction in Chimborazo Province was launched in February 2009 for planned period of two years, with GADPCH, MAGAP, MIA, ME, MSP, and promoters assigned in GADPCH as counterpart. It is necessary to establish an administration system through human resource development and development plan formulation as a first stage, and then, to establish and sustain an implementation process of rural development programs as a second stage. This project aims to establish an administration system as the first stage.</p>	

1-2 Project Overview

- (1) Overall Goal: In the Province of Chimborazo, projects for integrated sustainable rural development aiming at poverty reduction are implemented
- (2) Project Purpose: In the Province of Chimborazo, the institutional capacity is developed to implement integrated sustainable rural development aimed at poverty reduction.
- (3) Output:
 - Output 1: Capacity of GADPCH, the ministries involved and related organizations to analyze the problems associated with integrated sustainable rural development is enhanced.
 - Output 2: Capacity of GADPCH, the ministries involved and related organizations to prepare plan associated with integrated sustainable rural development is enhanced.
 - Output 3: Capacity of GADPCH, the ministries involved and related organizations to implement, operate and manage projects for integrated sustainable rural development is enhanced.

1-3 Inputs (As of August 2010)

<Japanese side>

Long-term expert 2, Short-term expert 6 in total, Acceptance of trainees 2 in Japan and 13 in Bolivia

Equipment supplied Total amount of US\$ 86,113 (Vehicles, projectors, etc.)

Local Cost 7,422,000 yen (US\$1=JPY85.2: as of 12 August 2010)

<Ecuadorian side>

Counterparts (CP) 18 (except promoters), Local cost US\$131,106 (Total of GADPCH and four ministries)

2. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	1. Mr. Narihide Nagayo (Team Leader), Senior Advisor, JICA	
	2. Mr. Yoshifumi Yamanaka (Planning Administration), Program Officer, Field Crop Based Farming Group, Rural Development Department, JICA Headquarter	
	3. Ms. Erika Tanaka (Evaluation and Analysis), Senior Researcher, Global Link Management Inc.	
	4. Ms. Yuko Yagi (Interpreter)	
Period of Evaluation	July 25, 2010 –August 14, 2010	Type of Evaluation : Terminal evaluation

3. Results of Evaluation

3-1 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

Relevance is high in terms of needs and policy in Ecuador and Japanese Official Development Assistance (ODA) policy. Project design is basically relevant except some points.

People in rural area in Chimborazo Province lead a severe life with problems in agricultural production, literature, health, and environmental protection and integrated sustainable rural development is important. To implement effective integrated sustainable rural development, it is important that GADPCH and related agencies such as MAGAP, MIA, ME, and MSP tackle the issues in collaboration, respecting initiative of people at the same time. Collaboration system is yet in the process of being established and the needs to strengthen the system of integrated sustainable rural development are high.

In the development plan of Ecuador, “Plan Nacional para el Buen Vivir (PNBV) 2009-2013”, improve-

ment of quality of people's living is pointed out as Objective 3 and promotion of decentralization and strengthening of planning and operation are listed as Strategy 8.9. In the trend of promoting decentralization, the direction of the Project, which aims at improving living with GADPCH as a key actor, is relevant. In addition, GADPCH recognizes that the integrated sustainable rural development strategy formulated by the Project is consistent with the direction of the provincial development plan.

The priority areas of Japanese ODA towards Ecuador are poverty reduction, environment protection, and disaster prevention. Poverty reduction includes rural development, improvement of education, and improvement of health and hygiene. The Project is consistent with poverty reduction and includes environmental protection.

The planning process of the project design is appropriate. In the ex-ante evaluation, a workshop was held with participation of officials of wide-range departments in Chimborazo Province and community people to hear opinions. The Project plan was formulated with agreement of related stakeholders.

The Project is designed to strengthen administration system of related organizations in terms of information analysis, planning and implementation, which is appropriate to establish administration system. The Project is designed so that it provides an opportunity of "training" to plan and implement integrated sustainable rural development strategy in practice, including formulating the strategic plan and implementing pilot projects. Pilot project is planned to verify the relevance of methods related to integrated sustainable rural development, which is appropriate. However, the meaning of pilot project is not clearly described in the current PDM and common perception on how to utilize the results of pilot projects is not clearly formed among stakeholders.

(2) Effectiveness

Effectiveness is high to some extent.

The indicators of Project Purpose is being gradually achieved but not to the expected level at the time of the Terminal Evaluation. One of the indicators of Project Purpose "A team in multi sectors for implementation of enterprises is formed by GADPCH, ministries involved and related organizations" is being achieved as the development program implementation team is formed and start functioning in the sense that necessary issues are discussed at regular meeting. However some remaining challenges can be pointed out, for example, promoters are not employed on a permanent basis and monitoring and evaluation of pilot project are not performed and its system is not discussed yet. The capacity of the team to smoothly and effectively implement development program (or action plan) is not sufficient yet. As for the second indicator "The budget for implementation of enterprises based on the integrated sustainable rural development strategy is allocated", GADPCH is proceeding regular budgeting but four ministries involved have not launched securing budget as counterpart fund.

The indicators of Outputs are being achieved for activities which have been completed at the time of the Terminal Evaluation. It is considered, however, that the capacity of CP organizations should be further strengthened in terms of information analysis and planning although baseline survey and integrated sustainable rural development strategy is completed. Improvement of implementing capacity cannot be clearly judged as the activities are not finished. Pilot project are producing benefits in model communities.

The logic from Output to Project Purpose is appropriate. Administration system requires a series of process of situation analysis, planning, and implementation, which are appropriately formulated in the Project design.

(3) Efficiency

Efficiency is high to some degree.

The Japanese side dispatched experts with appropriate expertise as was planned. Both long-term and short-term experts have appropriate expertise and executed their duties appropriately. In the Project to establish administration system, dispatch of experts in the combination of long-term experts engaged in overall administration and CP capacity development and short-term experts specialized in core activities of the Project was appropriate. However, as the Project involves a wide range of stakeholders, two long-term experts are quite tied up with administrative and procedural works and sometimes it is difficult to spend enough time on activities of capacity development on problem analysis and planning and on monitoring of pilot projects. Furthermore, appropriate technical transfer on soil conservation and income generating activities has not been sufficiently performed.

Equipment was provided appropriately in general. The main equipment is for basic activities of the Project, such as office equipment and vehicles.

Two officials, Governor and Director of Public Works at GADPCH, were dispatched to training in Japan. This was effective to deepen understanding of CP organizations towards the Project and to promote smooth Project implementation. However, from a perspective of establishing administration system, it would have been more effective if officials directly engaged in problem analysis, planning, and implementation had been dispatched. Officials of GADPCH, promoters and people in model communities were dispatched to third-country training in Bolivia. All the participants learned about importance of soil conservation and appropriate agricultural technology, through the comparison with Bolivian situations. Three promoters participated in the training in Bolivia, but if they are replaced after one-year employment, it will affect efficiency.

Local cost from the Japanese side was disbursed timely.

CP allocation by the Ecuadorian side was delayed. CPs from four ministries have been officially appointed in March 2010 and have been assigned almost steadily since then. Salaries of CPs have been paid by each organization since the beginning of the Project. Allocated CPs have appropriate experiences, abilities, and high motivation, contributing to the progress of the Project and achievement of outputs. Promoters were selected among community by recommendations. Some of them did not fill the requirements set by the Project, such as agriculture experiences and motorcycle license, but the majority of them speak indigenous language and make contribution to smooth implementation of activities in model communities. The fact that the promoters are employed on a contract basis of one year gives a considerable influence on effective activities.

GADPCH provides Project office as well as a working room for promoters. The Project office is too small for all the involved CPs to work together. GADPCH also provides utility charges of the Project office, office supplies, and fuel of vehicles. ME provides salaries for instructors and cost for textbooks for literacy and post-literacy programs, and MSP provides cost for medical check-up caravan from their regular budgets.

Implemented inputs of both sides are utilized appropriately in general. Four motorcycles provided to monitoring by promoters have not used yet partly because they are still under registration procedure and partly because no promoters have motorcycle license. Other inputs are utilized appropriately.

(4) Impact

The prospect of the achievement of Overall Goal cannot be clearly judged at the time of the Terminal

Evaluation.

As for the indicator of the Overall Goal “The action plans based on the strategy of integrated sustainable rural development of the Province of Chimborazo are implemented”, formulation of action plans have not been launched yet, therefore, it is difficult to tell the possibility of its achievement. As the Project Purpose “institutional capacity to implement integrated sustainable rural development” is being achieved, there is a good prospect of achieving the Overall Goal if the activities are continued.

The logic from Project Purpose to Overall Goal is appropriate. If the administration system is established, including budget, and necessary actions are taken during the project period, it is likely that the action plans will be formulated in two or three years after the Project purpose is achieved.

One of External conditions, “The structure and functions of GADPCH, ministries involved and related organizations do not suffer major changes”, is fulfilled currently. However, as it is expected that, in the process of decentralization, the roles and responsibilities of provincial government and related organizations may be changed, it is necessary to observe the trend of decentralization in the future. Another External conditions, “The budget and human resource are secured to implement pilot projects”, is closely related to one of the indicators of the Project Purpose, therefore, the expression is not appropriate as External conditions. It is advisable to modify the phrase to, for example, “The overall budget of related agencies is not reduced” and to conduct monitoring of the situation.

There is not much impact other than achievement of Overall Goal. At the time of the Terminal Evaluation, expansion of pilot project activities has not been reported. In ECA (Farmers Field School/Escuela de Campo de Agricultores) implemented in pilot project, the majority of participants are women, which can be said as an impact on gender. No negative impact has been observed so far.

(5) Sustainability

Sustainability can be expected to some extent although efforts to enhance sustainability are necessary.

Sustainability is high in terms of policy. Collaboration and coordination among multi-sectoral agencies are priority issues in the current government and expected to continue to be priority. As PNBV is a plan up to 2013, the current policies and system are expected to be sustained at least until 2013.

Technical sustainability can be expected to some degree although it is necessary to strengthen the capacity of related organizations and personnel. The methods of PCM and participatory planning are gradually strengthened among CPs, while it may take a little more time to establish the capacity of planning, implementation, and monitoring, and to establish administration system. CP allocation at working level has been relatively stable since 2010 and assigned CPs are actively involved in the Project.

One concern is that there is not common understanding among related stakeholders in regard to the meaning of pilot project, i.e., verification of relevance of development method. It is another concern that monitoring system of pilot projects is not clear and that method to reflect the results of pilot activities in larger-scale programs and in improvement of administrative system is not clear either. Furthermore, strategies to continue pilot projects after the pilot period have not been sufficiently discussed. The one-year based employment of promoter is also a serious issue. In addition, some of the CP members do not understand the concept of ECA correctly. To enhance sustainability, it may be effective to provide correct and common perception of ECA among related stakeholders.

Financial sustainability can be expected to some degree but not very certain. The Project does not require much cost except for pilot projects, and even in pilot projects, activities being implemented do not require much financial inputs. GADPCH is planning to provide about half of the budget of pilot projects and

to have policy to secure regular annual budget for pilot projects. Four ministries have not allocated budget to implement integrated rural development strategy as CP fund. At ME, pilot project activities are incorporated into annual plan and expected to continue. It is also important that the model communities try to discuss schemes to secure activity cost without government financial support.

3-2 Factors that promoted and impeded realization of effects

(1) Planning

One of promoting factors is that establishing collaborative administration system towards sustainable integral rural development is consistent with Ecuadorian policy and efforts had been already in process. Impeding factor is that stakeholders do not have common perception in regard to PDM, pilot project, and ECA.

(2) Implementation

Promoting factor is that CPs were officially appointed upon recommendations by the Advisory Mission in November 2009, and have been stably assigned since then. Positive involvement of stakeholders is another promoting factor. This is partly because central offices of each CP ministry signed R/D and support the Project. In addition, people in model communities are actively participating in pilot projects. Impeding factor is the delay of assignment of CPs. Another concern is that promoters are employed only on a contract basis of one-year.

3-3 Conclusion

The ultimate objective of the Project is to improve the living of community people in Chimborazo Province through self-efforts of Ecuador. The Project is implementing activities towards effective development of methods for poverty reduction and towards establishment of administration system under the keywords of self-efforts and sensitization. The fact that the Project is challenging leave considerable amount of issues yet to be tackled, however, it is worth appreciation that outputs are gradually being produced thanks to efforts of all involved.

Nonetheless, activities are not always proceeding as expected and more efforts of related organizations and personnel are necessary to achieve the Project Purpose. Although activities are being implemented based on PDM and PO, their outputs have not smoothly produced the achievement of the Project Purpose, "Institutional capacity is developed". The capacity of administration system comprises of four components, that is , 1) human resources with capacity of problem analysis, program formulation, and program implementation and management, 2) development method to realize commonly accepted integrated rural development strategies effectively and efficiently, 3) funds to implement activities, and 4) cross-sectoral administration system. None of four have not been achieved up to the originally expected level.

Problems of each component can be described as below. As to 1) human resource development, it is not achieved because of replacement of promoters and delayed assignment of CPs of involved ministries. In regard to 2) integrated rural development strategy and development methods, development strategies have not been commonly understood among involved organizations and personnel, and activities are being implemented without clear positioning within the framework of development strategy. Therefore, in spite that pilot projects were aimed at development and verification of development methods appropriate for situations of each model community, currently the same contents of ECA are being implemented in each community, which is not consistent with the objective of ECA. In addition, although the Project aims for multi-sectoral integrated rural development, the level of participation of stakeholders in the areas of environment, educa-

tion, and health is still low, and it is difficult to say that foundation for the improvement of living of community people through integrated rural development is established. For 3) funds for program implementation, planning of funds towards mid-term program implementation based on development strategy has not been launched yet nor application of the funds to related agencies. As for 4) cross-sectoral administration system, collaborative system among GADPCH and four ministries (MAGAP, MIE, ME, MSP) is being developed, but not up to the level where related organizations formulate and implement specific activities in collaboration.

Although the Project is planned to be terminated in February 2011, it is requested to CP organizations and JICA headquarters to extend the project period for six months to assure the achievement of the Project Purpose “Institutional capacity is developed”. It is recommended, during the extended period, to completely implement pilot projects, focused on ECA, to examine appropriate development methods through monitoring and evaluation, and to make preparations for launching the full-scale operations after 2011, including strengthening rural development system, project funding, selection of model communities, and discussions on involvement of local governments into the Project.

3-4 Recommendations

1. It is necessary to make integrated sustainable rural development strategy in Chimborazo Province more detailed, to strengthen planning capacity of overall strategy, and to foster common understanding of the objective of the integrated sustainable rural development strategy”. Specifically, it is recommended to modify the objective and overall goal of the rural development strategy, to set baseline data and indicators of overall strategy and sector strategy, and to clarify situations of target communities expected after implementation of the integrated sustainable rural development strategy.
2. It is necessary to make more detailed action plan based on the detailed strategy. It is necessary to clarify consistency of each action plan with the strategy, to set baseline data and expected indicators, to clarify participation, coordination, roles, and target communities of each action plan, and to clarify implementation methods of each action plan.
3. It is necessary to formulate individual annual plan of the action plan, through promotion of participation of community people and appropriate technical motivation, decision-making upon agreement, and situations (past experiences, needs, resources, potential) of target communities of each action plan.
4. It is necessary that CPs confirm the positioning of pilot projects in the framework of the Project. Specifically, it is necessary to modify the contents of pilot projects, taking into account not only the verifiability of pilot projects in terms of the strategy, development methods, and administrative system, but also expansion and development of the outcome of pilot projects into activities in the following years. It is also necessary to clearly define the methods of monitoring and evaluation of pilot projects and timing of monitoring and evaluation.
5. It is necessary to design and plan activities towards income generation through restoration of traditional Andean technologies and utilization of knowledge and crops transmitted from ancestors. It is also necessary to clarify, in action plans, expansion of ECA activities to other communities and expansion of ECA activities to other people in the model communities.
6. It was confirmed that appropriate technical guidance is not sufficient in current pilot project, especially income generation of communities and soil conservation of part of model communities. It is necessary to implement technical inputs to implement the strategy, action plans, and pilot project in the above areas.

7. It is necessary to formulate a budget plan at GADPCH and involved ministries and to secure the budget, based on the action plan. It is especially urgent to secure budget for activities to be implemented in 2011. It is also necessary to systematize budgeting of CP funds at each ministry, through coordination with budgeting sections of each ministry at central level, with consideration to future expansion of activities and target communities within the framework of the strategy.
8. It is necessary to strictly implement continuous personnel allocation to implement the strategy and action plans. Specifically it means continuous assignment of CPs, promoters, and personnel who attend the directors' meetings of the Project. It is required that each involved organization continuously allocate sufficient number of full-time CPs, taking into account future expansion of activities and target communities. As for promoters, it is necessary to provide training to new personnel, to secure sufficient time to transfer of information from the predecessor, or to establish a system where continuous employment of promoters is possible through coordination with local governments. It is necessary that each ministry send a responsible person to directors' meeting so that the meeting is operated with expected functions.
9. It is necessary for the involved organizations of the Project to share the strategy and action plans with local governments, and to establish administration system in collaboration with existing related organizations, so that they can expand activities, make preparations to increase target communities, collect information on communities quickly, and implement activities timely and suitable to the needs.
10. It is necessary to make preparation toward the full-scale operation expected to be launched in 2011, including strengthening administration system, funding, selection of model communities based on parameters and appropriate analysis by the Project, and discussions to involve local governments into the Project.

3-5 Lessons Learned

1. Even for a project targeted for specific regions, the involvement of central office of involved agencies is important. The role of central government is important in terms of personnel allocation and budget provision, for example. It is important to promote information sharing among local CP organizations and central office on a daily basis and to send participant(s) of central level to meetings such as Joint Coordinating Committee. Among central offices, it is desirable to get involvement of sections concerning to formulation of programs and budget.
2. As it is likely that the policy and goals of the Project become vague in a project to establish administration system toward sustainable development, it is important to have common and concrete concept of the Project among community people, local governments, and related agencies. To realize this, it is necessary to formulate PDM and PO in clear expressions so that anyone can easily understand, and to define specific indicators. It is effective to express project concept and management system toward sustainability in conceptual diagrams and simplified illustration and to share them among stakeholders.
3. It is important to promote effective coordination among involved organizations in a project aiming at establishment of administration system toward improvement of living. To promote coordination, it is effective that all the stakeholders in involved organizations of each sector get together at the beginning of the project and implement activities such as problem analysis and strategy formulation. For this, it is necessary that CPs of each organization are assigned at the start of the project.
4. In a technical cooperation, where multi-sectoral organizations work in collaboration to solve challenges such as improvement of living of people in poor communities, it takes time to establish administration

system. Project design as in this Project is effective, where coordination among involved organization is promoted and administration system is sufficiently strengthened in the first stage, then, full-scale activities are launched to solve the challenges in the following stage.

5. To enhance sustainability of a project, it is necessary to respect local customs, tradition, and leaders, through dialogues with informed persons, from a global vision, and to implement participatory planning from a community as an intervention unit.

第1章 プロジェクトの概要

1-1 プロジェクト名称

チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

1-2 プロジェクト期間

2009年2月24日～2011年2月23日

1-3 プロジェクト対象国、対象地域

対象国：エクアドル共和国

対象地域：チンボラソ県（コルタ郡、グアモテ郡、リオバンバ郡）

1-4 裨益者

チンボラソ県3郡の対象集落住民（各郡2集落、計6集落）

1-5 プロジェクト実施機関

チンボラソ県政府（GADPCH）、農牧漁業省（MAGAP）、環境省、教育省、保健省

1-6 協力の背景

エクアドル共和国（以下、「エクアドル」と記す）は、石油、バナナ、コーヒー、エビなどの輸出を通じて安定的な経済成長を遂げているが、まだ国民の38.3%が政府の設定する貧困ライン（56.6米ドル/月）以下（消費・所得による貧困指標）にあり、特に農村部に多く居住する先住民民族における貧困率は61.5%と高くなっている〔2005年11月～2006年10月、国家統計調査局（INEC）〕。また、これら貧困層の多くは小規模な農業を生活の糧としているが、農業による一家族の年間収入が1,000米ドルに満たないため、出稼ぎにより生計を立てている農家もいる。

エクアドル国チンボラソ県は、人口約40万人のシエラ地域（エクアドル山岳地帯）のほぼ中央部に位置する地方県である。このチンボラソ県は、シエラ地域10県のなかでも深刻な貧困問題を抱えており、貧困ライン以下の人口が県総人口の54.9%を占めている〔2009年、エクアドル国家統計調査局社会指標統合システム（SIISE/INEC）〕。

貧困の主な要因としては主要な生計手段である農業所得の低さに加え、教育、医療及び基礎インフラの未整備による劣悪な生活環境が挙げられる。また、過度の森林伐採や気候変動により水源涵養力の低下及び土壌浸食が引き起こされ、農業生産性の低下及び生活環境の悪化を招いている。不適切な農業計画により、ある生産物が1年のある時期には過剰になり、またある時期には不足する、という状況が起こっている。このため、中間業者から農民への支払い額は低く抑えられ、市場価格が不安定になっている。ほかに、生産に大きな影響を与える要因として、気候変動がある。

このように複合的な要因からもたらされた貧困問題の軽減のためには、GADPCH、MAGAP、環境省、教育省、保健省関係機関が中長期的な視点に基づく各種事業の企画、実施、運営・管理、評価等を実施する必要がある。しかし、関係機関はこうした事業を協調して行う経験が十分にないことから、上記一連のプロセスを実施し、関係機関が持続的総合農村開発を実施するため

の体制の整備を目的とした協力を日本に要請した。

持続的総合農村開発を実施するためには、人材育成及び開発計画の策定を通じた実施体制の整備を第1段階として行い、農村開発事業の実施プロセスの確立及び実施体制の定着を第2段階として行う必要がある。そこで本プロジェクトではその第1段階として人材育成及び開発計画の策定を通じた実施体制の整備を行う。また、農村開発事業の実施プロセスのモデル化及び実施体制の定着に係る協力を後継案件（フェーズⅡ）として形成する予定となっている。

この要請を受けて、JICAは、2009年2月より2011年2月までの予定でGADPCH、MAGAP、教育省、環境省、保健省のカウンターパート（C/P）及び県に配属されるプロモーター（6名）をC/Pとして「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を開始した。

第2章 終了時評価概要

2-1 終了時評価の目的

今般、プロジェクト協力期間終了の6カ月前に至ったことから、技術協力の開始から現在までの実績と計画達成度を討議議事録(R/D)、実施計画(PO)及びプロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)等に基づき、評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト及び自立発展性)に沿って日本側・エクアドル側合同で総合的に調査、評価するとともに、プロジェクト終了までの活動計画や今後の協力の枠組みの修正に向けた提言・教訓を抽出するため、終了時評価調査を実施した。日本側の調査団とエクアドル側評価チームで合同評価委員会を構成し、現在までの活動内容やその成果・効果等について、計画に対する達成度及び評価5項目の観点から評価する。

また、その結果を踏まえ、プロジェクト実施上の問題点や、今後のプロジェクト活動について協議し、合同評価報告書に取りまとめ、両国政府関係機関に報告・提言する。

2-2 終了時評価の方針

2-2-1 政策上の配慮事項

新憲法及び新国家計画等の策定により地方分権化が推進されるなか、プログラム及びプロジェクトの基本的な方針に変化はないものの、今後の政策が具体的に進むなかで、プロジェクトとの整合性に留意することが必要である。プログラム及びプロジェクトに関係すると思われる各種政策・計画とその主要なコンセプトを以下にまとめる。

(1) 新憲法(2008年10月)

- ・ Buen Vivir(良い生活)が中心的な柱
- ・ 基本原則としての貧困削減
- ・ 食料主権(食料自給率の向上、食料安全保障)への注力
- ・ 地方政府が地域開発の実施主体。特に地方レベルの地域開発は県が主導

(2) PNBV(Plan Nacional para el Buen Vivir) 2009-2013

- ・ 12の目標(8つが貧困削減に関係)
- ・ テリトリー・フォーカス・アプローチによる地域開発(新たな7ゾーンの設置)
- ・ 国・地方・受益者・民間などすべてのアクターによる協調・役割分担に基づく開発

(3) EBVR(Buen Vivir Rural; 農村での良い生活)

- ・ PNBVを受けたMAGAPの政策・戦略の方向性を示す
- ・ 「農村=農業」ではなく、マルチセクターに及ぶ「農村開発」の中心的な政策機関としてのMAGAP

(4) テリトリアル計画

- ・ PNBVを受け、パロキア¹、市レベルにおけるテリトリアル計画の策定が開始されている
- ・ 県はパロキア、市のテリトリアル計画を受けて策定される予定

¹ エクアドルは、県(provincia)ー郡(municipioまたはcanton)ーパロキア(parroquia)という行政単位となっている。

政策状況

新憲法 2008年9月

- ・第一章 基本原則 : 貧困削減
- ・第三章 食料主権 : 自給率向上、食料安全保障
- ・実施主体を地方政府に移管

PNBV2009-2013(Plan Nacional de Buen Vivir)

- ・経済・生産・農業革命(資源配分の大幅な再編)
- ・テリトリー戦略、ゾーン活動の予定: 7ゾーン新区分
- ・12の目標(8つが貧困削減に関係する)
- ・地方分権の強化: 県・市・パロキアのテリトリアル計画
全関係アクターの参加

EBVR (Buen Vivir Rural)

- (1) テリトリー・フォーカス・アプローチを基盤とする農村開発
- (2) 生産の民主化: 家族農業の促進を最重視
- (3) 横断的テーマとしての複数民族・間文化性

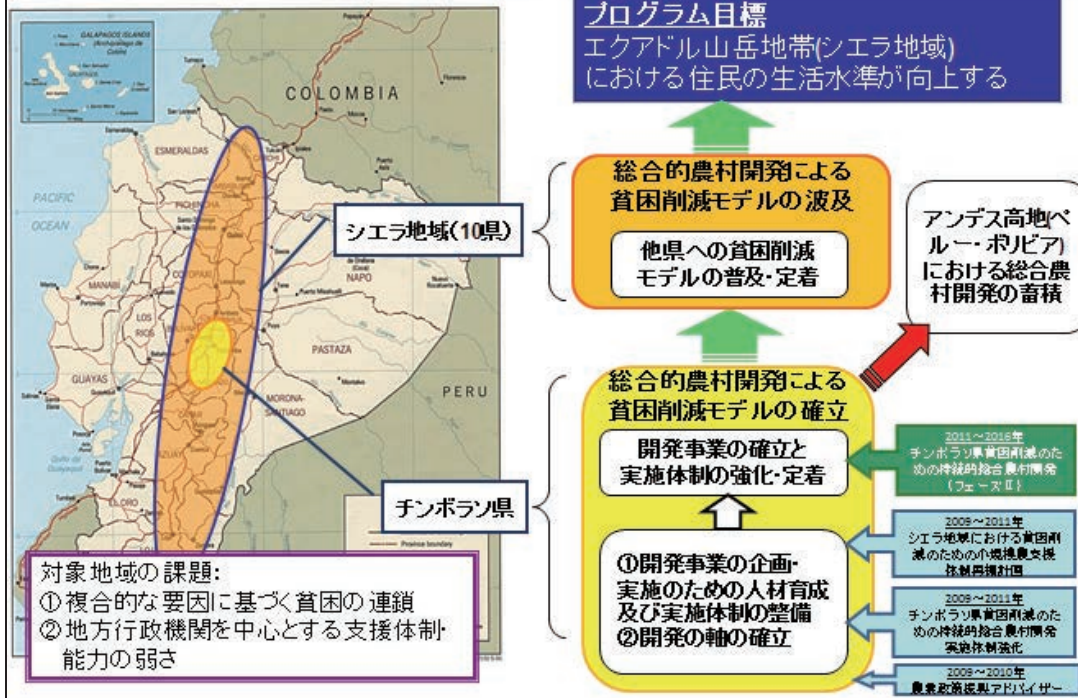
- ・「農村＝農業」というセクター一辺倒の手法に代わり、農村世帯の雇用創出と所得向上に資する農村部の「総合的な経済戦略」: 農業・製造業・サービスの結節(基軸は農牧業)
- ・MAGAPIは「農村開発」の政策・計画策定とFU・評価の実施主体(計画の実施は「地方政府」)
- ・参加型技術革新システム: 「ERA」(Escuelas de la Revolución Agraria)



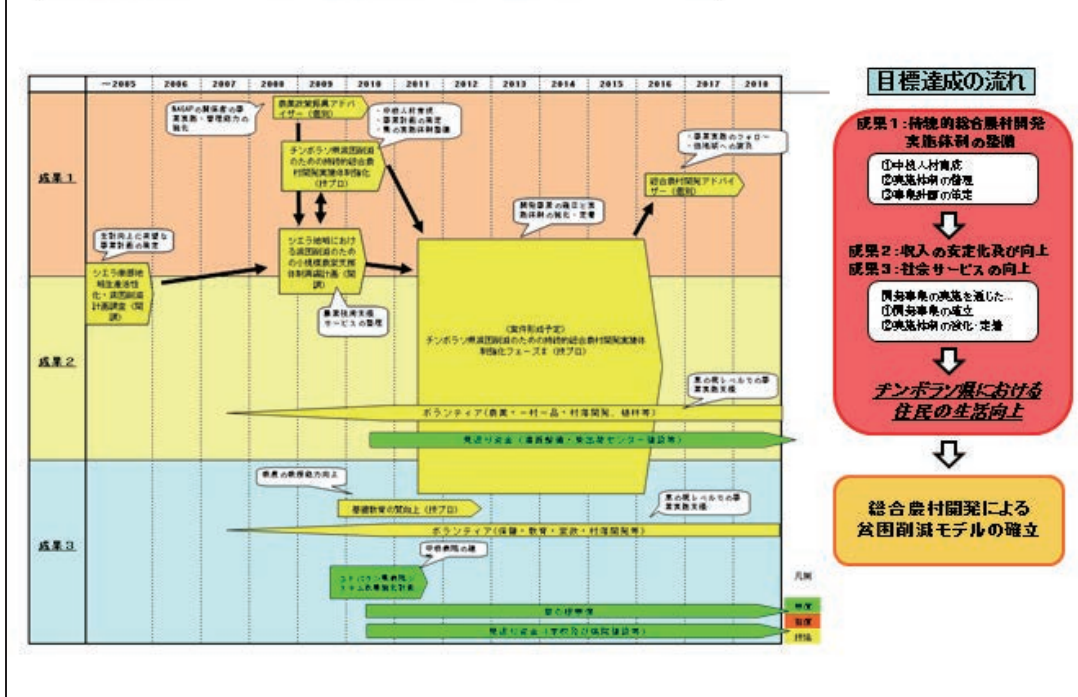
2-2-2 プログラム上の配慮事項

本プロジェクトは「農村部貧困削減プログラム」の中で、持続的総合農村会開発モデルをチンボラソ県にて実施するための基盤に当たるプロジェクトであり、後述する開発調査の成果を活用しながら、フェーズⅡにて本格的な実証事業の試行とシエラ地域への面的な波及を目的とするものである。

農村部貧困削減プログラム①



農村部貧困削減プログラム②



同時並行で実施中の開発調査では、MAGAP と今後地域開発の主体となっていく県・市との協調体制とその役割分担についての提言を行うものであり、その提言を考慮しながら、フェー

ズⅡに向けた実施体制の整備に必要な方策を検討していく必要がある。

(1) 「シエラ地域における貧困削減のための小規模農家支援体制再編計画調査」(2008年2月～2010年8月)について

1) 当初予定

構造調整・地方分権化の影響を受け、農牧漁業セクターの小農支援は複数の行政機関・組織により分散化しており、小農支援サービスを効果的・効率的に行えていない課題を抱えていた。そのため、MAGAPにおける再編案を提示し、中央・地方政府による農業サービスの提示を行うものであった。同再編案は、技プロの「総合農村開発戦略」に沿った農牧セクターの事業実施をMAGAPが協力機関として行う際に活用される予定であった。

2) MAGAPの国家戦略的な位置づけと組織再編による影響後

新憲法の制定を受け、2009年にPNBVが策定され、テリトリー・フォーカス・アプローチによる地域開発が提案され、その実施主体は地方政府(県・市など)とされている(地方分権強化)。なお、2010年12月にはMAGAPのPNBVの下での方向性を示したBuen Vivir Rural(農村での良い生活)では、MAGAPは従来のように農牧漁業セクターだけでなく、「(農牧業を機軸とした)農村開発」の中心的な政策機関となることが明記されている。

以上のような政変の影響を受け、県・市を巻き込み、県・市を小農支援の中心とする協調体制の提案を行っている。同提案の県・市・各省県事務所の協調体制と各組織の役割分担を活用しながら、本プロジェクト及びフェーズⅡにて①県・市主体の農村開発実施モデル、②協調体制モデルの提示を行うことが望まれる。

(2) 「チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト(フェーズⅡ)」(2009年度要望案件)について

本プロジェクトの成果(「総合的農村開発戦略」及び実施体制)を基盤とし、戦略・開発計画の本格的な実施を行うものである。アンデス高地の小農・先住民の共通課題である、水と土の保全を中心課題とし、住民・集落の自助努力による貧困の連鎖の改善と公共事業による生活環境の改善を通じ、チンボラソ県の生活水準の向上を目標とする。また、フェーズⅡを通じて実証された手法・体制が「持続的開発モデル」として構築されることにより、「農村部貧困削減プログラム」の目標であるシエラ地域における住民の生活水準の向上に寄与することが期待される。

戦略に沿い実施中の各事業・対象集落の面的な拡大のほか、農民組織を核とした小規模企業や共同体活動などの活動をフェーズⅡにて実施していく予定である。

したがって、本プロジェクトはフェーズⅡへの円滑な移行のために、戦略と基盤整備(県・市・集落レベル)が行われることが必須である。

(3) アンデス高地総合農村開発に係る国内支援委員会の指摘・助言

「アンデス高地総合農村開発」の適切かつ効率的な推進を目的として「アンデス高地総合農村開発に係る国内支援委員会」が2010年2月に設置されている。エクアドル、ペルー、

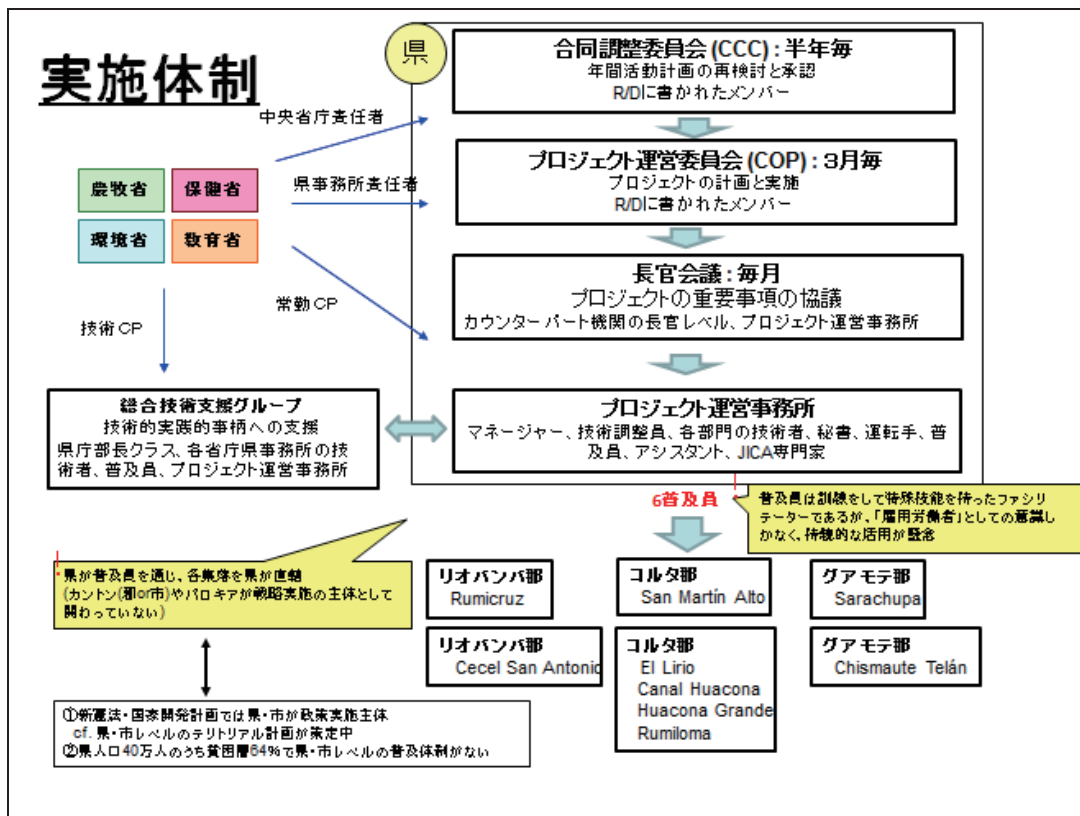
ボリビアの共通課題を検証し、当該先住民等の生計向上をめざした農村開発アプローチの体系化に、本プロジェクトで実施された成果が寄与することが期待されている。

2010年4月の現地調査時になされた主な指摘・助言事項を以下に記す。

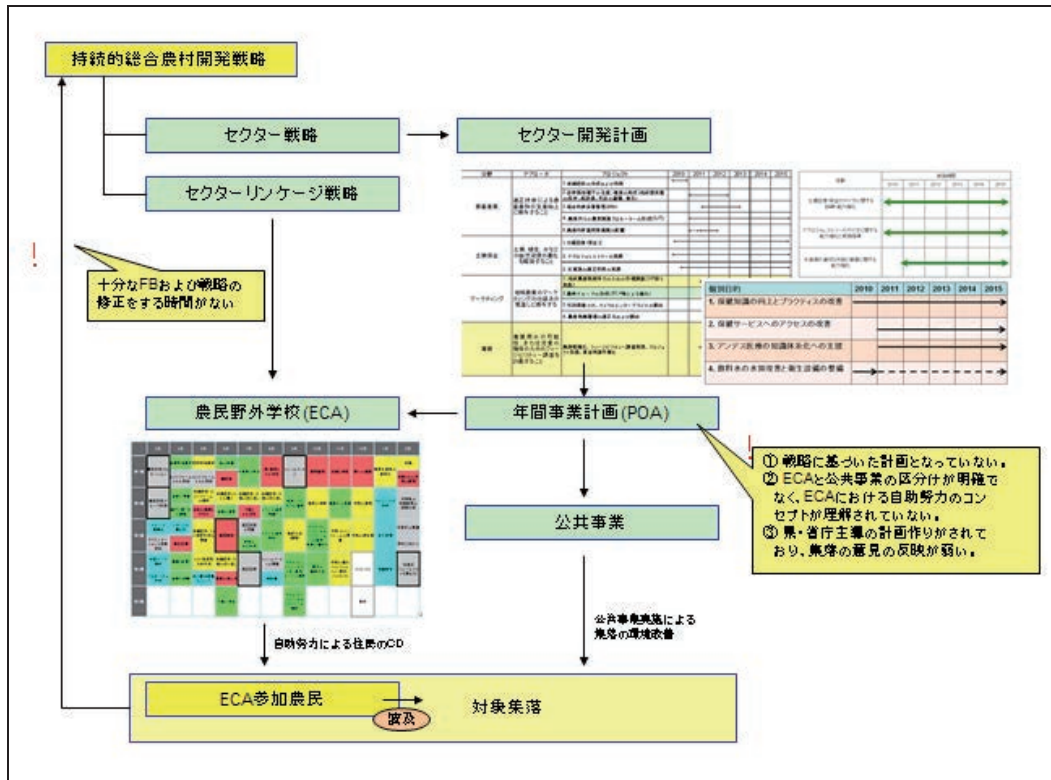
- ・政府（中央、リージョン、県、郡）及びコミュニティの政策・文脈への位置づけ
- ・コンセプトと方法論の明確化（従来の開発手法との差別化）
- ・テリトリーに焦点を当てるアプローチとの親和性
- ・十分な評価・検証を基にしたフェーズⅡへの移行
- ・伝統的な知恵の再評価（例えばチャカレロ）

(4) 調査時の現状と課題

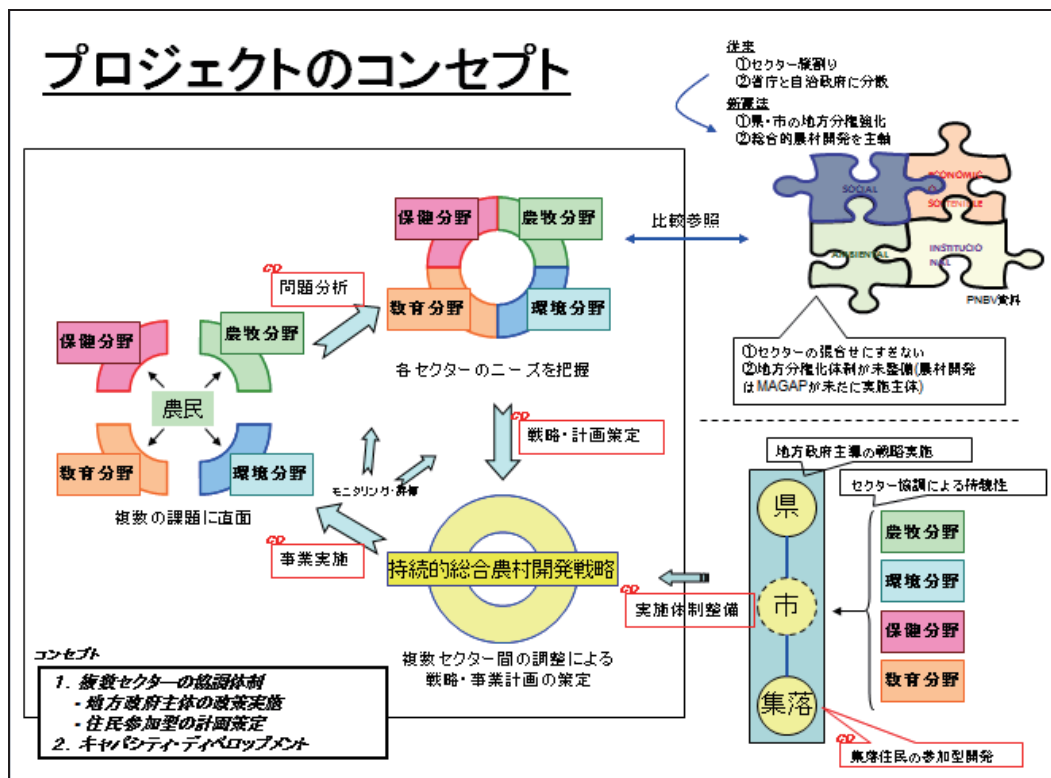
プロジェクトでは県が主体となり、MAGAP、環境省、教育省、保健省との協働となる実施基盤が立ち上げられ、当初はセクター別のワーキング・グループ、現在は各機関からのC/Pから成る「長官会議」と「総合技術支援グループ」が計画の立案・実施の実働部隊となっている。



2010年～2016年の6カ年の「総合的農村開発戦略」は、集落の参加型ニーズ調査と分析の結果を基に、県と各省協働の下で策定された。2010年7月現在、農民野外学校(ECA)の開催を通じた環境、農業、保健、教育に関する基礎知識と技術の普及を中心としたセクターリンケージ戦略と、各セクターの戦略に基づいた集落を対象としたミニ・プロジェクト(植林、二言語教育、巡回診断など)をパイロット・プロジェクトとして実施している。



「総合的農村開発戦略」及びその実施体制はパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価により修正が図られ、本格事業実施のための実施体制が整い、プロジェクト目標が達成されることとなる。



(5) プロジェクト目標達成上の課題

プロジェクトはPDMの活動項目に従って計画どおり実施されている。しかし、政策状況の変遷や実施上の活動遅延によりプロジェクト期間中に十分な目標達成は困難であると考えられる。主な課題は以下の3点である。

1) パイロット・プロジェクトの十分なモニタリング・評価期間の不足

「総合農村開発戦略」の開発手法のひとつであるECAは2010年4月より1年間の予定で本格始動した。ECAが終了するのは2011年4月であるが、本プロジェクトの実施期間は2011年2月となっている。「総合農村開発戦略」及び実施体制はパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価を基に修正が図られるべきであるが、現状では十分なモニタリング・評価期間が不足している。

2) 市・パロキアの参加

本プロジェクトの実施体制は県が中心となり、県が直轄で「総合農村開発戦略」を実施している。しかし、新憲法及びPNBVで、県・市・パロキアが今後策定されるテリトリアル計画に基づき地域開発の実施主体となるなか、市・パロキアの参加がない実施体制は現実的であるとはいえない。今後、パイロット・プロジェクトの実施主体に市・パロキアを巻き込んだ実施体制を見直していくとともに、次年度以降の予算・人員の確保が本プロジェクトの目標達成のためには必須である。(毎年8月には予算申請が行われる。)

3) テリトリー・フォーカス・アプローチを意識した集落の選定

今後エクアドル側が事業を実施するにあたり、対象地域を拡大する予定であるが、各集落の地域性・社会性・環境等にかんがみ、今後対象とする集落を選定する必要がある。十分な分析に基づく集落の選定は、本プロジェクトの活動成果を効率的な拡大にとっても重要である。

2-3 合同評価委員会の構成

2-3-1 終了時評価調査団 (日本側)

分野	氏名	所属
団長／総括	永代 成日出	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員 (ペルー事務所アンデス高地総合農村開発企画調査員)
計画管理	山中 祥史	JICA 農村開発部 第二グループ 畑作地帯第一課 担当
評価分析	田中 恵里香	グローバルリンクマネジメント株式会社 社会開発部 シニア研究員
通訳	八木 優子	個人通訳

2-3-2 エクアドル側評価委員会

氏名	所属
Estefania Mantilla	評価委員（国際協力庁） Comisionada de evaluación conjunta, AGECI (Agencia Ecuatoriana de Cooperación Internacional)
Sahira Ochoa	評価委員（国際協力庁） Comisionada de evaluación conjunta, AGECI
Fernando Romero	評価委員（チンボラソポリテクニク工科大学） Comisionada de evaluación conjunta, ESPOCH (Escuela Superior Politécnica de Chimborazo)
Fernando Heredia	評価委員〔FEPP；エクアドル国民発展財団（NGO）〕 Comisionado de evaluación conjunta, FEPP (Fondo Ecuatoriano Populorum Progressio)
Tabías Ati	評価委員（サンファン・パロキア政府長） Comisionado de evaluación conjunta, Presidenta del gobierno parroquial rural de San Juan

2-4 調査日程

日本側終了時評価調査団の訪問は2010年7月25日から8月12日までの19日間である。（調査日程は付属資料1参照）

2-5 評価手法と評価項目

2-5-1 評価手法

本評価調査は、「JICA 事業評価ガイドライン（2004年2月：改訂版）」に基づき、PDMを用いた評価手法にのっとり実施する。プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法による評価は、①プロジェクトの諸要素を論理的に配置したPDMに基づいた評価のデザイン、②プロジェクトの実績を中心とした必要情報の収集、③プロジェクトの実績と現状及び、「妥当性」「有効性」「効率性」「インパクト」「自立発展性」の5つの評価の観点（評価5項目）からの収集データの分析、④分析結果からの提言・教訓の導出及び報告、という流れから成っている。

表2-1 PDMの概要

上位目標	達成されたプロジェクト目標の貢献が期待される長期の開発目標
プロジェクト目標	プロジェクトの終了時まで達成されることが期待される中期的な目標であり、「ターゲット・グループ」への具体的な便益やインパクト
成果	プロジェクト目標を達成するためにプロジェクトが実現しなければならない、短期的かつ直接的な目標
活動	成果を達成するために、投入を効果的に用いて行う具体的な行為

指 標	プロジェクトの成果、目標及び上位目標の達成度を測るもので、客観的に検証できる基準
指標データ入手手段	指標を検証するためのデータ・ソース
外部条件	各レベルの目標を達成するために必要な条件であるが、プロジェクトではコントロールできない条件
前提条件	プロジェクトを開始するために必要な条件
投 入	プロジェクトの活動を行うのに必要な人員・機材・資金など

調査団は2008年11月作成のPDM ver.1（付属資料2）を評価の枠組みとして適用し、評価のデザインを行い、評価項目を設定し、評価グリッドにまとめた。付属資料3に、評価グリッドをその結果と共に示す。評価グリッドに基づき、エクアドル側C/P及び日本人専門家、その他関係機関に対して質問票・インタビューを通して情報収集を行うとともに、プロジェクトの事業対象地区を視察し、プロモーターや対象地域農民からのヒアリングを行う。

本評価調査における主なデータ収集方法及び情報源は以下のとおりである。

- ・既存資料レビュー（M/M、R/D、事前評価報告書、業務完了報告書、等）
- ・アンケート調査（日本人専門家、C/P機関等）
- ・キーインフォーマント・インタビュー（日本人専門家、GADPCH、MAGAP、教育省、環境省、保健省及び各省チンボラソ県事務所、モデル集落農民、等）
- ・直接観察（リオバンバ、コルタ、グアモテ各郡内の集落・フィールド踏査）

使用した質問票については、付属資料4を参照。また、質問票の集計結果を付属資料5にまとめた。調査結果は、合同評価報告書にまとめ、日本側・エクアドル側の評価委員で合意し、署名した。合同評価報告書は付属資料12を参照のこと。

2-5-2 評価項目

(1) プロジェクトの実績

プロジェクトの実績は投入、成果（アウトプット）、プロジェクト目標及び上位目標の各項目について、PDMにある指標を参考にその達成状況（または達成見込み）を確認する。

(2) 実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスは、技術移転の方法、関係者間のコミュニケーション、モニタリングなど、さまざまな観点に基づき、プロジェクトが適切に運営されたかどうかにつき検証するものである。さらに、実施プロセスの検証により、プロジェクトの効果発現に係る貢献要因、阻害要因の抽出を図る。

(3) 評価5項目に基づく評価

上記2つの項目における検証結果に基づき、プロジェクトは評価5項目の観点から検証する目評価5項目の各項目の定義は以下の表2-2のとおりである。

表 2-2 評価 5 項目の定義

評価 5 項目	JICA 事業評価ガイドラインによる定義
1. 妥当性	評価時点においても、プロジェクト目標、上位目標が妥当であるかどうかを、エクアドル政府の政策、裨益者のニーズ、日本の援助政策との整合性の観点から検討する。
2. 有効性	プロジェクトの成果（アウトプット）の達成の度合い、及びアウトプットがプロジェクト目標の達成度にどの程度結びついているかを検討する。
3. 効率性	プロジェクトの投入から生み出される成果の程度は、タイミング、質、量の観点から妥当であったかどうかを分析する。
4. インパクト	プロジェクトが実施されたことにより生じる波及効果の正・負の効果を、当初予期しなかった効果も含め検討する。
5. 自立発展性	協力終了後、プロジェクトによってもたらされた成果や効果が持続されるか、あるいは拡大されていく可能性があるかどうかを予想するために、制度的（政策的）側面、財政的側面、技術的側面からプロジェクトの自立発展性を見込みを考察する。

出所：プロジェクト評価の手引き（JICA 事業評価ガイドライン）、2004 年 2 月

第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス

3-1 投入の実績

PDM、PO に従って、投入が実施された。詳細は付属資料6のとおり。

3-2 活動の実績

PDM、PO に従って、活動が実施された。詳細は付属資料7のとおり。

3-3 指標の達成度

3-3-1 成果（アウトプット）の指標

(1) 成果1：チンボラソ州政府（GADPCH）、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。

成果1は達成されている。C/Pによりモデル集落の現況調査とベースライン調査が計画・実施され、現状調査報告書が作成された。また、9モデル集落で参加型ワークショップが開催されている。ただし、C/Pの実際の問題分析能力については、ベースライン調査時から通してプロジェクトに参加しているメンバーが少ないこともあり、明言することは困難である。しかしながら、C/Pのなかには活動を通じワークショップ運営能力が向上したと感じているとコメントする者があるなど、ある程度成果が上がっているといえる。

成果1の達成状況は以下のとおりである。

指標	実績
1) C/Pによりモデルコミュニティの現況調査とベースライン調査が計画・実施される。	2009年にモデル集落のベースライン調査が計画され実行された。
2) C/Pにより対象コミュニティにおける現状把握調査報告書が作成される。(全部で6つの報告書)	2009年に、9モデル集落に関する調査報告書が作成された。また、9集落全部を合わせた全体的傾向を示した報告書1冊が作成された。
3) C/Pによりコミュニティレベルの開発ニーズの把握・共有のための参加型ワークショップが開催される。	2009年に、9モデル集落で参加型ワークショップが開催された。4部門のワーキンググループが、参加型ワークショップ結果をまとめて部門別の課題を分析した。

(2) 成果2：チンボラソ州政府（GADPCH）、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。

成果2は達成されつつある。2009年12月に、チンボラソ県持続的総合農村開発戦略が策定され、GADPCH及び4省庁の合意を得た。これに基づいて、部門連携のパイロット・プロジェクト総合計画が策定された。これにより、住民のニーズを把握し、関係機関が連携して戦略を策定し、それに基づいた具体的な計画を立案する、という一連のプロセスを、C/Pが経験することができた。しかしながら、持続的総合農村開発戦略は「実施体

制の整備」を目標としており、本来の目的であった小規模農家の生計向上を目標としていないのは、不適切であり、見直しが必要である。ただし、インタビューした各機関では、総合農村開発戦略を活用していく意向である。関係機関による事業実施のためのC/Pファンドの資金計画については、GADPCHでは、パイロット・プロジェクトの予算の半分程度を拠出する予定であり、引き続きパイロット・プロジェクト実施の費用を予算化していく方針である。4省庁は、総合農村開発計画の実施に向け通常予算から拠出することとしている。教育省では、パイロット・プロジェクトの活動が通常計画に組み込まれているため、継続が見込まれる。C/Pの事業計画策定能力については、終了時評価でのインタビューによれば、計画策定能力が向上した者も一部いるが、全体的戦略を策定しそれに基づいて具体的事業計画を策定していくという一連の事業計画策定能力はまだ十分強化されていない面もあると思われる。

成果2の達成状況は以下のとおりである。

指 標	実 績
1) 住民と共有されたチンボラソ県の持続的総合農村開発戦略が策定される。	C/Pと専門家の協働により、モデル集落における参加型診断に基づいて策定された持続的総合農村開発戦略が、2009年12月に承認された。
2) 住民と共有された各セクター（農業・農村開発、環境、教育、保健、公共事業）のための事業計画が策定される。	参加型診断に基づいて策定された持続的総合農村開発戦略に基づき、事業計画が策定され、中央での承認を得た。09年12月に同計画をモデル集落住民と共有し合意を得た。
3) C/Pにより事業計画実施のための資金計画が策定される。	C/P機関は事業計画実施のための資金計画策定には着手していない。ただし、GADPCHでは、パイロット・プロジェクトの予算の半分程度を拠出する予定であり、引き続きパイロット・プロジェクト実施の費用を予算化していく方針である。4省庁は、総合農村開発計画の実施に向け通常予算から拠出することとしている。
4) C/Pにより事業計画実施のための要請書が関係機関に対し提出される。	まだ着手されていない。

(3) 成果3：チンボラソ県政府（GADPCH）、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関係する事業実施・管理運営能力が強化される。

成果3については、活動実施計画上、今後の活動によるところもあり、評価時点では、すべてが達成されている状況ではない。プロジェクト運営委員会におけるパイロット・プロジェクト実施報告は行われており、パイロット・プロジェクト実施報告書がその委員会に提出されている。パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価については、プロジェクトの計画に基づき、パイロット・プロジェクトが進捗した2011年に入ってから、評価及び住民の満足度調査を行う予定であるが、継続的・定期的なモニタリング・評価の

ための体制づくりについては、検討されていない。持続的総合農村開発手法のマニュアルの作成については、パイロット・プロジェクトの進捗が進みある程度成果が発現してくるのが見込まれる 2011 年初頭より開始する予定である。

パイロット・プロジェクトは、農村開発手法の妥当性の検証を目的として、3 郡の 9 モデル集落で実施されている。パイロット・プロジェクトモデル集落対象のワークショップでの診断に基づいて、住民の間でパイロット・プロジェクトの実施内容を決定し、2010 年 4 月から活動を実施している。ECA の手法を導入し、農民の主体性を尊重しながら、生産力向上のための活動を行っている。現時点では、すべてのモデル集落で同一の内容で ECA が行われている²。対象地域には、アンデスの伝統的な技術を有する「チャカレロ」と呼ばれる農民が存在するので、その技術の普及や、地域のポテンシャルを生かした収入創出活動などが、生計向上に有効と考えられる。ECA 以外では、識字教育、小学校校舎の修理、塩素浄化器の設置、土壌分析、植林に関連した活動を行った。そのほか、チンボラソ国立大学、チンボラソ工科大学との協力により、巡回健康診断の活動を行うことが予定されている。終了時評価で訪問した集落では、プロモーターや MAGAP 技術者の支援の下、いずれも活発に活動が行われていた。しかしながら、ECA の概念は、まだ関係機関や住民に十分伝わっていない模様である。これは、ECA の戦略上の位置づけ及び目的が明確でないためでもある。インタビューによれば、住民は、ECA の活動において肥料の使い方などの農業技術を学び、霜対策などに祖先からの伝統的知識を自主的に試みており、学んだことを各世帯で実施している。モデル集落の住民は、これまで ECA で行っているような協働作業に参加したことがなかったが、活動にコミットしており、コミュニティ活動への参加のしかたを学んでいるとのことであった。終了時評価で訪問した集落の住民は、おおむねパイロット・プロジェクトでの活動に満足している。

成果 3 の指標の達成状況は以下のとおりである。

指 標	実 績
1) プロジェクト運営委員会が定期的（月 1 回程度）に開催され、C/P によりパイロット・プロジェクト実施報告が行われる。	プロジェクト運営委員会でパイロット・プロジェクトの進捗報告が行われてきた。2010 年 5 月までは基本的に月に 1 回プロジェクト運営委員会を実施してきた。その後は、プロジェクトの進捗を判断するには適切な期間をおいた方がよいことから、プロジェクト運営委員会は 3 カ月に 1 回、C/P の長官会議を月 1 度開催していくことになった。
2) パイロット・プロジェクト実施報告書がプロジェクト運営委員会に提出される。	パイロット・プロジェクトの活動記録など、プロジェクトの各種の活動記録が作成され、プロジェクト運営委員会に提出されてきた。

² ECA の内容については、訪問した ECA では、農民の投票などによって決めたということであり、住民の意思を尊重した結果ではあるものの、開発手法の妥当性の検証という意味では、各 ECA である程度異なる内容を実施した方が有効であった可能性がある。

3) C/Pによりパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価が行われる。	プロジェクトにおけるパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価としては、年間実施計画(POA)に基づき、プロジェクト終了前までに、パイロット・プロジェクトの評価や住民に対する満足度調査を行う予定である。 モデル集落におけるパイロット・プロジェクトの定期的なモニタリング・評価を誰がどのように実施するかという、関係機関による継続的なモニタリング体制づくりは、まだ着手されていない。
4) 持続的総合農村開発手法マニュアルが作成される。	POAに基づき、パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価を行い、十分な情報を得たのち、2011年初頭から作成する予定である。
5) 公的機関による事業の実施・運営・管理に関し、住民の満足度が向上する。(ベースライン調査時及び終了時の比較)	2011年初頭以降、住民に対する満足度調査を行い満足度を確認する予定である。聞き取り調査した集落では、パイロット・プロジェクトについては、大部分の住民が、肥料の使い方などの技術を習得し活動には満足している。

3-3-2 プロジェクト目標の指標

(1) プロジェクト目標：チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。

プロジェクト目標の指標は、まだ達成に向けた途上にある。GADPCH及び4省庁からC/Pが配置されており、チームとして活動できる体制が整備されつつある。しかしながら、C/Pの異動があることやプロモーターが継続雇用でないことにより、人員が安定しておらず、また、当初の予定に入っていなかったためではあるが、郡・パロキアの関与が弱いなど、課題も指摘されている。事業予算については、GADPCHでは、予算計画が策定され、2011年度の申請の手続きを始めているが、他の省庁では、C/Pファンドとしての独立した予算確保にまだ着手していない。教育省では、通常予算の中でパイロット・プロジェクトの事業実施を行う予定である。他の省庁も、費用負担を表明しているものの、独立したC/Pファンドとしてではなく、他の経費から充当する予定である。³

実際に関連機関の調整の下、事業を実施していく体制が整備されたかという点については、評価時点では明確には判断できない。実施体制はまだ脆弱であるという指摘がある。一方、インタビューでは、プロジェクト運営能力が向上した、関係機関間の調整が円滑になった、などの成果が報告されている。

プロジェクト目標の指標の達成状況は以下のとおりである。

³ C/Pファンドについてエクアドル側からは「必ずしも独立したC/Pファンドとしての予算確保ではなく、通常予算のなかから拠出する」というコメントが出されており、C/Pファンドの考え方について日本側・エクアドル側の認識が異なる。

指 標	実 績
<p>1) チンボラソ県政府 (GADPCH)、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターから成る開発事業実施チームが形成される。</p>	<p>プロジェクトオフィスに、MAGAP、環境省、保健省、教育省スペイン語局、教育省二言語局からの技術者が配属され、週に数日勤務している。県政府からは、2名のスタッフが常勤でプロジェクトに従事し、各分野に関係するスタッフが必要な時に協力している。また、1年契約により、プロモーターが採用され、活動を行っている。しかしながら、プロモーターは継続雇用の職員ではないので、これらの活動は脆弱である。もともと当初予定していた開発事業実施チームに入っていなかったという事情はあるが、郡・パロキアの関与は弱い。実施チームは形成されているといえるが、必要な人材の配置が遅れ、本格的に機能し始めたのが、2010年に入ってからであり、また、プロモーターが継続雇用でないこともあり、現時点では実施体制はまだ脆弱で、更なる能力強化が必要である。まだ実施体制が十分に構築されていないという指摘もある。インタビューでは、自分で判断してプロジェクトを運営できるようになった、ワークショップを実施できるようになった、GADPCH と関係省庁の調整が円滑になった、などの能力の向上が報告されている。</p>
<p>2) 持続的総合 (マルチセクター型) 農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保される。</p>	<p>2) - 1 GADPCH は、本プロジェクトに対し運営費を予算化している。パイロット・プロジェクトの実施については、活動費用のうち、GADPCH が 45%、JICA が 45%、モデル集落が 10% (実際は役務提供) を負担するという方針が承認されており、2011 年度分については、申請手続きに入っている。GADPCH は、今後も引き続き予算化していくと見込まれる。</p> <p>2) - 2 4 省庁の C/P 機関県事務所は、開発戦略実施のための活動に係る費用を独立した C/P ファンドとしての予算化はしていない⁴。</p>

3 - 3 - 3 上位目標の指標

(1) 上位目標：チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施さ

⁴ C/P ファンドについてエクアドル側からは「必ずしも独立した C/P ファンドとしての予算確保ではなく、通常予算のなかから拠出する」というコメントが出されており、C/P ファンドの考え方について日本側・エクアドル側の認識が異なる。

れる。

上位目標の指標に関する活動はまだ実施されておらず、指標の達成見込みについては、評価時点では、明言できない。

指 標	実 績
1) チンボラソ県持続的総合農村開発戦略に基づいたアクションプランが実施される。	まだ実施されていない。

3-4 実施プロセスにおける特記事項

3-4-1 全体の進捗

進捗に遅れが生じていた時期もあったが、評価時点では、予定されていた活動はほぼ実施されている。エクアドル側 C/P 配置の遅れ、C/P の交代等により、当初は進捗が遅れがちであったが、2009年11月の運営指導調査団の提言を受け、各省庁の C/P が正式に配置されてから、C/P 機関の関与が積極的になった。教育省では、先住民の抱える問題が大きいにもかかわらず、事前評価時はスペイン語局のみが C/P となっていたため、二言語教育局も C/P としてプロジェクトに参与することとなった⁵。また、プロモーターは、パイロット・プロジェクトの実施促進に重要な役割を果たしているが、GADPCH の雇用は年間契約で、1年ごとに交代せざるを得ない状況⁶であり、プロジェクトの進捗への影響が非常に大きい。

3-4-2 プロジェクトのマネジメント体制

プロジェクトのマネジメント体制はおおむね良好に機能している。月1回（2010年5月以降は、成果の進捗や評価の検討ができるよう3カ月に1回とした）のプロジェクト運営委員会（COP）⁷でプロジェクトの進捗と成果を確認している。ベースライン調査及び戦略立案の活動においては、ワーキンググループを設置した。会議にあたっては、タイムリーに関係者に開催の連絡が届き、テーマが参加者の間で共有されている。ただし、会議では、プロジェクトの運営実施管理に必要な事項の検討に時間が割かれがちで、体制構築や技術的事項に関する討議が十分に行われないことがある。また、重要な実務的問題を議論する場である長官会議には、県事務所代表者ではなく代理の者が出席することが多いため、その場で意思決定を行うことができず、必ずしも本来の機能を果たしていない。パイロット・プロジェクト実施にあたっては、総合技術支援グループが形成されている。ただし、C/P 機関によるパイロット・プロジェクトの運営・モニタリング体制が十分に構築されるには、まだ時間がかかる見込みである。

活動は PDM に基づいて実施されている。PDM の解釈につき、関係者の間で認識が統一され

⁵ 二言語局でのインタビューでは、このためにプロジェクトへの関与が遅れたと認識しているとのコメントが聞かれた。

⁶ この点につき、県政府に対し調査団から継続雇用するよう申入れを行ったが、県の制度上1年契約とせざるを得ないという回答であった。また、県での1年間の契約終了後、郡・パロキア等地方政府で雇用してもらうことも提案したが、郡・パロキアの予算措置等の問題もあり、現状では困難とのことであった。

⁷ 合同調整委員会（JCC）が、半年に1回、中央レベルで、プロジェクトの進捗や問題点について協議するものであるのに対し、COP は、毎月（後に月3回）、県レベルで、関係機関がプロジェクトの進捗や問題点について協議する。

ていない部分があったが、プロジェクト開始以来、PDMは改訂されておらず、表現の修正なども行われていない。運営指導調査、合同調整委員会（JCC）の場などにおいても、予定されていた議題の消化に追われ、PDMの解釈について、十分な認識の共有を図る機会がなかった。POについては、適宜見直しが行われ、関係者の間で共有されている。

3-4-3 関係機関のコミュニケーション

プロジェクトに関するコミュニケーションは、最適とはいえない。プロジェクトC/P間のコミュニケーションは、おおむね良好であるが、C/P機関の長には十分な情報が届いていないケースもある⁸。省庁間の調整については、エクアドル側は以前からさまざまなアクターと業務を実施しており慣れてきたが、当初は調整が困難だったこともあった。現在は、多少の困難はまだあるものの、GADPCH及び各省庁間の調整は進んでいる。中央レベル省庁は、各省とも国際協力局を中心にプロジェクトに関与している。JCCに参加し、また各省の県事務所からプロジェクトの情報を得ている。ただし、時折プロジェクトに関し十分な情報を得ていないことがあり、中央と県との調整が十分に行われていない場合もある模様である。また、技術的な内容は主として県事務所で決定しているが、C/P配置や行政手続き、予算確保においては、中央省庁の関与は重要であり、国際協力局だけの関与では不十分であると考えられる。

パイロット・プロジェクトを実施しているモデル集落の住民と、C/P、プロモーターらのコミュニケーションはおおむね良い。ただし、プロモーターのなかには、プロジェクトの専門家や一部C/Pと十分なコミュニケーションが図れていないと感じている者もいる。

郡・パロキア事務所は、当初の計画でC/P機関とはなっていなかったため、県政府を通じてプロジェクトの情報を得ている場合もあるが、評価調査で訪問した事務所はプロジェクトについて多くの情報を得ているとはいえない。しかしながら、プロジェクト関係者の間では、郡・パロキアは、地元住民に密着した機関であると認識している。

日本からの専門家の支援は、C/P機関から好意的に受け止められている。C/Pと共に活動を実施していくアプローチが適切である。ただし、専門家は調整業務に多くの時間を割かれがちで、技術支援に十分な時間が取れない場合がある。

JICAの関連する協力案件のうち、開発調査「シエラ地域における貧困削減のための小規模農家支援体制再編計画調査」については、関係機関で情報共有は行ったものの、具体的な相乗効果を図るための連携・調整などは行われなかった。チンボラソ県に配置されているJICAのシニアボランティア5名及び短期派遣青年海外協力隊員とは、プロジェクト活動を通じて適宜情報交換を行い、一部連携した活動を行っている。土壌分析シニアボランティアはプロジェクトと共に集落の訪問を行っており、また、保健シニアボランティアの提案により、塩素浄化器が導入された。短期協力隊員は、パイロット・プロジェクトのモデル集落のモニタリングを行っている。

3-4-4 関係機関のオーナーシップ

県政府、各省庁の県事務所とも、各種会議に積極的に参加し、意思決定に関与している。県

⁸ 例えば、中央省庁におけるインタビューでは、中央省庁の担当者とのインタビューを依頼していたにもかかわらず、県事務所のC/Pが同席し、プロジェクトに関する話は県のC/Pが中心に行うというケースが見受けられた。

政府は、全体の調整を積極的に行っており、オーナーシップが高いといえる。4省庁も、積極的にプロジェクトに関与している。しかしながら、各省庁とも独立したC/Pファンドの確保に着手していない点は、オーナーシップが十分に高いとはいえない面でもある。ただし、C/Pファンドについては、合同評価報告書に係るC/P機関との協議において、C/P側からは、必ずしも独立したC/Pファンドとしての予算確保でなくとも、省庁の通常予算のなかから拠出できていればよいのではないかというコメントが出されており、C/Pファンドの扱いに関しては、日本側・エクアドル側双方の関係者間で認識の違いもあると思われた。

パイロット・プロジェクトのモデル集落の住民は、各種活動に積極的に参加している。評価調査で訪問したコミュニティのECAでは、途中から参加しなくなった住民が数名いるコミュニティもあるが、大部分の住民は参加を続けている。

3-5 効果発現に貢献した要因

GADPCHを中心とした各C/P機関が、高いイニシアティブをもち積極的にプロジェクトに取り組んだことが、効果発現の促進要因として考えられる。GADPCHは、プロジェクト専従のC/Pを配置し、関係機関の調整を積極的に行うなど、プロジェクトの円滑な進捗に大きな役割を果たした。

3-6 問題点及び問題を惹起した要因

進捗の遅れの要因としては、C/Pの配置が遅れたこと、C/P、プロモーターらの交代が頻繁であったことが挙げられる。2009年2月にプロジェクトが開始され、GADPCHでは、開始直後からC/Pが配置されたが、他の4省庁については、プロジェクト開始後C/Pが配置されるまでに、数カ月を要し、さらに、C/Pが頻繁に交代するケースがみられた。保健省においては、省全体の機構改革の影響もあり、県事務局長が頻繁に交代した。保健省中央は、頻繁なC/P交代がないよう、県事務所に申し入れを行う意向である。

2010年3月以降は、GADPCH・4省庁ともC/Pはほぼ定着している。しかしながら、プロモーターについては、GADPCHの規定により1年ごとの契約となっており、継続して活動できないことは、プロジェクトの進捗に影響を与えている面もある。プロモーターで前任者から詳細な引き継ぎを受けた者がおり、比較的円滑に業務を実施している。ただし、後任のプロモーターの採用が遅れ空白期間ができる場合もあり、すべてのプロモーターが適切な引き継ぎを受けているわけではない。また、独立したC/Pファンド設立の考え方の違いにみられるように、PDMの解釈などに関し関係者の間で共通の認識が得られていなかったことも、進捗に影響を与えたと考えられる。

第4章 評価5項目による評価結果

4-1 妥当性

チンボラソ県のニーズ、エクアドルの政策、日本の対エクアドル ODA 方針の観点から、妥当性は高い。プロジェクトのデザインについては、おおむね妥当であるが、若干改善の余地があったといえる。

チンボラソ県農村部の住民の生活は厳しく、コミュニティの住民は、農業生産、識字、保健、環境保全など、多くの問題を抱えており、持続的総合農村開発は重要である。効果的な持続的総合農村開発の計画・実施には、チンボラソ GADPCH、MAGAP のみならず、環境、教育、保健等関係省庁が協調して取り組むこと、同時に住民のイニシアティブを尊重することが重要である。2007年1月に発足した現政権では、住民のイニシアティブを尊重しながら農村開発を進めるための複数の省庁・機関間で協調した取り組みを重視しているが、協調のための体制づくりはまだ途上であり、持続的総合農村開発体制強化のニーズは高い。

住民の生活の質向上のための実施体制整備を行う本プロジェクトは、「Plan Nacional para el Buen Vivir (PNBV) 2009-2013」(旧国家開発計画)と整合性がある。エクアドルの開発計画である PNBV では、「目的 (Objetivo) 3」で、住民の生活の質の向上を挙げている。また、「戦略 (Estrategia) 8.9」では、地方分権化の推進と計画運営の強化を挙げている。このような地方分権化の流れの中で、本プロジェクトが事業実施機関として GADPCH を核としたことは妥当である。また、GADPCH では、プロジェクトで策定した持続的総合農村開発戦略計画は、県の計画と方向性が同じであると認識している。

日本の対エクアドル ODA の重点分野は、貧困対策、環境保全、防災で、貧困対策分野には、農村開発、教育改善、保健衛生向上が含まれる。プロジェクトは、貧困対策分野と合致しており、環境保全の要素も含んでいる。

プロジェクト・デザインの計画プロセスは適切である。事前評価において、チンボラソ県の多岐にわたる部門の職員、コミュニティの住民を対象にワークショップを実施し、関係機関の意見を幅広く聴取し、関係者の合意の下、プロジェクト計画を策定した。

プロジェクトのデザインは、情報分析・計画・実施の点から関係省庁の実施体制の整備を図るもので、実施体制の整備という観点からは、適切といえる。戦略計画の策定、パイロット・プロジェクトの実施など、統合的農村計画を実践的に計画・実施する訓練になるようデザインされている。こうした訓練及び実際の業務は、既に関係機関で行われていることではあるが、プロジェクトの実施により、知識を強化し、実践の場を提供することが可能となった。パイロット・プロジェクトは、持続的総合農村開発に関する手法の妥当性を検証するものとして位置づけられており、プロジェクト・デザインとしては妥当である。ただし、現行 PDM の表現からは、パイロット・プロジェクトのこうした位置づけが若干不明確であり、パイロット・プロジェクトの結果をどのように活用するのかの明確な共通認識が関係者の中にある。

モデル集落の選定プロセスは、当初計画していたものとは異なっていた。当初の計画では、選定基準を明確に設定するなど、選定を適切かつ透明性のあるものにする工夫がなされていた。しかしながら、実際には、プロジェクトが始まった時、既に GADPCH の主導でモデル集落が決定されており、これにプロジェクト関係者が合意するという形になった。GADPCH の事情があったにせよ、また、最終決定にあたっては関係者の合意を得たにせよ、当初定めた選定プロセスを

経ていないという点では、必ずしも適切であったとはいえない。しかしながら、結果的には、コミュニティの積極性や県都からのアクセス、他の援助機関による支援が入っていないことなどの条件が満たされており、選定自体は適切であったといえる。インタビューでは、「選定された地域以外にもより貧困な地域がある」という声も聞かれたが、本プロジェクトのモデル集落としては、ある程度アクセスを重視する必要があったため、おおむね適切な選定結果と考えられる。

PDMには明記されていないが、プロジェクトのターゲット・グループは、プロジェクト目標である実施体制整備に関連する、GADPCH及び4省庁の県事務所と考える。持続的農村開発には体制整備が不可欠であり、ターゲット・グループに関連する行政機関としたことは適切である。総合農村開発には、住宅、道路など、ほかにも関連する省庁はあるが、ニーズの高さ及び限られたプロジェクト期間での取り組みという観点から、GADPCH及び4省庁を対象としたことは適切といえる。

プロジェクト・デザインは、日本の経験を活用できるものである。日本は、農村開発、農村の生活改善等に豊富な経験をもつ。こうした経験は、パイロット・プロジェクトにおける住民組織強化や生産向上、生活改善などに活用が可能である。

このように、プロジェクト・デザインはおおむね適切であるといえるが、課題もあった。

4-2 有効性

有効性は、ある程度高い。

プロジェクト目標の達成は、ある程度進捗しているが、評価時点では、期待された水準に十分に達しているとはいえない。プロジェクト目標の指標のうち、1つめの「マルチセクターから成る開発事業実施チームが形成される」については、開発事業実施チームは形成されており、定期的会合で開発事業実施に必要な討議が行われるなど、機能しつつある。インタビューでも、ワークショップ実施能力が向上したことや関係機関間のコミュニケーションや調整が円滑になったことが報告されている。ただし、プロモーターが継続雇用されない、パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価がまだ行われておらずその実施体制が十分検討されていない、などの課題があり、開発事業実施を円滑かつ効果的に行うためのチームとしての能力は、現時点ではまだ脆弱である。2つめの指標の「事業実施のための予算が確保される」については、県庁では、予算化の動きが進んでいるが、4省庁では、(C/Pファンドに関する認識の違いもあり⁹)独立したC/Pファンドの設立には着手していない状況であり、エクアドル側は通常予算のなかから事業予算を拠出する意向である。

プロジェクト目標達成の要因としては、総合的農村開発のための実施体制構築は、エクアドルの政策と合致していることが挙げられる。このため、関係機関では、体制構築に積極的で、また、既に、複数の省庁間協調によるプロジェクト〔アルゼンチン産業技術庁 (INTI) の支援を受けた農業生産向上プロジェクトなど〕を実施するなど、ある程度取り組みが進んでいた。プロジェクト目標達成の阻害要因としては、C/Pの配置が遅れたことがある。2009年11月の巡回指導調査でC/Pの配置を申し入れ、C/Pが配置されたことで、今後は持続的総合農村開発のための体制構築が順調に進むことが期待される。また、プロジェクト目標の達成度を測るための指標が

⁹ 前述のとおり、C/Pファンドについてエクアドル側からは「必ずしも独立したC/Pファンドとしての予算確保ではなく、通常予算のなかから拠出する」というコメントが出されており、C/Pファンドの考え方について日本側・エクアドル側の認識が異なる。

もう少し具体的であれば、めざすべき具体的な姿が、関係者の間で共有されやすかったと考えられる。例えば、「開発事業実施チームが形成される」だけではなく、そのチームで実施すべきことが具体的に提示されているなどが、一案であろう。

成果の指標は、評価時点までに予定されていた活動が終了しているものについては、達成されつつある。ただし、C/P 機関の能力という点については、問題分析・計画に関しては、ベースライン調査や農村開発戦略策定等の活動が終了したものの、C/P だけで実際に業務を遂行していく能力については、まだ強化していく必要があると思われる。実施能力の向上については、現時点ではまだ活動の途中であるため、明確には判断できない。パイロット・プロジェクトは、モデル集落において成果を上げつつある。成果達成の促進要因としては、関係機関が積極的に取り組んだことが挙げられる。関係機関が積極的に取り組んだ背景には、中央レベルで各省庁が R/D に署名したことがある。各省庁の中央レベルが文書によりコミットしたことは、関係機関のコミットメントの確保と円滑な実施促進に重要であった。また、パイロット・プロジェクトモデル集落の住民が積極的であったことも、促進要因となった。成果の達成の点からも、C/P の配置が遅れたこと、頻繁な人事異動があったことは、問題を残した。例えば、現在の C/P 体制がほぼ整備されたのは、ベースライン調査が終了した後であったので、現在の C/P には、問題分析に参加していない者が多い結果となっている。

成果からプロジェクト目標に至るロジックは、適切である。実施体制には、現状の分析、計画、実施というプロセスが必要であり、3つの成果が適切に設定されている。また、問題分析、計画、実施は、一連のプロセスであり、これらを総合して行うことで効果が得られる。

現行 PDM では、プロジェクト目標を達成するための外部条件が設定されていない。「関係機関の人事異動が頻繁に起こらないこと」が、プロジェクト目標達成の外部条件になると思われる。

4-3 効率性

効率性は、ある程度高い。

日本側の各投入は、ほぼ予定どおり実施され、適切に活用されているが、検討すべき点もいくつかあった。エクアドル側の投入では、C/P の配置が遅れたこと、プロモーターの交代があることが全体の進捗と成果の達成に影響を与えたが、それ以外の投入はほぼ予定どおり実施され、適切に活用されている。

日本側は、適切な専門性をもつ専門家を予定どおり派遣した。長期専門家2名は、適切な経験と技能をもち、任務を遂行しようと努力し、成果を上げている。短期専門家は、関係省庁の分野に応じた適切な専門性をもつ専門家がバランスよく派遣され、それぞれの任務を適切に遂行した。PCM 手法の導入、戦略計画の策定、ECA など、プロジェクトの鍵となる活動においては、短期専門家が大きな役割を果たした。実施体制構築が目的の本プロジェクトにおいては、全体の運営管理及び C/P の能力強化全般を行う長期専門家と、プロジェクトの中核的活動を支援する短期専門家という組み合わせによる派遣は適切であったといえる。しかしながら、複数の関係機関が関与する本プロジェクトにおいては、長期専門家2名では、管理業務に割かれる時間が多くなりがちで、関係機関の問題分析・計画能力の強化に関する活動やパイロット・プロジェクトのモニタリングに十分な時間を取るのが困難な時があった。また、専門家派遣期間の関係で、パイロット・プロジェクトで行っている土壌保全や収入創出活動に関する適切な技術指導が必ずしも十分に対応できないケースもあった。C/P に対する ECA のファシリテーション研修の講師とし

てエクアドル人を雇用した。同国人として、現地の事情に詳しく、C/P から好意的に受け入れられ、効果的であった。

供与機材は、事務所用備品、車両等、プロジェクトの基本的活動に必要なものが中心であり、ほぼ適切であるといえる。塩素浄化器は、パイロット・プロジェクトのモデル集落に供与され、活用されている。塩素の交換は、集落の費用で行われている。

本邦研修は、プロジェクト開始前には予定されていなかったが、県知事と公共事業部長の2名を派遣した。ハイレベルの人材の派遣であり、C/P 関係機関のプロジェクトの理解を深め、円滑なプロジェクト進行を推進するという点では効果があったといえる。また、本邦研修を終えたC/P から日本の農村開発の経験が他の職員に伝達されていることも確認された。ただし、実施体制の強化という点では、問題分析・計画・実施の実務に携わる人材を派遣すれば、より効果的であった可能性がある。ボリビアにおける第三国研修へは、GADPCH 職員、プロモーター、モデル集落住民らを派遣した。派遣にあたっては、実施の目的を明確にし、より効果を上げるため、プロジェクトの会議でオリエンテーションを行った。各参加者とも、ボリビアとの比較から、土壌保全の重要性や適正な農業技術について学んだ。モデル集落からの参加者は、帰国後集落の他の住民と経験を共有している。実施体制の構築という点では、個別技術に関する知識・経験の交換のみならず、総合農村開発の実施体制に関する意見交換等を行えば、より効果的であったと考えられる。なお、ボリビア研修への派遣者にはプロモーター3名が含まれているが、1年の雇用で交代すると、投入の効率性が阻害されることになる。日本側からの必要な経費は、適切なタイミングで支出された。

エクアドル側からの投入では、C/P の配置が遅れたが、2010年3月以降は、4省庁のC/P が正式に配置され、ほぼ定着している。C/P の給与はプロジェクト開始時より各省庁から支払われている。配置されたC/P は適切な経験・能力と高いモチベーションを有しており、プロジェクトの進捗と成果の達成に貢献している。プロモーターは、村落のなかから推薦により選定された。当初プロジェクトで要請した要件（農業の経験と自動二輪免許）を満たさない者も採用されたが、多くの者は、先住民言語を話し、モデル集落住民との円滑な活動に貢献している。一方で、プロモーターは1年ごとの契約雇用となるため、効果的な活動に影響を与えている。

GADPCH からプロジェクト事務所とプロモーターの執務室が提供されており、日本人専門家とGADPCH のC/P 及びプロモーターの活動に活用されている。ただし、プロジェクト事務所はスペースがやや狭く、各省庁も含めたC/P 全員揃っての活動が困難である。GADPCH からは、そのほか、プロジェクト事務所の光熱費・備品、車両ガソリン代が拠出されている。教育省は、識字及びポスト識字教育の教員給与、テキスト代、保健省からは巡回医療活動の費用を、通常予算から拠出している。

日本側・エクアドル側とも実施された投入はおおむね適切に活用されている。プロモーターの巡回用に供与した自動二輪車4台は、登録の手続き中であるためと、現時点で自動二輪免許をもつプロモーターがいないため、評価時点では使用されていないが、それ以外は有効に活用されている。

4-4 インパクト

上位目標の達成見込みは、評価時点では明確には判断できない。

上位目標の指標である「アクションプランの実施」については、評価時点では、アクションプ

ラン作成には着手しておらず、達成の見込みは判断できない。プロジェクト目標である「持続的農村開発実施のための実施体制の整備」は進捗しつつあるので、今後活動が順調に進めば、上位目標達成の見込みはある。ただし、プロジェクト期間中から上位目標をにらんだ取り組みを始めることが必要である。

プロジェクト目標から上位目標に至るロジックは適切である。予算確保も含めた実施体制が整備され、必要な取り組みがなされれば、アクションプランを実施することが可能であると考えられる。また、プロジェクト期間中から取り組みを始めれば、プロジェクト目標達成後2、3年で上位目標が達成されるものと考えられる。

上位目標達成の外部条件については、大きな影響を与えるような社会的・環境的变化はみられないが、行政組織改編の動向に注意を払うことは必要であると考えられる。外部条件のうち「GADPCH、関係省庁の役割・体制が大幅に変更されない」は、現状では、この条件は満たされている。しかしながら、地方分権化が進んでいくなかで、GADPCH、関係省庁の役割分担が変更される可能性もある。例えば、インタビューによれば、エクアドル政府では、保健・教育については、GADPCHの権限外とする方針が提示されており、2010年3月の国会では決定事項とならなかったものの、将来の各機関の役割分担は流動的である。現在のところ、実際の業務の実施については、現状の枠組みが当面続いていくものと見込まれており、また、GADPCH、各省庁間協調での取り組みを促進する方針は継続される見込みであることから、プロジェクトの全体的な枠組みには大きな影響はないと思われるが、今後の動向を注視することは必要である。もうひとつの外部条件である「パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員が確保される」は、現状では、エクアドル側ですべての予算が確保されておらず、頻繁な各省庁の県事務所長及びプロモーター等の人事異動などが人員確保に影響している。ただし、本外部条件は、プロジェクト目標の指標と関連性が高く、この表現では、外部条件とはならないと考えられる。外部条件としては「関係省庁の全体予算が削減されない」などとして、モニタリングすることが適切と思われる。

上位目標以外のインパクトに関しては、パイロット・プロジェクトにおけるECAの参加者の大部分が女性であり、女性のエンパワーメントという点で、インパクトがみられた。負のインパクトは、特に認められない。対象外地域からのプロジェクトに対する批判、ジェラシーなどは報告されていない。

4-5 自立発展性

自立発展性は、ある程度見込まれるが、自立発展性を高めていく努力は今後も必要である。

政策面での自立発展性は見込まれる。多省庁間の協調は、現政権の政策で重視されており、当面継続すると考えられる。PNBVは2013年までの期間となっているため、少なくとも2013年までは、現在の政策・制度が継続するものと思われる。パロキア、郡レベルの開発計画、テリトリアル計画は現在策定中であるが、PNBVが上位政策であるため、プロジェクトと政策・制度の整合性は保持されると考えられる。

技術面での自立発展性はある程度見込まれるが、関係機関・関係者の一層の能力強化が必要である。実施体制構築が本格化してからまだ十分な活動期間がないため、明確に判断するには時期尚早であるが、PCM手法、参加型計画手法などは、C/Pの中で定着しつつあると思われる。計画策定能力、プロジェクト実施・モニタリング能力及び体制の構築などについては、定着のためには、更に時間が必要と思われる。また、各C/P機関は、GADPCH及び4省庁の協調による実施

体制を促進していくことに積極的である。2010年以降、実務レベルのC/Pは比較的安定しており、活動に積極的に取り組んでいる。

懸念材料として、開発手法の妥当性の検証というパイロット・プロジェクトの位置づけに関し関係者の間で共通認識が醸成されていないことが挙げられる。また、パイロット・プロジェクトのモニタリング、またその結果をより大きな事業や実施体制の強化に反映させるための仕組みが不明確である。さらに、モデル集落におけるパイロット・プロジェクトのパイロット期間終了後の継続の仕組みが、現時点では十分に検討されていない。ECAの手法は各モデル集落で実施されており、今後もモデル集落住民である程度継続していくものと見込まれる。本プロジェクトでは、ECAに対する支援は1年で終了する予定であり、その後は、参加者のなかから農民プロモーターを育成することで活動を継続していくことを検討しているが、パイロット期間終了後にECAを参加者で活動を継続していくための具体的な構想はない。また、エクアドル政府の方針によりプロモーターの雇用が1年ごとの契約であることも、活動継続の懸念材料になっている。なお、ECAについては、C/Pのなかにもその趣旨を的確に認識していない者が見受けられるため、関係者の認識の統一を図ることも、自立発展性のためには有効であると考えられる。

財政面での自立発展性は、ある程度見込まれるが確実ではない。各機関とも、予算は潤沢ではないが、予算確保の努力は行っている。本プロジェクトは、実施体制の整備をめざしたものであるため、パイロット・プロジェクト以外には、あまり費用を必要とせず、パイロット・プロジェクトについても、多額の費用がかからない活動が実施されている。GADPCHでは、パイロット・プロジェクトの予算の半分程度を拠出する予定であり、引き続きパイロット・プロジェクト実施の費用を予算化していく方針である。4省庁においては、農村開発計画の具現化に向けた独立したC/Pファンドとしての予算確保には、まだ着手していない¹⁰。教育省では、パイロット・プロジェクトの活動が通常計画に組み込まれているため、継続が見込まれる。モデル集落における活動を継続していくためには、当該活動を各省庁の年間計画に組み込んでいくことが有効である。同時に、行政機関からの支出がなくても、モデル集落の自助努力で活動費用を手当てできる方法を検討することも重要である。例えば、現在ECAでは活動に必要な費用（種子、ミミズ床の木枠など）はGADPCHとJICAで拠出しているが、これら費用を集落で確保する工夫をするよう集落に働きかける、などである。プロジェクトの供与機材については、車両、コピー機など、現在使用中のものは、維持管理されており、ガソリンなどの消耗品費もGADPCHの負担で支出されているので、引き続き維持管理されるものと思われる。パイロット・プロジェクトのモデル集落に供与した塩素浄水器は、1カ月ごとに塩素を交換する必要があるが、集落の住民の費用で購入している。

自立発展性を高めるためには、まず、住民のエンパワーメントを図り、コミュニティから関係行政機関を含めた一連の実施体制を引き続き強化していくことが必要である。併せて、集落のパイロット・プロジェクトをはじめ、事業のモニタリングの仕組みを構築することが必要である。また、各省庁のなかで、各事業を予算も含め年間計画の中に組み込んでいくことが鍵となる。予算化の仕組みが構築されなければ、自立発展性を阻害することになる。プロジェクトの拡大という点では、フェーズⅡでは、モデル集落を拡大する計画であるが、具体的な方策までは考えら

¹⁰ 前述のとおり、C/Pファンドについてエクアドル側からは「必ずしも独立したC/Pファンドとしての予算確保ではなく、通常予算の中から拠出する」というコメントが出されており、C/Pファンドの考え方について日本側・エクアドル側の認識が異なる。

れていないため、人員・予算の措置も含めた効果的・効率的な普及の計画を検討する必要がある。

第5章 結 論

プロジェクト目標は、現時点で達成されておらず、今後関係機関、関係者のより一層の努力を必要とする状況にある。

本プロジェクトの上位目標の先にあるのは、「エクアドル側の自助努力によるチンボラソ県集落住民の生計向上」にある。同県では「過去約40年間にわたり約400百万ドルの資金が投入され、政府、NGO及びドナーによる農村開発事業が実施されてきたが、必ずしも貧困状況の改善はみられず集落住民の援助依存意識だけが残った」という援助機関、地方政府、コミュニティからの指摘もある。このような状況に基づき、本プロジェクトでは「自助努力」、「意識改革」をキーワードに、貧困削減に有効な開発のあり方と実施体制整備を求めた活動を展開してきている。新たな開発手法と体制の創出をめざすというチャレンジングなプロジェクトであるがゆえの課題は尽きないが、関係者の一同の尽力により成果が徐々に発現していることは評価に値する。

一方、PDMとPOに基づいた活動自体は実施されてきているものの、それらの成果がプロジェクト目標である「貧困削減に向けた持続的農村開発実施体制の整備」に適切に結び付いていない面もあり、プロジェクト目標達成に向けては関係機関、関係者の一層の努力を必要とする状況にある。実施体制は、①問題分析能力、実施計画策定能力及び事業実施・管理運営能力をもった人材、②共有化された総合農村開発戦略とそれを効果的かつ効率的に具現化する開発手法、③事業実施資金、④組織横断的な事業実施体制という4つのコンポーネントで構成されるが、いずれも現時点では当初めざしたレベルに達していない。

コンポーネントごとの問題点は次のように指摘できる。「①人材育成」については、プロモーターの交代や関連省庁からのC/Pの配置の遅れなどによりその達成が十分ではない。「②総合農村開発戦略と開発手法」については、現状では関係組織、関係者間の開発戦略についての十分な共有化がなされておらず、戦略上での位置づけが明確とはいえない状況のまま各事業が実施されている。そのためか、パイロット・プロジェクトは各集落、地区の状況に適応した開発手法の模索と検証を目的としていたにもかかわらず、現状では同一内容の農民野外学校（ECA）が全モデル集落で行われているなど、目的に照らすと整合性に欠けた活動となってしまっているものもある。またマルチセクターによる総合農村開発を標榜している本プロジェクトではあるが、環境、教育、保健分野のパイロット・プロジェクトなどへの関係省庁の参画は途上であり、プロジェクトのコンセプトである「総合農村開発による集落住民の生計向上」への基盤が構築されつつあるとは言い難い。「③事業実施資金」では、開発戦略に基づく中期計画実施に向けた資金計画策定と関係機関への申請を計画していたが、まだ未着手の状況となっている。「④組織横断的体制」では、チンボラソ県政府（GADPCH）と4省庁（MAGAP、環境省、保健省、教育省）との協調体制は整備されてきているが、具体的な連携事業の企画立案とその実施という域にまでは達していない。

以上述べてきたようにプロジェクト目標達成に向けた課題は非常に多いが、「6-1 提言」に基づいた活動の修正と改善を行いつつ、関係機関、関係者の努力で目標を達成するよう奮起を促したい。

第6章 提言及び教訓

6-1 提言

- (1) 前章に述べた「結論」を踏まえれば、本プロジェクトの協力期間は2011年2月までとなっているが、目標である「貧困削減のため持続的農村開発実施体制の整備」をより確実にするために、合同評価委員会として6カ月間の協力期間延長をC/P機関及びJICA本部に対して求めたい。その延長期間の活用で農民野外学校（ECA）を中心とするパイロット・プロジェクトの完全実施とモニタリング・評価を通じた適切な開発手法の検証及び2011年以降の本格事業の開始に向けた準備業務（開発事業実施体制強化、事業資金調達、モデル集落の選定、地方政府のプロジェクトへの参画に向けた協議など）を行うことを提案する。
- (2) 「チンボラソ県持続的総合農村開発戦略」の詳細化を行い、C/Pによる全体的戦略の策定能力の強化、及びC/P間の「持続的農村開発戦略」の目的の共有の強化を行う必要がある。具体的には、全体戦略の目標・上位目標の修正、全体戦略及びセクター戦略のベースラインと指標の設定を行い、持続的総合農村開発戦略の実施により達成される対象地域の将来像を明確にする。
- (3) 「持続的総合農村開発戦略」の詳細化に従い、事業計画の詳細化を行う必要がある。具体的には、適切な技術を使いながら、各事業計画の戦略との整合性の明確化、各計画のベースラインと指標の設定、各事業の主要実施機関の参加・調整・役割と対象地域の明確化、各事業の実施手法（ECAとECA以外）の明確化を行う必要がある。
- (4) 事業計画に基づく年度計画は、集落住民の参加と技術面での適切な動機づけを促進し、合意に基づき決定したうえで、過去の経験、事業の各対象地域の現状・ニーズ・リソースを考慮して個々に計画される必要がある。
- (5) アンデスの伝統的な技術、祖先から伝わる知識及び作物の復興や、可能な限り集落のポテンシャルを生かした収入源創出に向けた事業の企画・立案を行い、実行する必要がある。また、ECA実施中の同集落の他の住民や他集落への活動・成果の普及計画を開発計画の中で明らかにする必要がある。
- (6) 開発計画の作成に基づき、チンボラソ州政府（GADPCH）及び各省の予算計画を作成し予算の確保を行う必要がある。今後の戦略内での活動の拡大・対象集落の拡大を踏まえ、各省の中央機関の予算管理部門と調整し、各省内での予算化（開発計画実施のための予算項目の創設など）を図る必要がある。
- (7) 戦略及び開発計画実施のための人員の継続的な割り当てを徹底する必要がある。具体的には、各関係機関のC/P、プロモーター、長官会議の定期的な開催と、各機関からの出席者の継続化（可能な限りの固定化）である。各関係機関は、協力終了後エクアドル側の自力による活動の拡大・対象集落の拡大を念頭に、十分な人員を継続して配置する必要がある。プロ

モーターについては新規着任者への研修と前任からの引き継ぎのための十分な時間を確保する必要がある。長官会議が十分な機能を果たせるように、各関係機関の権限をもったものが継続して出席する必要がある。

6-2 教訓

- (1) 本プロジェクトでは、プロジェクトのコンセプトやPDMの解釈、パイロット・プロジェクトの位置づけについて、関係者の認識の統一が十分に図られていなかった。持続的開発のための実施体制の整備に関するプロジェクトでは、プロジェクトの方針やめざすものが抽象的になりがちであるので、住民から地方自治体、関係省庁までを含めた関係者の間で、プロジェクトのコンセプトを可能な限り具体的に共有することが重要である。そのためには、PDMやPOを誰が見てもわかりやすい表現で作成すること、PDMやPOの記載内容について共通認識を得ておくこと、指標を具体的に設定することが必要である。また、コミュニティの人々にまでプロジェクトのコンセプトを伝えるため、PDM、POのみならず、必要に応じて、プロジェクトのコンセプトや持続性に向けた実施体制などを、概念図やイメージ図などで示し共有することが有効である。
- (2) 本プロジェクトは、実施体制の整備を図るものであったが、C/Pの配置が遅れ、組織間連携が十分に機能した実施体制整備が遅れた。開発の実施体制整備をめざすプロジェクトでは、効果的な組織間連携の促進が重要である。組織間連携を促進するためには、プロジェクト開始時から、各セクター関係機関のアクターすべてが揃い、問題分析、開発戦略策定などの作業を共に行うことが有効である。そのためにも、プロジェクト開始時に、各機関のC/Pが配置されていることが必要である。
- (3) プロジェクトの自立発展性を高めるためには、コミュニティの有識者との対話を通して、国・地域レベルの開発ビジョン、地域の習慣、伝統、自治体制を把握し、これらを尊重して行政・コミュニティの共同による参加型計画を行うことが有効である。

付 属 資 料

1. 調査日程表
2. PDM ver. 1
3. 評価グリッド
4. 質問票
5. 質問票回答集計結果
6. 投入実績表
7. 活動実績一覧表
8. PDM 改訂版
9. PO 改訂版
10. ミニッツ（署名版）（西文）
11. ミニッツ〔和文（仮訳）〕
12. 合同評価報告書（署名版）（西文）
13. 面談者リスト
14. 持続的農村開発戦略（西文）
15. 持続的農村開発戦略〔和文（仮訳）〕
16. プロジェクト関係資料

1. 調査日程表

No	日程	時間	①団長(永代)	②計画管理(山中)	③評価分析(コンサルタント)	④通訳(西⇄和)
1	2010/7/25	日			15:55 成田(C0006)⇒13:50 ヒューストン 17:45 ヒューストン(C0653)⇒23:00 ｷﾄ	07:06 メキシコ(CM195)→10:46 パナマ11:56 パナマ(CM829)→13:46 ｷ
2	2010/7/26	月			JICAエクアドル支所打合せ 評価調査(MAGAP本省 / 山下農業政策振興アドバイザー) 評価調査(環境省) 評価調査(保健省) 評価調査(教育省) PNBVに関する調査 ｷﾄ→ﾘｵﾊﾞﾝﾊﾞ	
3	2010/7/27	火			AM 13:00 15:00 プロジェクト事務所にて打合せ(日本人専門家) 合同評価委員会(評価方法の説明、評価への協力依頼)	
4	2010/7/28	水			8:00 10:00 11:00 14:30 16:00 表敬・評価調査(チンボラソ県庁) 表敬・評価調査(MAGAP県事務所) 表敬・評価調査(環境省県事務所) 表敬・評価調査(教育省県事務所) ※スペイン語局 表敬・評価調査(教育省県事務所) ※二言語局 表敬・評価調査(Colta市役所)	
5	2010/7/29	木			7:00 11:00 12:00 14:00 15:30 17:00 対象コミュニティ調査(El Lirio集落) 昼食 対象コミュニティ調査(Rumicruz集落) 表敬・評価調査(Calpiパロキア役所) 表敬・評価調査(保健省県事務所)	
6	2010/7/30	金			対象コミュニティ調査(Sarachupa集落) 表敬・評価調査(Palmiraパロキア役所) 昼食 表敬・評価調査(Guamote市役所)	③
7	2010/7/31	土			資料整理	
8	2010/8/1	日			資料整理	
9	2010/8/2	月			10:40 リマ(TA134) →12:55 ｷﾄ FAOプロジェクト(Runa Kawsay)調査 表敬・評価調査(MAGAP第三地域事務所)	
10	2010/8/3	火			9:00-10:00 JICAエクアドル支所打合せ 10:15-10:45 表敬・評価調査(MAGAP) 11:05-11:35 表敬(AGECI) 12:00-12:30 表敬(環境省) 14:00-14:30 表敬(教育省) 14:45-15:30 表敬(保健省) ｷﾄ→ﾘｵﾊﾞﾝﾊﾞ	17:37 アランカ(DL673) →22:06 ｷﾄ 資料整理(合同評価報告書を少なくとも5項目評価まで素案完成、その他評価グリッド等) 官団員と合流
11	2010/8/4	水			6:00 ｷﾄ→ﾘｵﾊﾞﾝﾊﾞ 8:00 プロジェクト事務所にて打合せ(日本人専門家) 9:00 表敬・評価調査(チンボラソ県庁) 10:00 表敬・評価調査(保健省県事務所) 11:00 表敬・評価調査(環境省県事務所) 15:00 表敬・評価調査(MAGAP県事務所) 16:00 表敬・評価調査(教育省県事務所) ※スペイン語局 17:00 表敬・評価調査(教育省県事務所) ※二言語局 19:00 団内打合せ	①、②、③
12	2010/8/5	木			8:00 表敬・評価調査(チンボラソ県庁 クリカマ県知事) 10:00 対象コミュニティ調査(San Maltin Alto集落) 11:00 表敬・評価調査(Columbeパロキア役所) 15:00 表敬・評価調査(Riobamba市役所) 16:30 評価調査(プロジェクトC/P)	①、②
13	2010/8/6	金			合同評価委員会	①、②
14	2010/8/7	土			団内打合せ(日本人のみ)	翻訳
15	2010/8/8	日			資料整理・翻訳	必要に応じ
16	2010/8/9	月			8:30 合同評価委員会(評価報告書内容確定・署名、MM案作成)、報告書とMM案を各関係機関へ送付。 12:00 MM案協議 16:00 合同評価委員会(教訓、PDM・PO改定版検討) 20:00 合同評価報告書へ署名	①、②、③
17	2010/8/10	火			15:00 C/Pと評価結果確認・協議	
18	2010/8/11	水			AM テリトリアル計画についての情報収集 15:00 リオバンバ→ｷﾄ	①、②、③
19	2010/8/12	木			AM CCC開催 MM署名 大使館報告	①、②、③
20	2010/8/13	金			エクアドル支所報告	
21	2010/8/14	土			資料整理	②

プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) Ver.1

案件名 : チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

協力期間 : 2009年～2011年 (2年間)

対象地域 : チンボラソ県 (コルタ郡、グアモテ郡、リオバンバ郡)

協力相手先機関 : チンボラソ県政府 (CPCH)、農業牧畜漁業省、環境省、教育省、保健省

裨益者 : チンボラソ県 3 郡の対象集落住民 (各郡 2 集落 計 6 集落)

Ver1 合意年月日: 2008年11月26日

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
スーパーゴール シエラ地域で県政府、関係省庁、関係機関、住民によって持続的総合農村開発事業が実施される。	1) チンボラソ県の農村開発モデルに関連した持続的総合農村開発事業が、シエラ地域で実施される。	1) 対象事業の実施報告書	● エクアドルの貧困削減に対する政策上の重要度が低下しない。
上位目標 チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。	1) チンボラソ県持続的総合農村開発戦略に基づいたアクションプランが実施される。	1) 対象事業の実施報告書	● エクアドル政府、他県が本事業を農村開発のモデルに採用する。 ● チンボラソ県の貧困削減に向けた持続的総合農村開発政策に変更がない。
プロジェクト目標 チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。	1) チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターからなる開発事業実施チームが形成される 2) 持続的総合 (マルチセクター型) 農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保される	1) 開発事業実施チームの運営運営にかかる合意書 2) -1 チンボラソ県政府予算書 2) -2 関係省庁のチンボラソ県政府向け事業予算書	● 県政府、関係省庁及び関係機関の役割、体制が大幅に変更されない。 ● パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員が確保される。

<p>成果 1 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) C/P によりモデルコミュニティの現況調査とベースライン調査が計画・実施される。 2) C/P により対象コミュニティにお現状把握調査報告書が作成される。(全部で6つの報告書) 3) C/P によりコミュニティレベルの開発ニーズの把握・共有のための参加型ワークショップが開催される。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象集落調査報告書 2) ワークショップ報告書 	
<p>成果 2 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 住民と共有されたチンボラソ県の持続的総合農村開発戦略が策定される。 2) 住民と共有された各セクター(農業・農村開発、環境、教育、保健、公共事業)のための事業計画が策定される。 3) C/P により事業計画実施のための資金計画が策定される。 4) C/P により事業計画実施のための要請書が関係機関に対し提出される。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) チンボラソ県持続的総合農村開発戦略及び住民との合意議事録 2) セクター別事業実施計画オヨに住民との合意議事録 3) 事業計画実施のための資金計画 4) 事業計画実施のための要請書 	
<p>成果 3 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) プロジェクト運営委員会が定期的(月 1 回程度)に開催され、C/P によりパイロット・プロジェクト実施報告が行われる。 2) パイロット・プロジェクト実施報告書がプロジェクト運営委員会に提出される。 3) C/P によりパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価が行われる。 4) 持続的総合農村開発手法マニュアルが作成される。 5) 公的機関による事業の実施・運営・管理に関し、住民の満足度が向上する。(ベースライン調査時及び終了時の比較) 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 住民に対する満足度調査 2) パイロット・プロジェクト実施報告書 3) プロジェクト運営委員会議事録 4) 持続的総合農村開発手法マニュアル 	

<p>活動</p> <p>"問題分析能力強化"</p> <p>1-1 プロジェクト運営委員会、分野別ワーキンググループを設置する。</p> <p>1-2 モデル集落を選定する。</p> <p>1-3 モデル集落で現況調査/ベースライン調査を実施する。</p> <p>1-4 参加型ワークショップを通じて、集落の開発ニーズを把握する。</p>	<p>投入</p> <p><エクアドル側></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトダイレクター、プロジェクトマネージャー ● プロジェクトスタッフ(チンボラソ県技術者;農業、環境、教育、保健、公共事業の各分野から各一名以上のフルタイムCP) ● プロジェクトスタッフ(農業、環境、教育、保健、公共事業の各分野の省庁県事務所の担当者;フルタイムCP) ● プロジェクト運営経費(パイロット・プロジェクト実施経費、プロジェクト運営管理費) ● プロジェクト事務所の設置(チンボラソ県庁舎内;家具、基本備品、電話、インターネット設備) ● アシスタント要員の配置 ● プロジェクト車輛 <p><日本側></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長期専門家(①チーフアドバイザー/コミュニティ開発人材育成 24MM、②参加型開発/業務調整 24MM) ● 短期専門家(参加型ワークショップ手法、土壌保全、教育、保健の各分野;各分野3ヶ月程度) ● 第三国専門家(PCM手法;アルゼンチン、チリ等より) ● ローカルコンサルタントの配置 ● 第三国研修の実施(ボリビア等の先行事例など) ● 資機材(パイロット・プロジェクト実施のため) ● プロジェクト運営経費の一部補填 ● プロジェクト車輛 	<ul style="list-style-type: none"> ● チンボラソ県の治安が確保される。 ● 集落の継続的な協力が得られる。
<p>"事業計画策定能力強化"</p> <p>2-1 開発ニーズに基づき持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略を策定する。</p> <p>2-2 セクター別事業計画を策定する。</p> <p>2-3 各事業計画実施に必要な資金計画を策定する。</p> <p>2-4 関係機関に事業計画の実施を要請する。</p>		
<p>"事業実施・運営管理能力強化"</p> <p>3-1 パイロット・プロジェクト実施に必要な体制を整える。</p> <p>3-2 モデル集落でパイロット・プロジェクトを実施する。</p> <p>3-3 モニタリング・評価を行う。</p> <p>3-4 持続的総合農村開発手法案を策定する。</p>		

評価グリッド（エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト）

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
1.	成果の産出度	成果1(テンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される)の達成度	1)「C/Pによりモデルコミュニティの現況調査とベースライン調査が計画・実施される。」の達成度	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	2009年にモデル集落のベースライン調査が計画され実行された。
			2)「C/Pにより対象コミュニティにおける現状把握調査報告書が作成される。(全部で6つの報告書)」の達成度	対象集落調査報告書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	2009年に、9モデル集落に関する調査報告書が作成された。また、9集落全部を合わせた全体的傾向を示した報告書1冊が作成された。
			3)「C/Pによりコミュニティレベルの開発ニーズの把握・共有のための参加型ワークショップが開催される。」の達成度	ワークショップ報告書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	2009年に、9モデル集落で参加型ワークショップが開催された。4部門のワーキンググループが、参加型ワークショップ結果をまとめて部門別の課題を分析した。
		上記指標の他に成果1の活動による成果はあるか？	質問票、関係者のヒヤリング	C/Pの中にはワークショップ運営能力が向上したと認識している者がいる。	
		成果2(テンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される)の達成度	1)「住民と共有されたテンボラソ県の持続的総合農村開発戦略が策定される。」の達成度	テンボラソ県持続的総合農村開発戦略及び住民との合意議事録、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	CPと専門家の協同により、2009年12月、モデル集落における参加型診断に基づいて策定された持続的総合農村開発戦略が、2009年12月に承認された。
			2)「住民と共有された各セクター(農業・農村開発、環境、教育、保健、公共事業)のための事業計画が策定される。」の達成度	セクター別事業実施計画及び住民との合意議事録、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	参加型診断に基づいて策定された持続的総合農村開発戦略に基づき、事業計画が策定され、中央での承認を得た。2009年12月、合意を得た。
	3)「C/Pにより事業計画実施のための資金計画が策定される。」の達成度		事業計画実施のための資金計画、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	C/P機関は事業計画実施のための資金計画策定には着手していない。	
	成果3(テンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される)の達成度	4)「C/Pにより事業計画実施のための要請書が関係機関に対し提出される。」の達成度	事業計画実施のための要請書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	まだ着手されていない。	
		上記指標の他に成果2の活動による成果はあるか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	C/Pの中には、計画策定能力が向上したと考えている者がいる。ただし、パイロット・プロジェクトレベルの計画能力は習得したが、全体的戦略を策定する能力はまだ十分でないと考えられる者もいる。	
		1)「プロジェクト運営委員会が定期的(月1回程度)に開催され、C/Pによりパイロット・プロジェクト実施報告が行われる。」の達成度	パイロット・プロジェクト実施報告書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	プロジェクト運営委員会でパイロット・プロジェクトの進捗報告が行なわれてきた。2010年5月までは基本的1月に1回プロジェクト運営委員会を実施してきた。その後は、プロジェクトの進捗を判断するには適切な期間をおいた方がよいことから、プロジェクト運営委員会は3ヶ月に1回、C/Pの長官会議を月1度開催していくことになった。	
	成果3(テンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される)の達成度	2)「パイロット・プロジェクト実施報告書がプロジェクト運営委員会に提出される。」の達成度	パイロット・プロジェクト実施報告書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	パイロット・プロジェクトの活動記録等、プロジェクトの各種の活動記録が作成され、プロジェクト運営委員会に提出されてきた。	
		3)「C/Pによりパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価が行われる。」の達成度	プロジェクト運営委員会議事録、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	プロジェクトにおけるパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価としては、年間計画に基づき、プロジェクト終了前までに、パイロット・プロジェクトの評価や住民に対する満足度調査を行なう予定である。モデル集落におけるパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価を誰がどのように実施するかという、関係機関による継続的なモニタリング体制作りは、まだ着手されていない。	
		4)「持続的総合農村開発手法マニュアルが作成される。」の達成度	持続的総合農村開発手法マニュアル、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	年間計画に基づき、パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価を行い、十分な情報を得たのち、2011年初頭から作成する予定である。	

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
プロジェクトの実績	活動の実績	5)「公的機関による事業の実施・運営・管理に関し、住民の満足度が向上する。(ベースライン調査時及び終了時の比較)」の達成度	住民に対する満足度調査、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	2011年初頭以降、住民に対する満足度調査を行ない満足度を確認する予定である。聞き取り調査した集落では、パイロット・プロジェクトについては、大部分の住民が、肥料の使い方等の技術を習得し活動には満足している。	
		上記指標の他に成果3の活動による成果はあるか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	パイロット・プロジェクトの実施により、対象地域住民は、肥料、種まき等の知識を身につけ、実践している。ECAに参加することにより、組織活動の参加・運営のノウハウを習得しつつ。	
		活動の進捗状況	プロジェクト進捗状況は全体的に良好といえるか？	プロジェクト報告書、関係者のヒヤリング	進捗に遅れが生じていた時期もあったが、評価時点では、予定されていた活動はほぼ実施されている。
		活動にあたっての問題点	進捗に影響を与えている問題はあるか？	関係者のヒヤリング	C/Pの配置が遅れた。C/P、プロモーターらの交替。保健省においては、省全体の機構改革の影響もあり、県事務所長が頻繁に交替した。プロモーターは年間契約で、1年ごとに交替せざるを得ない。教育省では、先住民の抱える問題が大きいにもかかわらず、当初スペイン語局のみがC/Pとなっており、進捗に影響を与えた。
		問題発現時にとられた対策	その問題を解決するためにどのような手段をとっているか？	関係者のヒヤリング	2009年11月の運営指導調査の提言を受け、4省庁のC/Pが配置された。保健省中央では、頻繁なC/P交替がないよう、申入れを行う意向でいる。プロモーターについては、前任者から詳細な引継ぎを受けたものは円滑に業務を実施している。教育局スペイン語局では、成人の会計・マイクロ起業支援などで、プロジェクトへの積極的参加を試みているほか、大学との協力による健康診断を提案し、保健省で協定に調印する予定である。
	投入の実績	投入の実績	エクアドル側		
			* CPは計画どおりに配置されているか？	プロジェクト報告書、質問票	C/Pの配置が遅れた。2009年11月以降、4省庁のC/Pが正式に配置された。C/Pの給与は各省庁から支払われている。保健省県事務所は頻繁な人事交替があった。プロモーターは、当初予定していた「農業の専門性を持つ者、自動二輪の免許を持つ者」という条件を有する人材が採用されなかった。
			* 経費と資材が計画どおりに投入されているか？		予定通り投入されている。
			* 土地、建物、施設は計画どおりに提供されているか？		県庁内にプロジェクト事務所が提供されている。ただし、スペースがやや狭く、C/P全員そろうての活動が困難である。事務所運営費用は県庁から提供されている。県庁からは、プロジェクト事務所の光熱費・備品、車両ガソリン代が拠出されている。教育省は、識字学校の教員給与、テキスト代、保健省からは巡回健康診断の費用が、通常予算から拠出されている。その他、保健省からは、ポリビア研修参加者の黄熱病のワクチン投与が無料で提供された。
			日本側		
* 専門家は計画どおりに派遣されているか？	プロジェクト報告書、質問票	計画通り、派遣されている。			
* 研修員受入れ(第三国研修)は計画どおりに実施されているか？		第三国研修は、計画通り実施された。当初計画にはなかったが、本邦研修を実施し、県知事らが参加した。			
* 機材は計画どおりに供与されているか？		計画通り、供与されている。プロジェクト事務所の備品、車両、自動二輪車、塩素浄化器等を供与した。			
* ローカルコストは計画どおりに負担されているか？		計画通り、支出されている。			

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果
	大項目	小項目		
2. プロジェクトの実施プロセス	プロジェクトのマネジメント体制	プロジェクト実施体制	プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか？	C/P配置の遅れ、C/Pの交替等により、当初は進捗が遅れがちであったが、評価時点では、県庁を中心に適切に機能している。ベースライン調査及び戦略立案の活動においては、ワーキンググループを設置した。パイロット・プロジェクト実施では、総合技術支援グループが形成された。ただし、C/P機関によるパイロット・プロジェクトの運営・モニタリング体制が十分に構築されるには、まだ時間がかかる見込みである。会議にあたっては、タイムリーに関係者に開催の連絡が届き、テーマが参加者の間で共有されている。ただし、会議では、プロジェクトの運営実施管理に必要な事項の検討に時間がさかれがちで、体制構築や技術的事項に関する討議が十分に行われないことがある。
		モニタリングの実施	モニタリングはどのように実施されているか？	月1回(2010年5月以降は3か月に1回)のプロジェクト運営委員会(COP)でプロジェクトの進捗と成果を確認している。長官会議には、代表者でなく代理のものが出席することが多いため、その場で意思決定を行うことができず、本来の機能を果たしていない。
			PDM・POIは適宜修正されているか？	PDMの解釈につき、関係者間で認識が統一されていない部分があったが、プロジェクト開始以来、PDMは改訂されていない。運営指導調査、合同調整委員会の場などにおいても、各回の議題の消化に追われ、PDMの解釈について、十分な認識の共有を図る機会がなかった。POIについては、適宜見直しが行われ、関係者間で共有されている。
			PDMはどのように活用されているか？	活動全体の進捗のモニタリング・ツールとして活用され、活動はPDMに基づいて実施されている。
	関係機関のコミュニケーション	関係機関間のコミュニケーションは良好か？	概ね良好である。省庁間の調整については、以前から様々なアクターと業務を実施しており慣れていた省もあるが、当初は調整が困難だったこともあった。現在は県庁及び各省庁間の調整は円滑に進んでいるが、C/P機関の長に十分な情報が届いていないこともある。中央レベル省庁は、合同委員会には参加しており、行政的な手続きなどでプロジェクトを支援しているものの、プロジェクトに関し十分な情報を得ていないことがあり、中央と県との調整が十分に行われていない場合もある。パイロット・プロジェクト対象地域の住民と、C/P、プロモーターらのコミュニケーションはよい。プロモーターの中には、専門家や一部C/Pと十分なコミュニケーションが図れていないと感じている者もいる。	
		開発調査等関連する案件との連携は適切に行われたか？	開発調査のチンボラソ県の調査については、プロジェクトと情報共有を行ったが、協調・連携した活動は行っていない。チンボラソ県に配置されているJICAのシニア・ボランティア5名及び短期派遣協力隊員とは、プロジェクトで適宜情報交換を行っている。土壌分析シニアボランティアはプロジェクトとともに、集落の訪問を行っており、また、保健シニアボランティアの提案により、塩素浄化器導入の提案がなされた。短期協力隊員は、モデル集落のモニタリングを行っている。	
技術移転の方法	専門家とカウンターパートとの関係	専門家の技術移転の方法、コミュニケーションのとり方、その状況はどうか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング	専門家の支援は、C/P機関から好意的に受け止められている。C/Pとともに活動を実施していくアプローチが適切である。ただし、専門家は管理業務に多くの時間をさかれがちである。外部講師として雇用したエクアドル人は、現地の事情に通じており、C/Pに対する研修は好評であった。
カウンターパートのプロジェクトに対する認識度	C/P機関のオーナーシップ	意思決定プロセスに中央省庁はどの程度関与しているか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング	合同評価委員会に参加している。技術的な内容は主として県事務所決定しているが、C/P配置や行政手続き、予算確保においては、中央省庁の関与は重要である。ただし、国際協力局だけの関与では不十分である。
		意思決定プロセスに県の関係機関はどの程度関与しているか？		県庁、各省庁県事務所とも、各種会議に積極的に参加し、意思決定に関与している。県庁は全体の調整を積極的に行っており、オーナーシップが高いと言える。他の4省庁も、農牧省は農村開発の中核的省庁として、積極的な役割を担っているなど、努力をしているが、C/Pファンドの確保に着手していないなど、オーナーシップが十分に高いとは言えない。
		カウンターパートの関わり方は変化しているか？		各省庁のC/Pが正式に配置されてから、C/P機関の関与が積極的になった。
その他ステークホルダーのプロジェクトへの参加度およびプロジェクトの認知度	ステークホルダーの事業への関わり方はどうか？	コミュニティは活動にどのように関与しているか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング	積極的に参加している。2010年4月に実施されたパイロット・プロジェクト地域対象のワークショップにおいて、住民の間でパイロット・プロジェクトの実施内容を決定し、実施している。評価調査で訪問したコミュニティのECAでは、途中から参加しなくなった住民が数名いるコミュニティもあるが、大部分の住民は参加を続け、活動から学んでいる。

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
	プロジェクトに対する認識度		その他関連機関は、プロジェクトにどのように関与しているか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング 郡・パロキア事務所は、プロジェクトでC/P機関とはなっていないため、県庁を通してプロジェクトの情報を得ている場合もあるが、評価調査で訪問した事務所はプロジェクトについて多くの情報を得ているとはいえない。	
3. 妥当性	プロジェクトを実施する必要性	対象地域・社会のニーズとの整合性	対象地域・社会のニーズに合致しているか？	エクアドル国及びテンボラソ県の政策文書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング	テンボラソ県農村部の住民の生活は厳しく、持続的総合農村開発は重要である。持続的総合農村開発には、テンボラソ県庁、農牧省のみならず、環境、教育、保健等他省庁が協調して取り組むことが必要である。2007年1月に発足した現政権では、こうした多省庁・機関協調の取組みを重視しているが、協調のための体制はまだ整備途上であり、体制強化のニーズは高い。
		ターゲットグループのニーズとの整合性	総合農村開発の実施体制整備は地元住民に便益をもたらすか？	エクアドル国及びテンボラソ県の政策文書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング	コミュニティの住民は、農業生産、識字、保健、環境保全等、多くの問題を抱えている。こうした問題に取組み、継続して住民の生活水準の引き上げを図るには、住民のイニシアティブを尊重し関連する多機関が協調して継続的に取り組むための持続的総合農村開発の実施体制を整備することが有効である。
	優先度	相手国の開発政策との整合性	エクアドル政府の農村開発政策と合致しているか？	エクアドル国及びテンボラソ県の政策文書	エクアドル国の開発計画である「Plan Naional para el Buen Vivir 2009-2013」では、Objetivo3で、住民の生活の質の向上を挙げている。また、Estrateria8では、地方分権化の推進と計画運営の強化を挙げている。
		日本の開発援助政策との整合性	日本対エクアドルODA政策の中で優先度は高いか？	ODA資料	日本の対エクアドルODAの重点分野は、貧困対策、環境保全、防災で、貧困対策分野には、農村開発、教育改善、保健衛生向上が含まれる。プロジェクトは、貧困対策分野と合致しており、環境保全の要素も含まれている。
	手段としての適切性	プロジェクト目標・アウトプットの選択・ターゲットグループの選定の適正度	適切なプロセスを経て計画されたか？		適切である。事前評価において、テンボラソ県の多部門の職員、コミュニティ住民を対象にワークショップを実施し、関係機関の意見を幅広く聴取し、関係者の合意のもと、プロジェクト計画を策定した。
			プロジェクトのデザインや活動計画は持続的農村開発実施体制強化の戦略として適切であったか？		実施体制の整備という観点からは、情報分析・計画・実施の点から関係省庁の実施体制の整備を図るもので、適切と言える。戦略計画の策定、パイロット・プロジェクトの実施等、統合的農村計画を実践的に計画・実施する「訓練」になるようデザインされている。こうした「訓練」は、すでに関係機関で行われていることではあるが、プロジェクトの実施により、知識を強化し、実践の場を提供することが可能となった。 パイロット・プロジェクトは開発手法の妥当性の検証のために実施しているが、PDM上からはパイロット・プロジェクトの位置づけが若干不明確であり、パイロット・プロジェクトの結果をどのように活用するのかの共通認識が関係者の中で明確でない。
			OP機関の組織・規模・財政状況に対して適性な計画が立てられたか？		県庁、4省庁の県事務所とも、予算・人員とも潤沢ではないものの、プロジェクトの実施に必要なC/P、予算を提供できており、適切であったと言える。
			日本が協力する比較優位はあるか？比較優位がある場合、それは主にどの分野か？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒアリング	日本は、農村開発、農村の生活改善等に豊富な経験を持つ。パイロット・プロジェクトにおける住民組織強化や生産向上、生活改善等に活用が可能。
			対象集落の選定方法は適正といえるか？		当初の計画では、選定基準を明確にするなど、選定を適切かつ透明性のあるものにする工夫がなされていた。しかしながら、実際には、プロジェクトが始まった時に、すでに県庁の主導で決定されており、これにプロジェクト関係者が合意するという事になった。県庁の事情があったにせよ、また、最終決定にあたっては関係者の合意を得たうえではあるが、選定のプロセスという点では、適切であったとはいえない。ただし、結果的には、コミュニティの積極性や県都からのアクセス、他の援助機関による支援が入っていないこと等の点で適切であったと言える。インタビューでは、より貧困な地域がある、という声も聞かれたが、本プロジェクトのパイロット・プロジェクト実施の対象地域としては、ある程度アクセスを重視する必要があったと考えられる。
			ターゲットグループの対象・規模は適正といえるか？		PDMには明記されていないが、プロジェクトのターゲット・グループは、プロジェクト目標である実施体制整備に関連する、県庁及び4省庁の県事務所と考える。持続的農村開発には体制整備が不可欠であり、ターゲットグループを関連する行政機関としたことは適切である。総合農村開発には、住宅等他にも関連する省庁はあるが、ニーズの高さ及び限られたプロジェクト期間での取組みという観点から、県庁及び4省庁を対象としたことは適切と言える。

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
4. 有効性	プロジェクト目標の達成度	プロジェクト目標(テンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される)の達成度合	1)「テンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターからなる開発事業実施チームが形成される。」の達成度	開発事業実施チームの運営運営にかかる合意書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	プロジェクトオフィスに、農業牧畜省、環境省、保健省、教育省スペイン語局、教育省二言語局からの技術者が配属され、週に数日勤務している。県庁からは、常勤の2名のスタッフ以外に、各分野に関係するスタッフが必要な時に協力することになっている。また、1年契約であるが、プロモーターが採用され、活動を行っている。しかしながら、プロモーターは継続雇用の職員ではないので、これらの活動は脆弱である。もともと当初予定していた開発事業実施チームに入っていなかったという事情はあるが、郡・パロキアの関与は弱い。実施チームは形成されていると言えるが、実施体制の強化という意味では、必要な人材の配置が遅れ、本格的に機能し始めたのが、2010年に入ってからであり、また、プロモーターが継続雇用でないこともあり、能力強化については、現時点では顕著とは言えない実施体制はまだ脆弱で、さらなる能力強化が必要である。インタビューでは、自分で判断してプロジェクトを運営できるようになった、ワークショップを実施できるようになった、県庁と関係省庁の調整が円滑になった、等の能力の向上が報告されている。
			2)「持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保される。」の達成度	テンボラソ県政府予算書、関係省庁のテンボラソ県政府向け事業予算書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	2)-1 テンボラソ県庁は、本プロジェクトに対し人件費及び運営費を予算化している。パイロット・プロジェクトの実施については、活動費用のうち、県庁が45%、JICAが45%、モデル集落が10%(実際は役務提供)を負担するという方針が承認されており、2011年度分については、申請手続きに入っている。テンボラソ県庁は、今後も引き続き予算化していくと見込まれる。 2)-2 4省庁のC/P機関県事務所は、C/Pファンドとしての事業予算化までには至っていない。
		プロジェクト目標達成の促進要因	プロジェクト目標達成の促進要因は何か?	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	総合的農村開発のための実施体制構築は、エクアドル国の政策と合致しており、関係機関では、体制構築に積極的で、また、すでに、多省庁協調によるプロジェクト(INTI等)を実施する等、ある程度取組みが進んでいた。 C/Pの配置が遅れたこと。2009年11月の合同調整委員会でC/Pの配置を申入れ、C/Pが配置された。
		プロジェクト目標の達成を阻害する要因の有無	阻害要因は何か?どのような対処方法が取られているか?		
	成果とプロジェクト目標との因果関係	成果の充足度	プロジェクト目標を達成するために適切な成果が設定されているか?	関係者のヒヤリング	実施体制には、現状の分析、計画、実施というプロセスが必要であり、3つの成果が適切に設定されている。
			成果間の相乗効果が考えられているか?	関係者のヒヤリング	問題分析、計画、実施は、一連のプロセスであり、これらを総合して行うことで効果が得られる。
		プロジェクト目標を達成するための外部条件	プロジェクト目標を達成するための外部条件があったか?	関係者のヒヤリング	「関係機関の人事異動が頻繁に起こらないこと」が、プロジェクト目標達成の外部条件になると思われる。
成果の産出の要因	成果達成の促進要因	成果達成の促進要因は何か?		関係機関が積極的に取組んだこと。関係機関が積極的に取組んだ背景には、中央レベルで各省庁がR/Dに署名したことがある。各省庁の中央レベルが文書によりコミットしたことは、関係機関のコミットメントの確保と円滑な実施促進に重要。 対象地域の住民が積極的であったこと。	
	成果達成を阻害する要因の有無	阻害要因は何か?どのような対処方法が取られているか?	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	ECAについては、訪問したモデル集落では、ECAを運営していくためのコミュニティの組織能力や住民のモチベーションの強化等にも配慮がなされているものの、農業生産技術の習得に重点がおかれていると認識している関係者が多い。関係者間でECAの手法やその意義について意識の統一を図らなければ、成果が阻害され、また正当に評価されなくなる可能性がある。 問題分析に関しては、既存の情報、指標を活用すれば、より効率的に進んだ可能性が指摘されている。今後プロジェクトのベースライン調査や活動の成果も活用し、関係省庁で情報整備を進めていくことが望まれる。	
	活動の適正度	活動は、各成果を産出するために充分であったか?		十分な活動が計画されている。	

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
5. 効率性	投入および活動と成果の因果関係	投入の適正度	成果を産出するために適切な投入がなされたか？	質問票、関係者のヒヤリング 投入は概ね適切に行われた。ただし、C/Pの配置が遅れたこと、頻繁な人事異動があったこと、プロモーターが1年ごとの契約雇用であることは、実施体制の整備を図る本プロジェクトにおいては、問題を残した。例えば、現在のC/P体制がほぼ整備されたのは、ベースライン調査が終了した後であったので、現在のC/Pには、問題分析に参加していない者が多い結果となっている。	
		成果を達成するための外部条件	成果を達成するための外部条件があったか？	質問票、関係者のヒヤリング 関係機関の職員及びプロモーターの人員交替	
	投入のタイミング・質・量	投入の適正度	専門家の人数、タイミング、分野は適正か？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	長期専門家2名は、適切な経験と技能を持ち、任務を遂行しようと努力し、成果を挙げている。短期専門家は、関係省庁の分野に応じた適切な専門性を持つ専門家がバランスよく派遣され、それぞれの任務を適切に遂行した。PCM手法の指導、戦略計画の策定、ECA等、プロジェクトの鍵となる活動においては、短期専門家が大きな役割を果たした。実施体制構築が目的の本プロジェクトにおいては、全体の運営管理及びC/Pの能力強化全般を行う長期専門家と、プロジェクトの中核的活動を支援する短期専門家という組み合わせによる派遣は適切であったと言える。しかしながら、多くの関係機関が関与する本プロジェクトにおいては、長期専門家2名では、管理業務にさかれる時間が多くなりがちで、関係機関の問題分析・計画能力の強化に関する活動やパイロット・プロジェクトのモニタリングに十分な時間をとるのが困難な時があった。外部講師として雇用したエクアドル人講師は、同国人として、現地の事情に詳しく、モデル集落住民からの好意的に受け入れられ、成果を挙げた。
			供与機材の種類、機種、数、タイミングは適正といえるか？		供与機材は、事務所用備品、車両等、プロジェクトの基本的活動に必要なものが中心であり、ほぼ適切であると言える。塩素浄化器は、パイロット・プロジェクトのモデル集落に供与され、活用されている。
			CP研修実施のタイミング、人数、研修内容は適正と言えるか？(第三国研修含む)		本邦研修には、県知事と公共事業部長の2名を派遣した。ハイレベルの人材の派遣であり、C/P関係機関のプロジェクトの理解を深め、円滑なプロジェクト進行を推進するという点では効果があつたと言える。また、日本の農村開発の経験が他の職員に伝達されている。ただし、実施体制の強化という点では、問題分析・計画・実施の実務に携わる人材を派遣すれば、より効果的であった。ポリビアにおける第三国研修は、県庁職員、プロモーター、モデル集落住民らを派遣した。派遣にあたっては、実施の目的を明確にしより効果を上げるため、プロジェクトの会議でオリエンテーションを行った。各参加者とも、ポリビアとの比較から、土壌保全の重要性や適正な農業技術について学んだ。モデル集落からの参加者は、帰国後集落の他の住民と経験を共有している。実施体制の構築という点では、個別技術に関する知識・経験の交換のみならず、総合農村開発の実施体制に関する意見交換等を行えば、より効果的であったと考えられる。プロモーター3名を派遣したが、1年の雇用で交替すると、効率性が阻害される。
			プロジェクト運営費の量とタイミングは適正といえるか？		必要な経費は、適切なタイミングで支出された。
			配置されたCPの人数、タイミング、分野は適正と言えるか？		C/Pの配置が遅れたが、配置されたC/Pは適切な経験・能力と高いモチベーションを有している。プロモーターは、村落の中から推薦により選定された。多くの者は先住民言語を話し、モデル集落住民との円滑な活動に貢献している。一方で、1年ごとの契約雇用となるため、効果的な活動の継続に大きな影響を与えている。当初プロジェクトで要請した要件(農業の経験と自動二輪免許)を満たさない者が採用されたが、期待された任務を遂行している。
			提供された施設設備の規模、タイミング、質は適正といえるか？		県庁からプロジェクト事務所が提供されているが、関係者全員がともに業務を行うにはやや狭い。県庁では、スペースをさがしているところである。
			CP側のローカルコスト負担は適正に行われたか？		適正に行われている。
			活用されていない投入はあるか？		プロモーターの巡回用に自動二輪車4台を購入した。評価時点では、登録の手続き中であるが、現時点で自動二輪免許を持つプロモーターが1名しかおらず、今後も免許を持つプロモーターが採用されなかった場合は、供与した機材が活用されない結果になる。

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
6. インパクト	上位目標達成の予測	上位目標(チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。)がプロジェクト終了後3～5年で達成できる見込み	1)「チンボラソ県持続的総合農村開発戦略に基づいたアクションプランが実施される。」の達成度	まだ実施されていない。 インタビューによれば、C/Pの問題分析・計画能力については、顕著な向上はまだ見られないとする意見がある一方、ワークショップ実施能力が強化された、各機関の協調体制が円滑になっている等の報告があり、今後関係機関の能力と協調体制の強化が進めば、アクション・プランを実施できる見込みはある。	
		上位目標の達成を阻害する要因の有無	社会経済的要因、社会文化的要因などの状況は変化していないか？	プロジェクトに影響を与えるような大きな変化は見られない。	
	因果関係	プロジェクトのロジックの適正度	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか？(上位目標は、プロジェクト終了2～3年後に達成できるか？)	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	予算確保も含めた実施体制が整備されれば、アクション・プランを実施することが可能であると考えられるので、ロジックとしては適切であり、プロジェクト目標達成後2、3年で達成されるものと考えられる。
		プロジェクト目標から上位目標にいたるまでの外部条件が充足する可能性	「県政府、関係省庁及び関係機関の役割、体制が大幅に変更されない」は充足されているか？		「県庁、関係省庁の役割・体制が大幅に変更されない」は、現状では、この条件は満たされている。しかしながら、地方分権化が進んでいく中で、県庁、関係省庁の役割分担が変更されることが予想されている。例えば、インタビューによれば、エクアドル政府では、保健・教育については、県庁の権限外とする方針が提示されており、2010年3月の国会では決定事項とならなかったものの、将来の各機関の役割分担は流動的である。また、農業部門についても、農牧省は規範の策定や統括業務のみを行い、事業の実施は県庁で行うという方針が検討されている。現在のところ、実際の業務体制は、現状の枠組みが当面続いていくものと見込まれており、また、県庁、各省庁協調での取組みを促進する方針は継続される見込みであることから、プロジェクトの全体的な枠組みには大きな影響はないと思われるが、今後の動向を注視することは必要である。
			「パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員が確保される。」は充足されているか？		現状では、全ての予算が確保されていない、また人員の充足も不透明である。ただし、本外部条件は、プロジェクト目標の指標と関連性が高く、この表現では、外部条件とはならないと考えられる。外部条件としては「関係省庁の全体予算が削減されない」等として、モニタリングすることが適切と思われる。
	波及効果	想定外のプラスの影響の有無	対象集落以外への波及効果の事例はあるか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	評価時点では、モデル集落以外への波及効果は報告されていない。
			ジェンダー・人権への影響、貧富の差など社会・文化的側面への影響、技術面での変革、対象社会・プロジェクト関係者・受益者などへの経済的影響はあるか？		女性がECAの校長になる集落が多く、女性のエンパワーメント効果が見られる。
		想定外のマイナスの影響の有無	チンボラソ県内の他の機関へのマイナスの影響の事例はあるか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	特に認められない。
			ジェンダー・人権への影響、貧富の差など社会・文化的側面への影響、技術面での変革、対象社会・プロジェクト関係者・受益者などへの経済的影響などがあるか？		特に認められない。非対象地域からのプロジェクトに対する批判、「ジェラニ」等も報告されていない。
		負の影響が生じている場合、何か対策がとられているか？		N/A	
	政策・制度面	政策的支援は協力終了後も継続するか。	持続的総合農村開発実施体制強化に対する関係機関の支援は、協力終了後も得られそうか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	多省庁間の協調は、現政権の政策で重視されており、当面継続すると考えられる。
			関連する政策・制度に変化はあるか？		PNBVは2013年までの計画であり、2013年までは、現在の政策・制度が継続するものと思われる。パロキア、郡レベルの開発計画、テリトリアル計画は現在策定中であるが、PNBVが上位政策であるため、プロジェクトと政策・制度の整合性は保持されると考えられる。

評価項目	評価設問		必要とするデータ・情報源	評価結果	
	大項目	小項目			
7. 自立発展性	組織面	協力終了後の関係機関の組織能力	関係機関の事業実施能力や調整能力は向上しているか？	県の計画・予算文書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	実施体制構築が本格化してからまだ十分な活動期間がないため、明確に判断するには時期尚早であるが、ワークショップ実施、計画策定等における能力の向上は見られる。パイロット・プロジェクトのモニタリング、またその結果をより大きな事業や実施体制の強化に反映させるためのしくみが不明確である。 ECAでは、参加者の中から、農民プロモーターを育成することで、活動を継続していくことが望まれるが、現在のところ、パイロット機関終了後にECAを参加者で継続のための具体的な計画には至っていない模様である。 潤沢ではないが、各機関とも、予算確保の努力は行っている。県庁は、パイロット・プロジェクト実施の費用を引続き予算化していく方針でいる。
			関係機関の年間計画および予算の執行状況はプロジェクトの効果を維持するに十分か？		
	財政面	関係機関の経常予算の安定度	チンボラン県関係機関の過去5年間の予算は安定しているか	県の計画・予算文書、プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	今次評価では予算書を確認できなかった。県庁では、パイロット・プロジェクトの予算の半分程度を拠出する予定である等、各機関とも努力はしているが、C/Pファンドとしての予算確保には着手していない。教育省では、プロジェクトの活動が通常計画に組込まれているため、継続が見込まれる。パイロット・プロジェクト継続のためには、当該活動を各都道府県の年間計画に組込んでいくことが有効である。 パイロット・プロジェクトにおけるモデル集落の活動に必要な費用(種、みみず床の木枠等)は、県庁とJICAで拠出している。プロジェクトでは、パイロット・ベースであるためECAの活動は1年で終了するが、ECA等の活動の継続的実施には、集落で費用を確保する方策を検討する必要がある。
	技術面	移転した技術の定着と普及の可能性	CPIは定着しているか？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	2010年以降、実務レベルのC/Pは比較的安定している。 保健省の県事務所長は人事交替が頻繁であった。 プロモーターは1年契約である。
			移転した技術は活用されているか？		PCM手法、参加型計画手法等は、C/Pの中で定着しつつあると思われる。計画策定能力、プロジェクト実施・モニタリング能力及び体制の構築等については、定着のためには、さらに時間が必要と思われる。 ECAの手法は各モデル集落で実施されており、今後もプロモーター、モデル集落住民で継続していくものと見込まれる。C/Pの中にも、ECAの趣旨を的確に認識していない者が見受けられる。
			プロジェクトで作成した戦略計画は実施される見込みか？		県庁及び各都道府県は実施する意思があり、予算を確保している機関もある。
			対象集落以外への普及は考えられているか？		フェーズ2では、モデル集落を拡大する計画でいるが、具体的な方策までは考えられていない。
			施設・機材は維持管理されているか？		現在使用中のものは、維持管理されている。塩素浄水器は、1か月ごとに塩素を交換する必要があるが、集落の住民の費用で購入している。
		効果を持続させるための促進要因と阻害要因	プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆくために必要な要因は何か？ プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆく際に阻害要因となるものは何か？	プロジェクト報告書、質問票、関係者のヒヤリング	住民のエンパワメントを図り、「下から」の計画を積み上げていく体制を強化すること。 集落のパイロット・プロジェクトをはじめ、事業全体のモニタリングのしくみを構築すること。 各都道府県のなかで、事業を年間計画の中に組込んでいくこと。 予算化のしくみが構築されないこと。

4. 質問票（4-1：専門家向け）

エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

- 1 本質問票は「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト(2009年ー2011年)」終了時評価にかかるものです。
プロジェクト目標: チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。
上位目標: チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。
本質問票では、特に断りのない限り、「プロジェクト」とは、「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を指します。
- 2 本質問票は、JICAの技術協力プロジェクトに適用されるJICA評価手法に基づいて作成されています。評価にあたっては、PDM(Project Design Matrix)に基づきJICA事業評価ガイドラインに示された評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から行うこととしています。
- 3 本質問票のデータ(回答)は、評価調査にあたりJICAと契約した外部コンサルタントが集計・分析し、評価調査団にてとりまとめを行います。
- 4 質問票に基づいて収集・分析されたデータは一般に公開されますが、回答者個人に関する情報は開示されません。
- 5 本質問票は本ページを含み7枚あります。
page 1/6: 0. 実施プロセス
page 2/6: 1. 妥当性
page 3/6: 2. 有効性
page 4/6: 3. 効率性
page 5/6: 4. インパクト
page 6/6: 5. 自立発展性
- 6 回答にあたっては以下の通りお願い致します。
 - a. page1/6の右上にお名前と所属先、プロジェクト専門家としての指導科目と連絡先(メールアドレス)を記入してください。回答者個人に係る情報は開示されません。誰が回答したかも明示されません。
 - b. 選択肢については、1、2、3、4のいずれか適当なものに印をつけてください。(✓、○、セルの色を変えるなど)
 - c. 理由/コメント: 回答を選択した理由を記述してください。また質問に対するコメントを記述してください。
- 7 長期専門家の方は基本的に全ての質問項目についてお願い致します。ご担当範囲外の質問にあたる場合は、お手数ですがその旨ご記入お願い致します。
短期専門家の方は、ご自分の業務以外に関する質問項目に関しては、ご存じの範囲でご記入いただいたので構いません。質問項目には、一部既存の報告書等に記述されている内容も含まれていますが、インタビュー時の参考とさせていただきます。回答者個人のご意見をご記入くださるようお願い致します。
- 8 以上の通り回答をご記入のうえ、お忙しいところ恐縮ですが、短期専門家の方は、7月29日(木)までに、プロジェクト築瀬専門家宛メールにて返送お願い致します(yanasejiro@hotmail.com)。長期専門家の方は、本質問票を参照しながら現地でのインタビューをさせていただきます。メール等でお問い合わせさせていただく場合がありますが、ご協力お願い申し上げます。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

終了時評価調査団
評価分析団員
グローバルリンクマネジメント
田中恵理香
tanaka.erika@glm.co.jp
TEL:03-5766-1441/FAX:03-5766-1451

質問票(専門家向け)

お名前:

1/6

プロジェクト名: エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

所属先:

指導科目:

連絡先メールアドレス:

0. 実施プロセス

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
0.1 プロジェクトの進捗	0.1.1 プロジェクト期間を通じ、予定していた活動は円滑に実施されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.1.2 プロジェクトの進捗に影響を与えた問題は何か。					
	0.1.3 その問題に対して、どのように対処したか。					
0.2 プロジェクトのマネジメント体制	0.2.1 プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.2 プロジェクトの活動全体のモニタリングの仕組みは適切か。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.3 PDM・POは適宜修正されているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.4 PDM・POは十分活用されているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.5 開発調査等関連する他の案件との連携・調整は適切に行われたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
0.3 技術移転の方法	0.3.1 専門家とカウンターパート(CP)の技術移転・コミュニケーションは円滑に行われたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.3.2 エクアドル側CPとの技術移転・コミュニケーションに関する課題はどういったことか。					
	0.3.3 その他専門家として活動しているCPとの技術移転・コミュニケーションにおいて心がけたことやその他コメントがあればお書きください。					
0.4 カウンターパートその他ステークホルダーのプロジェクトに対する参加度・認識度	0.4.1 中央省庁のCP機関のイニシアティブは高いか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.2 チンボラソ県のCP機関のイニシアティブは高いか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.3 プロジェクト期間を通じ、CPのプロジェクトに対する関わり方に変化があったか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.4 他援助機関、NGO等他の関連機関との連携・調整は十分効果的に行われたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.5 対象集落の住民はプロジェクトに十分関与したか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.6 住民と関係機関との関わりに変化が見られたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.7 エクアドル側CP及び関連する機関、ターゲットグループのプロジェクトに対する関与で課題になったことがあれば、お書きください。					

プロジェクト名: エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

1. 妥当性

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
1.1 プロジェクトを実施する必要性	1.1.1 プロジェクトは対象地域・社会のニーズに合致しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.1.2 総合農村開発の実施体制整備は地元住民に便益をもたらすか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
1.2 プロジェクトの優先度	1.2.1 プロジェクト目標・上位目標はエクアドル政府の政策(PNBV、テリトリアル計画等)と合致しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
1.3 手段としての適切性	1.3.1 プロジェクトは適切なプロセスを経て計画されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.2 プロジェクトの計画(全体のデザイン、パイロット・プロジェクトの運営方法、ECAの導入等)は住民の生活水準向上の戦略として適切であったか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.3 関連のCP機関の組織・規模・財政状況に対して適正な計画が立てられたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.4 対象集落の選定方法は適正と言えるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.5 ターゲットグループの対象・規模は適正と言えるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.6 日本が協力する比較優位はあるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	

プロジェクト名: エクアドル国テンポラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

2. 有効性

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
2.1 プロジェクト目標の達成度	2.1.1 テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターからなる開発事業実施チームが形成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.1.2 持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.1.3 各事業は持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づき計画されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.1.4 プロジェクト目標達成の促進要因は何か。					
	2.1.5 プロジェクト目標達成の阻害要因は何か。					
2.2 各成果の達成度とプロジェクト目標達成への貢献度	2.2.1 成果1: テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。					
	2.2.1.1 成果1の指標はどの程度達成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.2.1.2 成果1の達成に関する課題は何か。					
	2.2.1.3 PDMの指標以外に成果1の活動による成果はあるか。あればどういったことか。					
	2.2.2 成果2: テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。					
	2.2.2.1 成果2の指標はどの程度達成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.2.2.2 成果2の達成に関する課題は何か。					
	2.2.2.3 PDMの指標以外に成果2の活動による成果はあるか。あればどういったことか。					
	2.2.3 成果3: テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される。					
2.2.3.1 成果3の指標はどの程度達成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に		
2.2.3.2 成果3の達成に関する課題は何か。						
2.2.3.3 PDMの指標以外に成果の活動による成果はあるか。あればどういったことか。						
2.3 成果とプロジェクト目標との因果関係	2.3.1 プロジェクト目標を達成するために適切な成果が設定されていたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.3.2 成果間の相乗効果が考えられていたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.3.3 プロジェクト目標の達成にあたり外部条件があったか。あれば記述してください。					

プロジェクト名：エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

3. 効率性

大項目	小項目		1	2	3	4	理由/コメント	
---> >この枠の該当するところにチェックを入れてください。			非常に問題	やや問題あり	大体よい	非常によい		
3.1 日本側の投入の適切度	3.1.1 専門家	a. 専門家の人数						
		b. 派遣のタイミング						
		c. 専門分野						
	3.1.2 機材供与	a. 数量						
		b. 種類・機種・品質						
		c. 供与のタイミング						
		d. コスト						
	3.1.3 CP研修(本邦、ポリビア)	a. 時期						
		b. 内容(研修項目、教材等)						
	3.1.4 ローカルコスト支援	a. 投入の時期						
		b. 投入金額						
	3.2 エクアドル側の投入の適切度	3.2.1 エクアドル側CPの配置	a. CPの数					
			b. 配置のタイミング					
c. CPの専門分野								
3.2.2 普及員の配置		a. 普及員の数						
		b. 普及員の役割の適切性						
3.2.3 施設/機材		a. 土地・建物・施設(執務・作業スペース)						
		b. 機材・備品						
3.2.4 運営コスト		a. 金額						
	b. 執行のタイミング							
3.3 投入及び活動と成果の因果関係	3.3.1 活用されていない投入はあるか。あるとすれば何か。							
	3.3.2 成果を算出するために適切な投入がなされたか。		全く違う	やや違う	ある程度	非常に		
	3.3.3 活動は、各成果を算出するために十分であったか。		全く違う	やや違う	ある程度	非常に		
	3.3.4 成果を達成するための外部条件はあったか。あればお書きください。							

プロジェクト名：エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

4. インパクト

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
4.1 上位目標達成の見込み	4.1.1 テンボラソ県の農村開発モデルに関連した持続的総合農村開発事業がシエラ地域で実施される見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	4.1.2 持続的総合農村開発事業実施にあたって、実施体制で課題になっていることがあればお書きください。					
	4.1.3 社会経済的要因、社会文化的要因などの状況は変化していないか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
4.2 因果関係	4.2.1 上位目標は、プロジェクト終了後3～5年後に達成できる見込みか。(上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか)	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	4.2.2 県政府、関係省庁及び関係機関の役割、体制が変わらない見込みか。(外部条件)	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	4.2.3 パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員は確保され見込みか。(外部条件)	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
4.3 波及効果	4.3.1 テンボラソ県の対象集落以外への波及効果の事例はあるか。ある場合は記述してください。					
	4.3.2 プロジェクト実施によりもたらされた予期されなかった <u>正</u> のインパクトはあるか。ある場合は記述してください。					
	4.3.3 プロジェクト実施によりもたらされた予期されなかった <u>負</u> のインパクトはあるか。ある場合は記述してください。					
	4.3.4 負のインパクトが生じている場合、何か対策がとられているか。あれば記述してください。					

プロジェクト名：エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

5. 自立発展性

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
5.1 制度・政策面	5.1.1 持続的総合農村開発実施体制強化に対する関係機関の支援は、協力終了後も得られそうか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.1.2 関連する政策・制度に変化はあるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.2 組織面	5.2.2 テンボラソ県関連機関の事業実施能力や調整能力は向上しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.2.3 テンボラソ県関連機関の事業実施能力や年間計画及び予算の執行状況はプロジェクトの効果を維持するのに十分か。問題がある場合、問題点を記述してください。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.3 財政面	5.3.1 テンボラソ県の関連機関には今後十分な予算が配分される見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.4 技術面	5.4.1 CPIは定着しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.2 移転した技術は活用されているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.3 プロジェクトで作成した戦略計画は関係機関により実施される見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.4 対象集落以外への普及は考えられているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.5 施設・機材は維持管理されていく見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.5 自立発展性に関する要因	5.5.1 プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆくために必要な要因は何か。					
	5.5.2 プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆく際に阻害要因となるものは何か？					

4. 質問票（4－2：C/P向け・西文）

Cuestionario para CP

Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

- 1 Este cuestionario está destinado para la evaluación final del Proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo" de la República del Ecuador (de 2009 a 2011)".
Objetivo del Proyecto : En la Provincia de Chimborazo, se mejora la capacidad estructural para la ejecución de desarrollo rural integral sostenible, para la reducción de la pobreza.
Objetivo Superior : En la Provincia de Chimborazo, se ejecutan proyectos de desarrollo rural integral sostenible destinados a la reducción de la pobreza.
En el presente cuestionario, el Proyecto se refiere al proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador" a
- 2 El presente cuestionario está elaborado con base en el método de evaluación de la JICA, aplicado para el proyecto de cooperación técnica de la JICA. En el momento de la evaluación, se hará basada en los 5 puntos de criterios (pertinencia, efectividad, eficiencia, impactos y sostenibilidad), establecidos en el lineamiento para evaluar las actividades de la JICA de acuerdo con PDM (Project Design Matrix/Matriz de Diseño de Proyecto) .
- 3 Los datos y respuestas del presente cuestionario serán reunidos y analizados por el consultor externo contratado por la JICA para este estudio de evaluación para ser revisados y procesados posteriormente por el Equipo de Estudio de
- 4 Los datos y respuestas reunidos y analizados de este cuestionario, serán revelados públicamente, sin embargo, la información personal de las personas que contestan no está sujeta a la revelación pública.
- 5 El presente cuestionario contiene 7 hojas incluyendo esta.
Página 1/6: 0. Proceso de implementación
Página 2/6: 1.Pertinencia
Página 3/6: 2.Efectividad
Página 4/6: 3.Eficiencia
Página 5/6: 4.Impactos
Página 6/6: 5.Sostenibilidad
- 6 Tome en cuenta las siguientes consideraciones en el momento de contestar.
 - a. Anote en la parte derecha arriba de la Página 1/6, su nombre completo, organización a la que pertenece, teléfono o correo electrónico. La información personal de la persona que contesta este cuestionario no está sujeta a ser revelada ni se divulgará quién la ha proporcionado.
 - b. Para las preguntas selectivas, marque con algún símbolo (✓, ○ o marcar con color) la respuesta más cercana a su pensamiento dentro de las 4 respuestas.
 - c. Razón/Comentarios: Anote la razón por la que escogió la respuesta. Si hay algún comentario sobre la pregunta, también anote su comentario.
- 7 Le solicito atentamente contestar a todas las preguntas como principio. En caso de no corresponder algunas preguntas al área de su responsabilidad , anote esta razón en el lugar correspondiente. Algunas preguntas se refieren a la información mencionada en los informes existentes. Pero le solicito anotar su particular opinión personal ya que se desea tomar su opinión como referencia en el momento de hacer la entrevista.
- 8 A las personas que puedo entrevistar también les solicito contestar este cuestionario y traerlo en el momento de la entrevista. Quiero desarrollar la entrevista tomando como referencia a la respuesta escrita. A las personas que no puedo entrevistar les solicito cordialmente enviarlo contestado al Sr. Yanase (yanasejiro@hotmail.com), experto del Proyecto antes del jueves 29 de julio.

Le agradezco de antemano su colaboración.

TANAKA Erika
Consultora del Equipo de Evaluación
Global Link Management Inc., Tokyo
tanaka.erika@glm.co.jp
TEL:03-5766-1441/FAX:03-5766-1451

Cuestionario para CP

Nombre del Proyecto: Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

Nombre:

Organización a la que pertenece:

Teléfono o correo electrónico:

0. Proceso de implementación

Clasificación	Subclasificación	1	2	3	4	Razón/Comentarios
0.1 Avances del Proyecto	0.1.1 Las actividades del Proyecto han sido desarrolladas sin problema durante el período del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.1.2 ¿Qué problemas influyeron en el mejor avance del Proyecto?					
	0.1.3 ¿Cómo se resolvieron esos problemas?					
0.2 Sistema de gestión del Proyecto	0.2.1 ¿Está funcionando correctamente el sistema de implementación del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.2.2 ¿Es adecuado el mecanismo de monitoreo de las actividades generales del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.2.3 ¿Se han corregido PDM y PO de acuerdo con las necesidades?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.2.4 ¿Se aprovechan suficientemente PDM y PO?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.2.5 ¿Se ha colaborado y coordinado correctamente con otros proyectos y actividades relacionados de la JICA como el estudio para desarrollo?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
0.3 Método de la transferencia técnica	0.3.1. ¿Se ha realizado la transferencia técnica sin problema entre los expertos y el personal CP y se ha mantenido buena comunicación entre estas personas?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.3.2. ¿Cuáles han sido los problemas o tareas en la transferencia técnica y la comunicación con los expertos?					
	0.3.3 Si hay otro comentario más sobre la transferencia técnica y la comunicación con los expertos durante las actividades con ellos, favor de anotarlo libremente.					
0.4 Nivel de la participación y la comprensión del Proyecto por parte del personal CP y/o otros participantes del Proyecto	0.4.1. ¿Son fuertes las iniciativas que toman las instituciones CP del gobierno central?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.4.2 ¿Son fuertes las iniciativas que toman las instituciones CP de la Provincia de Chimborazo?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.4.3 ¿Se ha cambiado la forma de participar en el Proyecto a través del desarrollo del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.4.4 ¿Se han colaborado y coordinado satisfactoriamente con otras organizaciones como las de asistencia y ONGs?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.4.5 ¿La gente de la comunidad del área del Proyecto ha participado satisfactoriamente con el Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.4.6 ¿Se han observado cambios en la relación entre la comunidad y las organizaciones relacionadas?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	0.4.7 Si hubieron algunos problemas relacionados con la participación de las organizaciones relacionadas y/o los grupos objetivo del Proyecto, favor de anotarlos libremente.					

Nombre del Proyecto: Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

1. Pertinencia

Clasificación	Subclasificación	1	2	3	4	Razón/Comentarios
1.1 Necesidad de implementar el Proyecto	1.1.1 ¿El Proyecto coincide con las necesidades del área y de la sociedad?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	1.1.2 ¿El fortalecimiento estructural para imlementrar el desarrollo rural integral trae beneficios a la comunidad local?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
1.2 Prioridad del Proyecto	1.2.1 El Objetivo del Proyecto y el Objetivo Superior del Proyecto coinciden con las políticas públicas (PNBV, plan territorial, etc.) del Gobierno de Ecuador?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
1.3 Pertinencia como herramienta	1.3.1 ¿El Proyecto fue planeado mediante el proceso apropiado?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	1.3.2 ¿Fue apropiado el plan del Proyecto (diseño general, método de gestión del proyecto piloto, introducción de ECA, etc.) como estrategia para mejorar el nivel de vida de la comunidad?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	1.3.3 ¿Se pudo elaborar un plan adecuado para la organización, tamaño y situación financiera de las instituciones CP del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	1.3.4 ¿Se puede decir que fue apropiado el método para seleccionar las comunidades objeto del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	1.3.5 ¿Se puede decir que fue apropiado el tamaño de los grupos objeto del Proyecto así como fueron adecuados como grupos objetivos del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	

Nombre del Proyecto: Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

2. Efectividad

Clasificación	Subclasificación	1	2	3	4	Razón/Comentarios
2.1 Cumplimiento del objetivo del Proyecto	2.1.1 ¿Se formó un equipo ejecutor multisectorial de proyectos de desarrollo formado por el gobierno de la Provincia de Chimborazo, otras instituciones y organizaciones de los sectores público y privado?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.1.2 ¿Se aseguró el presupuesto para la implementación de proyectos basados en la estrategia de desarrollo rural integral sostenible (tipo multisectorial)?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.1.3 ¿Cada uno de los proyectos fue planeado basado en la estrategia de desarrollo rural integral sostenible (tipo multisectorial)?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.1.4 ¿Cuáles fueron los factores que favorecieron el cumplimiento del Objetivo del Proyecto?					
	2.1.5 ¿Cuáles fueron los factores que impidieron cumplir el Objetivo del Proyecto?					
2.2 Nivel de los logros de cada uno de los resultados esperados así como el de la contribución al cumplimiento del Objetivo del Proyecto	2.2.1 Resultado 1: Se fortalece la capacidad del CPCH, los ministerios participantes y las entidades relacionadas, en cuanto al análisis de los problemas vinculados con el desarrollo rural integral sostenible.					
	2.2.1.1 ¿Qué tanto se alcanzaron las metas de los indicadores del resultado esperado 1?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.2.1.2 ¿Qué tareas existen relacionadas con el logro del resultado esperado 1?					
	2.2.1.3 ¿Existe algún otro resultado procedente de las actividades relacionadas con el resultado esperado 1, aparte de los indicadores de PDM? Si hay, ¿qué resultado?					
	2.2.2 Resultado 2: Se fortalece la capacidad del CPCH, los ministerios participantes y las entidades relacionadas, en cuanto al establecimiento del plan de actividades vinculadas con el desarrollo rural integral sostenible.					
	2.2.2.1 ¿Qué tanto se alcanzaron las metas de los indicadores del resultado esperado 2?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.2.2.2 ¿Qué tareas existen relacionadas con el logro del resultado esperado 2?					
	2.2.2.3 ¿Existe algún otro resultado procedente de las actividades relacionadas con el resultado esperado 2, a parte de los indicadores de PDM? Si hay, ¿qué resultado?					
	2.2.3 Resultado 3: Se fortalece la capacidad del CPCH, los ministerios participantes y las entidades relacionadas, en cuanto a la ejecución, operación y administración de los proyectos de desarrollo rural integral sostenible.					
2.2.3.1 ¿Qué tanto se alcanzaron las metas de los indicadores del resultado esperado 3?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente		
2.2.3.2 ¿Qué tareas existen relacionadas con el logro del resultado esperado 3?						
2.2.3.3 ¿Existe algún otro resultado procedente de las actividades relacionadas con el resultado esperado 3, aparte de los indicadores de PDM? Si hay, ¿qué resultado?						
2.3 Relación causa-efecto entre los resultados esperados y el Objetivo del Proyecto	2.3.1 ¿Estaban establecidos los resultados esperados apropiados para lograr el Objetivo del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.3.2 ¿Estaban contemplados los efectos sinérgicos entre los resultados esperados?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	2.3.3 ¿Se presentaron algunas condiciones externas para lograr el Objetivo del Proyecto? En caso de una respuesta afirmativa, describa dichas condiciones externas.					

Cuestionario para CP

Nombre del Proyecto: Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

3. Eficiencia

Clasificación	Subclasificación		1	2	3	4	Razón/Comentarios
---> >Marque la parte correspondiente.			Muy problemático	Un poco problemático	Bueno en general	Muy bueno	
3.1 Nivel de adecuación las aportaciones de la parte japonesa	3.1.1 Expertos	a. Número de expertos					
		b. Momento del envío					
		c. Área de especialidad					
	3.1.2 Donación de equipos	a. Cantidad					
		b. Tipos, modelos y calidad					
		c. Momento de la donación					
		d. Costos					
	3.1.3 Capacitación de CP (en Japón y Bolivia)	a. Tiempo					
		b. Contenido (temas de capacitación, materiales didácticos, etc.)					
	3.1.4 Apoyo en gastos locales	a. Momento de aportación					
		b. Monto aportado					
	3.2 Nivel de adecuación las aportaciones de la parte ecuatoriana	3.2.1 Asignación del personal CP ecuatoriano	a. Número del personal CP				
b. Momento de asignación							
c. Especialidad del CP							
3.2.2 Asignación de extensionistas		a. Número de extensionistas					
		b. Funciones de extensionistas					
3.2.3 Instalaciones/equipos		a. Terreno, edificio, instalaciones (oficina y espacios de trabajo)					
		b. Equipos y accesorios					
3.2.4 Gastos de operación		a. Montos					
	b. Momento de ejecución						
3.3 Relación causa-efecto entre las aportaciones, actividades y resultados	3.3.1 ¿Existe alguna aportación que no está aprovechada? En caso de una respuesta afirmativa, ¿qué aportación fue?						
	3.3.2	¿Se hicieron aportaciones adecuadas para obtener resultados esperados?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	3.3.3	¿Las actividades fueron suficientes para obtener cada uno de los resultados?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	3.3.4	¿Se presentaron algunas condiciones externas para lograr el Objetivo del Proyecto? En caso de una respuesta afirmativa, describa dichas condiciones externas.					

Nombre del Proyecto: Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

4. Impactos

Clasificación	Subclasificación	1	2	3	4	Razón/Comentarios
4.1 Perspectiva para cumplir con el Objetivo Superior	4.1.1 ¿Existe la perspectiva de ejecutar en la región de Sierra los proyectos de desarrollo rural integral sostenible relacionados con el modelo de desarrollo rural de la Provincia de Chimborazo?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	4.1.2 En caso de existir algún problema o tarea relacionado con el sistema para la implementación del proyecto de desarrollo rural integral sostenible, descríbalo abiertamente.					
	4.1.3 ¿Había cambios en los aspectos de factores socio-económicos o socioculturales?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
4.2 Relación causa-efecto	4.2.1 ¿Existe la perspectiva de cumplir el Objetivo Superior dentro de 3 a 5 años después de terminar el período del Proyecto? (No hay distancia entre el Objetivo Superior y el Objetivo del Proyecto?)	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	4.2.2 ¿Existe la perspectiva de no haya cambios de las funciones y del régimen del gobierno de la Provincia, otras instituciones y organizaciones relacionadas con el sector público? (condiciones externas)	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	4.2.3 ¿Existe la perspectiva de asegurar el presupuesto y el personal necesarios para implementar proyectos piloto? (condiciones externas)	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
4.3 Efectos sinérgicos	4.3.1 ¿Existen casos de efectos sinérgicos presentados en las comunidades que no son comunidades objeto del Proyecto en la Provincia de Chimborazo? En caso de una respuesta afirmativa,					
	4.3.2 ¿Existen impactos positivos inesperados y propiciados por la implementación del Proyecto? En caso de una respuesta afirmativa, descríbalos.					
	4.3.3 ¿Existen impactos negativos inesperados y propiciados por la implementación del Proyecto? En caso de la respuesta afirmativa, descríbalos.					
	4.3.2 En caso de haberse presentado impactos negativos, ¿se ha tomado alguna contramedida? En caso de la respuesta afirmativa, descríbalos.					

Cuestionario para CP

Nombre del Proyecto: Proyecto del Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador

5. Sostenibilidad

Clasificación	Subclasificación	1	2	3	4	Razón/Comentarios
5.1 Aspectos del sistema institucional y políticas públicas	5.1.1 ¿Es posible contar con el apoyo de parte de las instituciones y organizaciones relacionadas para el fortalecimiento estructural para implementar el desarrollo rural integral sostenible aún después de terminar el período de cooperación del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	5.1.2 ¿Hay cambios en el sistema institucional y en las políticas públicas relacionados?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
5.2 Aspectos organizacionales	5.2.2 ¿Se ha fortalecido la capacidad de implementar y coordinar proyectos por parte de las instituciones y organizaciones relacionadas con la Provincia de Chimborazo?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	5.2.3 ¿La capacidad de implementar proyectos, el plan anual y la situación de la ejecución de presupuesto por parte de las instituciones y organizaciones relacionadas con la Provincia de Chimborazo es suficiente para mantener y continuar los efectos obtenidos por el Proyecto? En caso de haber problemas, descríbalos.	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
5.3 Aspectos financieros	5.3.1 ¿Existe la perspectiva de que las organizaciones relacionadas con la Provincia de Chimborazo reciban suficiente presupuesto en el futuro?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
5.4 Aspectos técnicos	5.4.1 ¿El personal CP está arraigado?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	5.4.2 ¿Están aprovechadas las técnicas transferidas?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	5.4.3 ¿Existe la perspectiva de que el plan estratégico elaborado por el Proyecto sea implementado por las organizaciones relacionadas?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	5.4.4 ¿Está contemplada la expansión a otras áreas fuera de las comunidades objetivas del Proyecto?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
	5.4.5 ¿Existe la perspectiva de que las instalaciones y los equipos se mantengan?	De ninguna manera	Pocas veces	Algunas veces	Totalmente	
5.5 Factores relacionados con la sostenibilidad	5.5.1 ¿Cuáles son los factores necesarios para que los efectos obtenidos por el Proyecto continúen?					
	5.5.2 ¿Cuáles son los factores que impidan que los efectos obtenidos por el Proyecto continúen?					

4. 質問票〔4-2 : C/P 向け・和文（仮訳）〕

エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

- 1 本質問票は「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト(2009年－2011年)」終了時評価にかかるものです。
Objetivo del Proyecto: En la Provincia de Chimborazo, se mejora la capacidad estructural para la ejecución de desarrollo rural integral sostenible, para la reducción de la pobreza.
Objetivo Superior: En la Provincia de Chimborazo, se ejecutan proyectos de desarrollo rural integral sostenible destinados a la reducción de la pobreza.
本質問票では、特に断りのない限り、「プロジェクト」とは、「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を指します。
- 2 本質問票は、JICAの技術協力プロジェクトに適用されるJICA評価手法に基づいて作成されています。評価にあたっては、PDM(Project Design Matrix)に基づきJICA事業評価ガイドラインに示された評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から行うこととしています。
- 3 本質問票のデータ(回答)は、評価調査にあたりJICAと契約した外部コンサルタントが集計・分析し、評価調査団にてとりまとめを行います。
- 4 質問票に基づいて収集・分析されたデータは一般に公開されますが、回答者個人に関する情報は開示されません。
- 5 本質問票は本ページを含み7枚あります。
page 1/6: 0. 実施プロセス
page 2/6: 1. 妥当性
page 3/6: 2. 有効性
page 4/6: 3. 効率性
page 5/6: 4. インパクト
page 6/6: 5. 自立発展性
- 6 回答にあたっては以下の通りお願い致します。
 - a. page1/6の右上にお名前と所属先と連絡先(メールアドレス)を記入してください。回答者個人に係る情報は開示されません。誰が回答したかも明示されません。
 - b. 選択肢については、1、2、3、4のいずれか適当なものに印をつけてください。(✓、○、セルの色を変えるなど)
 - c. 理由/コメント: 回答を選択した理由を記述してください。また質問に対するコメントを記述してください。
- 7 基本的に全ての質問項目についてお願い致します。ご担当範囲外の質問にあたる場合は、お手数ですがその旨ご記入お願い致します。
質問項目には、一部既存の報告書等に記述されている内容も含まれていますが、インタビュー時の参考とさせていただきますたく、回答者個人のご意見をご記入くださるようお願い致します。
- 8 以上の通り回答をご記入のうえ、お忙しいところ恐縮ですが、インタビューをさせていただける方は、インタビュー時にご記入のうえお持ちください。本質問票を参照しながらインタビューをさせていただきます。インタビューをしない方は、7月29日(木)までに、プロジェクト築瀬専門家宛メールにて返送お願い致します。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

終了時評価調査団
評価分析団員
グローバルリンクマネージメント
田中恵理香
tanaka.erika@glm.co.jp
TEL:03-5766-1441/FAX:03-5766-1451

質問票(CP向け)

お名前:

1/6

プロジェクト名: エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

所属先:

指導科目:

連絡先メールアドレス:

0. 実施プロセス

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
0.1 プロジェクトの進捗	0.1.1 プロジェクト期間を通じ、予定していた活動は円滑に実施されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.1.2 プロジェクトの進捗に影響を与えた問題は何か。					
	0.1.3 その問題に対して、どのように対処したか。					
0.2 プロジェクトのマネジメント体制	0.2.1 プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.2 プロジェクトの活動全体のモニタリングの仕組みは適切か。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.3 PDM・POは適宜修正されているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.4 PDM・POは十分活用されているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.2.5 開発調査等関連するJICAの他の案件との連携・調整は適切に行われたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
0.3 技術移転の方法	0.3.1 専門家とカウンターパート(CP)の技術移転・コミュニケーションは円滑に行われたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.3.2 専門家との技術移転・コミュニケーションに関する課題はどういったことか。					
	0.3.3 その他専門家と活動していて技術移転・コミュニケーションにおいてコメントがあればお書きください。					
0.4 カウンターパートその他ステークホルダーのプロジェクトに対する参加度・認識度	0.4.1 中央省庁のCP機関のイニシアティブは高いか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.2 チンボラソ県のCP機関のイニシアティブは高いか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.3 プロジェクト期間を通じ、プロジェクトに対する関わり方に変化があったか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.4 他援助機関、NGO等他の関連機関との連携・調整は十分効果的に行われたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.5 対象集落の住民はプロジェクトに十分関与したか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.6 住民と関係機関との関わりに変化が見られたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	0.4.7 関連機関、ターゲットグループのプロジェクトに対する関与で課題になったことがあれば、お書きください。					

プロジェクト名：エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

1. 妥当性

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
1.1 プロジェクトを実施する必要性	1.1.1 プロジェクトは対象地域・社会のニーズに合致しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.1.2 総合農村開発の実施体制整備は地元住民に便益をもたらすか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
1.2 プロジェクトの優先度	1.2.1 プロジェクト目標・上位目標はエクアドル政府の政策 (PNBV、テリトリアル計画等) と合致しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
1.3 手段としての適切性	1.3.1 プロジェクトは適切なプロセスを経て計画されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.2 プロジェクトの計画 (全体のデザイン、パイロット・プロジェクトの運営方法、ECAの導入等) は住民の生活向上の戦略として適切であったか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.3 関連のCP機関の組織・規模・財政状況に対して適正な計画が立てられたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.4 対象集落の選定方法は適正と言えるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	1.3.5 ターゲットグループの対象・規模は適正と言えるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	

プロジェクト名 : エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

2. 有効性

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
2.1 プロジェクト目標の達成度	2.1.1 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターからなる開発事業実施チームが形成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.1.2 持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.1.3 各事業は持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づき計画されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.1.4 プロジェクト目標達成の促進要因は何か。					
	2.1.5 プロジェクト目標達成の阻害要因は何か。					
2.2 各成果の達成度とプロジェクト目標達成への貢献度	2.2.1 Resultado 1: Se fortalece la capacidad del CPCH, los ministerios participantes y las entidades relacionadas, en cuanto al análisis de los problemas vinculados con el desarrollo rural integral sostenible.					
	2.2.1.1 成果1の指標はどの程度達成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.2.1.2 成果1の達成に関する課題は何か。					
	2.2.1.3 PDMの指標以外に成果1の活動による成果はあるか。あればどういったことか。					
	2.2.2 Resultado 2: Se fortalece la capacidad del CPCH, los ministerios participantes y las entidades relacionadas, en cuanto al establecimiento del plan de actividades vinculadas con el desarrollo rural integral sostenible.					
	2.2.2.1 成果2の指標はどの程度達成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.2.2.2 成果2の達成に関する課題は何か。					
	2.2.2.3 PDMの指標以外に成果2の活動による成果はあるか。あればどういったことか。					
	2.2.3 Resultado 3: Se fortalece la capacidad del CPCH, los ministerios participantes y las entidades relacionadas, en cuanto a la ejecución, operación y administración de los proyectos de desarrollo rural integral sostenible.					
2.2.3.1 成果3の指標はどの程度達成されたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に		
2.2.3.2 成果3の達成に関する課題は何か。						
2.2.3.3 PDMの指標以外に成果3の活動による成果はあるか。あればどういったことか。						
2.3 成果とプロジェクト目標との因果関係	2.3.1 プロジェクト目標を達成するために適切な成果が設定されていたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.3.2 成果間の相乗効果が考えられていたか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	2.3.3 プロジェクト目標の達成にあたり外部条件があったか。あれば記述してください。					

プロジェクト名：エクアドル国テンポラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

3. 効率性

大項目	小項目		1	2	3	4	理由/コメント
-->>この枠の該当するところにチェックを入れてください。			非常に問題	やや問題あり	大体よい	非常によい	
3.1 日本側の投入の適切度	3.1.1 専門家	a. 専門家の人数					
		b. 派遣のタイミング					
		c. 専門分野					
	3.1.2 機材供与	a. 数量					
		b. 種類・機種・品質					
		c. 供与のタイミング					
		d. コスト					
	3.1.3 CP研修(本邦、ボリビア)	a. 時期					
		b. 内容(研修項目、教材等)					
	3.1.4 ローカルコスト支援	a. 投入の時期					
		b. 投入金額					
	3.2 エクアドル側の投入の適切度	3.2.1 エクアドル側CPの配置	a. CPの数				
b. 配置のタイミング							
c. CPの専門分野							
3.2.2 普及員の配置		a. 普及員の数					
		b. 普及員の役割					
3.2.3 施設/機材		a. 土地・建物・施設(執務・作業スペース)					
		b. 機材・備品					
3.2.4 運営コスト		a. 金額					
	b. 執行のタイミング						
3.3 投入及び活動と成果の因果関係	3.3.1 活用されていない投入はあるか。あるとすれば何か。						
	3.3.2 成果を算出するために適切な投入がなされたか。		全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	3.3.3 活動は、各成果を算出するために十分であったか。		全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	3.3.4 成果を達成するための外部条件はあったか。あればお書きください。						

プロジェクト名：エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

4. インパクト

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
4.1 上位目標達成の見込み	4.1.1 チンボラソ県の農村開発モデルに関連した持続的総合農村開発事業がシエラ地域で実施される見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	4.1.2 持続的総合農村開発事業実施にあたって、実施体制で課題になっていることがあればお書きください。					
	4.1.3 社会経済的要因、社会文化的要因などの状況は変化していないか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
4.2 因果関係	4.2.1 上位目標は、プロジェクト終了後3～5年後に達成できる見込みか。(上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか)	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	4.2.2 県政府、関係省庁及び関係機関の役割、体制が変わらない見込みか。(外部条件)	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	4.2.3 パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員は確保され見込みか。(外部条件)	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
4.3 波及効果	4.3.1 チンボラソ県の対象集落以外への波及効果の事例はあるか。ある場合は記述してください。					
	4.3.2 プロジェクト実施によりもたらされた予期されなかった <u>正</u> のインパクトはあるか。ある場合は記述してください。					
	4.3.3 プロジェクト実施によりもたらされた予期されなかった <u>負</u> のインパクトはあるか。ある場合は記述してください。					
	4.3.4 負のインパクトが生じている場合、何か対策がとられているか。あれば記述してください。					

プロジェクト名：エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

5. 自立発展性

大項目	小項目	1	2	3	4	理由/コメント
5.1 制度・政策面	5.1.1 持続的総合農村開発実施体制強化に対する関係機関の支援は、協力終了後も得られそうか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.1.2 関連する政策・制度に変化はあるか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.2 組織面	5.2.2 チンボラソ県関連機関の事業実施能力や調整能力は向上しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.2.3 チンボラソ県関連機関の事業実施能力や年間計画及び予算の執行状況はプロジェクトの効果を維持するのに十分か。問題がある場合、問題点を記述してください。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.3 財政面	5.3.1 チンボラソ県の関係機関には今後十分な予算が配分される見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.4 技術面	5.4.1 CPIは定着しているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.2 移転した技術は活用されているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.3 プロジェクトで作成した戦略計画は関係機関により実施される見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.4 対象集落以外への普及は考えられているか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
	5.4.5 施設・機材は維持管理されていく見込みか。	全く違う	やや違う	ある程度	非常に	
5.5 自立発展性に関する要因	5.5.1 プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆくために必要な要因は何か。					
	5.5.2 プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆく際に阻害要因となるものは何か？					

4. 質問票（4－3：中央省庁向け・西文）

Evaluación Final del Proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo" de la República del Ecuador

Cuestionario (para las instituciones del gobierno central)

Este cuestionario está destinado para la evaluación final del Proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo" de la República del Ecuador (de 2009 a 2011)".

Objetivo del Proyecto: En la Provincia de Chimborazo, se mejora la capacidad estructural para la ejecución de desarrollo rural integral sostenible, para la reducción de la pobreza.

Objetivo Superior: En la Provincia de Chimborazo, se ejecutan proyectos de desarrollo rural integral sostenible destinados a la reducción de la pobreza.

En el presente cuestionario, el Proyecto se refiere al proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador" a menos que haya algún aviso especial.

El presente cuestionario está elaborado con base en los criterios de evaluación del método de la JICA, aplicados para el proyecto de cooperación técnica de la JICA.

Cabe mencionar que el presente cuestionario le será entregado previo a la entrevista con el propósito de que usted se entere antes sobre las preguntas que se harán en la entrevista, por lo tanto no es necesario llenar la respuesta previamente.

Le agradezco de antemano su colaboración.

TANAKA Erika
Consultora del Equipo de Evaluación
Global Link Management Inc., Tokyo
tanaka.erika@glm.co.jp

1 Proceso de implementación

- 1-1 ¿Cree que las actividades del Proyecto han sido desarrolladas sin dificultad? Si usted considera que no se han desarrollado con facilidad, ¿qué problemas ha observado usted?
- 1-2 ¿La institución a la que pertenece usted, ha mantenido una buena relación de cooperación con la JICA y las organizaciones al nivel de la Provincia de Chimborazo durante el periodo del Proyecto? Si usted considera que han habido dificultades, ¿qué problemas ha observado?

2 Pertinencia

- 2-1 ¿Cuáles son los problemas y temas especialmente importantes en el mejoramiento del nivel de vida así como en el desarrollo rural integral sostenible de la Provincia de Chimborazo?
- 2-2 ¿Considera usted que el Proyecto tiene concordancia con las políticas públicas del Gobierno de Ecuador tales como las de PNBV, el plan territorial y los planes sectoriales para el medio ambiente, salud y educación?
- 2-3 (Pregunta al Ministerio de Agricultura) Explíquenos sobre la situación de la introducción de la Escuela de Revolución Agraria.

3 Efectividad

- 3-1 ¿Considera usted que se está mejorando la capacidad estructural para la ejecución del desarrollo rural integral sostenible, para la reducción de la pobreza en la Provincia de Chimborazo a través de las actividades del Proyecto? ¿Qué puntos concretos han sido mejorados? ¿Cuáles son los puntos que quedan todavía como temas importantes?
- 3-2 ¿Considera usted que cada uno de los planes del proyecto están elaborados con base en la estrategia del desarrollo rural integral?

4 Eficiencia

- 4-1 ¿Considera usted que las aportaciones (de recursos humanos, capacitaciones, instalaciones, equipos, materiales entre otros) así como las actividades realizadas por el Proyecto han servido para mejorar la capacidad estructural para la ejecución del desarrollo rural integral sostenible?

5 Impactos

- 5-1 ¿Cree usted que en el futuro en la Provincia de Chimborazo se ejecutarán los proyectos de desarrollo rural integral sostenible destinados al mejoramiento del nivel de vida gracias al Proyecto? ¿Cuáles son problemas actuales para que se ejecuten dichos proyectos en el futuro?
- 5-2 ¿Ha observado algunos impactos inesperados y aportados por el Proyecto? Mencione sobre ambos impactos inesperados positivos y negativos.

6 Sostenibilidad

- 6-1 ¿Cree usted que los beneficios obtenidos por el Proyecto continuarán aun después de terminar el período de cooperación del Proyecto? Si piensa que hay algún factor que impida la continuidad, favor de explicarlo.
- 6-2 ¿Considera usted que los pobladores del área del Proyecto en la Provincia de Chimborazo tienen voluntad y capacidad para continuar las actividades introducidas por el Proyecto?

Si hay otros comentarios más sobre el Proyecto, esperamos escucharlos.

¡Muchas gracias!

4. 質問票〔4-3：中央省庁向け・和文（仮訳）〕

エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト終了時評価

質問票（中央省庁用）

本質問票は「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト（2009年-2011年）」終了時評価にかかるものです。

プロジェクト目標：チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。

上位目標：チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。

本質問票では、特に断りのない限り、「プロジェクト」とは、「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を指します。

本質問票は、JICAの技術協力プロジェクトに適用されるJICA評価手法による評価項目に基づいて作成されています。

本質問票は、インタビューにあたり、事前に質問事項をお伝えするためにお渡しするものです。事前に回答をご記入いただく必要はありません。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

TANAKA Erika
Consultant of Evaluation Team
Global Link Management Inc., Tokyo
tanaka.erika@glm.co.jp

1 実施プロセス

- 1-1 プロジェクトの活動は円滑に実施されたと思われますか？ 円滑に実施されなかった場合は、どういった点が問題でしたか。
- 1-2 あなたの機関はプロジェクト期間を通じ JICA やチンボラソ県関係機関との協力関係は良好でしたか？ 問題があったとしたら、どういった点ですか。

2 妥当性

- 2-1 チンボラソ県の生活向上、持続的総合農村開発において、特に課題になっていることはどんなことですか？
- 2-2 プロジェクトは、PNBV、テリトリアル計画、環境、保健、教育等のセクター計画等エクアドル政府の政策に合致していると思われますか？
- 2-3 （農牧省に対し）農民革命学校（ERA）の導入状況について教えてください。

3 有効性

- 3-1 プロジェクトを通じ、チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の体制が整備されつつあると思われますか？ どういった点が整備されましたか？ どういった点が課題になっていますか？
- 3-2 各事業計画は総合的農村開発戦略に基づいて計画されていると思われますか？

4 効率性

- 4-1 プロジェクトによる投入（人的資源、研修、施設、機材、資材等）や活動は、持続的総合農村開発実施の体制整備に役立ったと思われますか？

5 インパクト

- 5-1 プロジェクトにより、チンボラソ県において生活の向上に向けた持続的総合農村開発事業が将来実施されるようになると思われますか？ 実施されるためには、現在何が課題となっていますか？
- 5-2 プロジェクトによりもたらされた予期せぬインパクトはありましたか？ 正のインパクト、負のインパクトにつきお答えください。

6 自立発展性

- 6-1 プロジェクトによる便益は JICA の協力期間終了後も継続すると思われませんか？継続にあたっての阻害要因があればお答えください。
- 6-2 チンボラソ県の対象地域の住民はプロジェクトで導入された活動を継続する意思と能力があると思われませんか。

その他プロジェクトに関してコメントがあればお願いします。

☆ありがとうございました☆

Evaluación Final del Proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo" de la República del Ecuador

Cuestionario (para las comunidades)

Este cuestionario está destinado para la evaluación final del Proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo" de la República del Ecuador (de 2009 a 2011)".

Objetivo del Proyecto: En la Provincia de Chimborazo, se mejora la capacidad estructural para la ejecución de desarrollo rural integral sostenible, para la reducción de la pobreza.

Objetivo Superior: En la Provincia de Chimborazo, se ejecutan proyectos de desarrollo rural integral sostenible destinados a la reducción de la pobreza.

En el presente cuestionario, el Proyecto se refiere al proyecto del "Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador" a menos que haya algún aviso especial.

El presente cuestionario está elaborado con base en los criterios de evaluación del método de la JICA, aplicados para el proyecto de cooperación técnica de la JICA.

Cabe mencionar que el presente cuestionario le será entregado previo a la entrevista con el propósito de que usted se entere antes sobre las preguntas que se harán en la entrevista, por lo tanto no es necesario llenar la respuesta previamente.

Le agradezco de antemano su colaboración.

TANAKA Erika
Consultora del Equipo de Evaluación
Global Link Management Inc., Tokyo
tanaka.erika@glm.co.jp

- (1) En esta comunidad, ¿cuáles son los problemas o tareas que tienen con respecto al mejoramiento del nivel de vida de la comunidad?

- (2) ¿Las actividades del Proyecto avanzaron sin dificultad? Favor de explicar si existía algún problema en el desarrollo de las actividades.

- (3) ¿Hubo buena comunicación con los expertos japoneses?

- (4) ¿Hubo buena comunicación con los gobiernos autónomos de los cantones y las parroquias, las organizaciones relacionadas al nivel de la Provincia de Chimborazo, y con la gente de la comunidad?

- (5) ¿Qué cambios o resultados se obtuvieron por las actividades piloto del Proyecto?

- (6) ¿Cómo ha cambiado la gente de su comunidad por las actividades piloto del Proyecto?

- (7) ¿Ha cambiado la relación entre su comunidad y los gobiernos autónomos de los cantones y las parroquias, o las organizaciones relacionadas al nivel de la Provincia Chimborazo? ¿En qué puntos ha cambiado?

- (8) ¿Cómo usted va a continuar con lo que ha adquirido (beneficios, conocimiento y habilidades, organización del grupo, etc.) a través del Proyecto? Favor de explicar si hay algún problema para continuarlo.

Si tiene otros problemas o tareas más en su comunidad o comentarios con respecto al Proyecto de la JICA, favor de dejarlos escuchar abiertamente.

¡Gracias por su cooperación!

4. 質問票〔4-4：モデル集落向け・和文（仮訳）〕

エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト終了時評価

質問票（対象集落用）

本質問票は「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト（2009年－2011年）」終了時評価にかかるものです。

プロジェクト目標：チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。

上位目標：チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。

本質問票では、特に断りのない限り、「プロジェクト」とは、「エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を指します。

本質問票は、JICAの技術協力プロジェクトに適用されるJICA評価手法による評価項目に基づいて作成されています。

本質問票は、インタビューにあたり、事前に質問事項をお伝えするためにお渡しするものです。事前に回答をご記入いただく必要はありません。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

TANAKA Erika
Consultant of Evaluation Team
Global Link Management Inc., Tokyo
tanaka.erika@glm.co.jp

- (1) このコミュニティにおいて、住民の生活向上に関連して課題になっていることは何ですか。
- (2) プロジェクトでの活動は円滑に進みましたか。活動実施上、問題になっていたことがあれば、教えてください。
- (3) 日本人専門家とのコミュニケーションは円滑でしたか。
- (4) カントン、パロキア自治政府やチンボラソ県関係機関、コミュニティの人々とのコミュニケーションは円滑でしたか。
- (5) プロジェクトのパイロット活動によりコミュニティにどのような変化・成果がありましたか。
- (6) プロジェクトのパイロット活動により、コミュニティの人々はどのように変わりましたか。
- (7) プロジェクトのパイロット活動により、コミュニティとカントン、パロキア自治政府やチンボラソ県関係機関との関係は変わりましたか。それはどのような点ですか。
- (8) プロジェクトを通じて得たもの（便益、知識・スキル、組織体制など）を、今後どのように継続させていきますか。継続させていくうえで課題になっていることがあれば教えてください。

その他コミュニティでの課題、JICA のプロジェクトに関してご意見があればコメントをお願いします。

☆ありがとうございました☆

5. 質問票回答集計結果

質問票

エクアドル国チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

質問票は、日本側は専門家、エクアドル側は、CP機関であるチンボラソ県政府、及び農牧省、環境省、教育省、保健省の中央本省と県事務所のCPに質問票を配布した。

専門家と通常プロジェクトに係わっている県政府と4省庁の県事務所のCPには、5項目に基づく質問票(別添4-1、4-2)、4省庁の本省にはプロジェクトとの関わりを考慮し、より一般的な形で質問する形式の質問票(別添4-3)を配布した。そのほか、パイロットプロジェクトのモデル集落向けに事前に質問内容を伝えておくための簡単な質問票(別添4-4)を用意した。

回答数は以下の通りである。

専門家(長期専門家、短期専門家)	6名(質問票:別添4-1)
CP(チンボラソ県政府、農牧省・環境省・教育省・保健省の県事務所)	7名(質問票:別添4-2)

計 13名

また、中央省庁には、特に回答を記入して返送することは求めなかったが、1名が回答を記入して返送した。

ここでは、別添5として、専門家とCPに対する質問票(別添4-1、4-2)の回答の集計結果をまとめる。

専門家とCPに対する質問票のうち、選択式回答の結果を集計結果としてまとめた。記述式の回答については割愛した。質問項目によっては、担当外ということで、無回答にしている項目がある回答者があるが、回答があったもののみの平均値を集計した。

集計表のフォーマットは、専門家用質問票をもとに作成した。

専門家用質問票とCP用質問票はほぼ同様である。専門家とCPに対する質問が違っているところは、質問票の小項目の質問文のあとに、その旨記載している。また、特に記載していないが、専門家用とCP用では、同じ内容の質問であっても、表現を調整した箇所が一部ある。

なお、エクアドル側機関には、西語訳した質問票を配布した。

プロジェクト名: エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

0. 実施プロセス

大項目	小項目	1	(1)	2	(2)	3	(3)	4	(4)	Total	Avg
0.1 プロジェクトの進捗	0.1.1 プロジェクト期間を通じ、予定していた活動は円滑に実施されたか。	全く違う	1	やや違う	3	ある程度	4	非常に	4	12	2.92
	0.1.2 プロジェクトの進捗に影響を与えた問題は何か。										
	0.1.3 その問題に対して、どのように対処したか。										
0.2 プロジェクトのマネジメント体制	0.2.1 プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。	全く違う		やや違う	2	ある程度	4	非常に	7	13	3.38
	0.2.2 プロジェクトの活動全体のモニタリングの仕組みは適切か。	全く違う		やや違う	1	ある程度	4	非常に	5	10	3.40
	0.2.3 PDM・POは適宜修正されているか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	3	非常に	4	8	3.38
	0.2.4 PDM・POは十分活用されているか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	5	非常に	6	12	3.42
	0.2.5 開発調査等関連する他の案件との連携・調整は適切に行われたか。	全く違う	1	やや違う		ある程度	5	非常に	5	11	3.27
0.3 技術移転の方法	0.3.1 専門家とカウンターパート(CP)の技術移転・コミュニケーションは円滑に行われたか。	全く違う		やや違う	2	ある程度	4	非常に	7	13	3.38
	0.3.2 エクアドル側CPとの技術移転・コミュニケーションに関する課題はどういったことか。										
	0.3.3 その他専門家として活動しているCPとの技術移転・コミュニケーションにおいて心がけたことやその他コメントがあればお書きください。										
0.4 カウンターパートその他ステークホルダーのプロジェクトに対する参加度・認識度	0.4.1 中央省庁のCP機関のイニシアティブは高いか。	全く違う	1	やや違う	5	ある程度	4	非常に	2	12	2.58
	0.4.2 テンボラソ県のCP機関のイニシアティブは高いか。	全く違う	1	やや違う	1	ある程度	7	非常に	4	13	3.08
	0.4.3 プロジェクト期間を通じ、CPのプロジェクトに対する関わり方に変化があったか。	全く違う	1	やや違う	3	ある程度	5	非常に	3	12	2.83
	0.4.4 他援助機関、NGO等他の関連機関との連携・調整は十分効果的に行われたか。	全く違う	1	やや違う	2	ある程度	5	非常に	2	10	2.80
	0.4.5 対象集落の住民はプロジェクトに十分関与したか。	全く違う		やや違う		ある程度	4	非常に	8	12	3.67
	0.4.6 住民と関係機関との関わりに変化が見られたか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	6	非常に	4	11	3.27
	0.4.7 エクアドル側CP及び関連する機関、ターゲットグループのプロジェクトに対する関与で課題になったことがあれば、お書きください。										

質問票回答集計結果

プロジェクト名：エクアドル国テンポラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

1. 妥当性

大項目	小項目	1	(1)	2	(2)	3	(3)	4	(4)	Total	Average
1.1 プロジェクトを実施する必要性	1.1.1 プロジェクトは対象地域・社会のニーズに合致しているか。	全く違う		やや違う		ある程度	2	非常に	10	12	3.83
	1.1.2 総合農村開発の実施体制整備は地元住民に便益をもたらすか。	全く違う		やや違う		ある程度	3	非常に	9	12	3.75
1.2 プロジェクトの優先度	1.2.1 プロジェクト目標・上位目標はエクアドル政府の政策(PNBV、テリトリアル計画等)と合致しているか。	全く違う		やや違う		ある程度	3	非常に	8	11	3.73
1.3 手段としての適切性	1.3.1 プロジェクトは適切なプロセスを経て計画されたか。	全く違う		やや違う		ある程度	6	非常に	5	11	3.45
	1.3.2 プロジェクトの計画(全体のデザイン、パイロット・プロジェクトの運営方法、ECAの導入等)は住民の生活水準向上の戦略として適切であったか。	全く違う		やや違う		ある程度	5	非常に	6	11	3.55
	1.3.3 関連のCP機関の組織・規模・財政状況に対して適正な計画が立てられたか。	全く違う	1	やや違う	2	ある程度	4	非常に	3	10	2.90
	1.3.4 対象集落の選定方法は適正と言えるか。	全く違う	1	やや違う	3	ある程度	3	非常に	2	9	2.67
	1.3.5 ターゲットグループの対象・規模は適正と言えるか。	全く違う	1	やや違う	2	ある程度	2	非常に	5	10	3.10
	1.3.6 日本が協力する比較優位はあるか。*	全く違う		やや違う	1	ある程度	4	非常に	1	6	3.00

*本項目はCP向けには含まない

プロジェクト名：エクアドル国テンポラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

2. 有効性

大項目	小項目	1	(1)	2	(2)	3	(3)	4	(4)	Total	Average
2.1 プロジェクト目標の達成度	2.1.1 テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターからなる開発事業実施チームが形成されたか。	全く違う		やや違う		ある程度	6	非常に	8	14	3.57
	2.1.2 持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保されたか。	全く違う		やや違う	2	ある程度	3	非常に	4	9	3.22
	2.1.3 各事業は持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づき計画されたか。	全く違う		やや違う		ある程度	3	非常に	8	11	3.73
	2.1.4 プロジェクト目標達成の促進要因は何か。										
	2.1.5 プロジェクト目標達成の阻害要因は何か。										
2.2 各成果の達成度とプロジェクト目標達成への貢献度	2.2.1 成果1:テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。										
	2.2.1.1 成果1の指標はどの程度達成されたか。	全く違う		やや違う		ある程度	8	非常に	4	12	3.33
	2.2.1.2 成果1の達成に関する課題は何か。										
	2.2.1.3 PDMの指標以外に成果1の活動による成果はあるか。あればどういったことか。										
	2.2.2 成果2:テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。										
	2.2.2.1 成果2の指標はどの程度達成されたか。	全く違う		やや違う		ある程度	6	非常に	5	11	3.45
	2.2.2.2 成果2の達成に関する課題は何か。										
	2.2.2.3 PDMの指標以外に成果2の活動による成果はあるか。あればどういったことか。										
	2.2.3 成果3:テンポラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される。										
2.2.3.1 成果3の指標はどの程度達成されたか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	5	非常に	2	8	3.13	
2.2.3.2 成果3の達成に関する課題は何か。											
2.2.3.3 PDMの指標以外に成果の活動による成果はあるか。あればどういったことか。											
2.3 成果とプロジェクト目標との因果関係	2.3.1 プロジェクト目標を達成するために適切な成果が設定されていたか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	5	非常に	5	11	3.36
	2.3.2 成果間の相乗効果が考えられていたか。	全く違う		やや違う		ある程度	5	非常に	5	10	3.50
	2.3.3 プロジェクト目標の達成にあたり外部条件があったか。あれば記述してください。										

質問票回答集計結果

プロジェクト名：エクアドル国テンポラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

3. 効率性

大項目	小項目	1	(1)	2	(2)	3	(3)	4	(4)	Total	Average		
--> >この枠の該当するところにチェックを入れてください。		非常に問題		やや問題あり		大体よい		非常によい					
3.1 日本側の投入の適切度	3.1.1 専門家	a. 専門家の人数				4		3		3	10	2.90	
		b. 派遣のタイミング				1		8		3	12	3.17	
		c. 専門分野				2		4		3	9	3.11	
	3.1.2 機材供与	a. 数量				1		3		6	10	3.50	
		b. 種類・機種・品質				1		3		6	10	3.50	
		c. 供与のタイミング						5		5	10	3.50	
		d. コスト				1		4		4	9	3.33	
	3.1.3 CP研修(本邦、ボリビア)	a. 時期				1		3		4	8	3.38	
		b. 内容(研修項目、教材等)				1		4		3	8	3.25	
	3.1.4 ローカルコスト支援	a. 投入の時期					1		1		4	6	3.50
		b. 投入金額		1				1		4	6	3.33	
	3.2 エクアドル側の投入の適切度	3.2.1 エクアドル側CPの配置	a. CPの数		1		3		4		4	12	2.92
			b. 配置のタイミング				3		4		5	12	3.17
			c. CPの専門分野		1		1		5		5	12	3.17
3.2.2 普及員の配置		a. 普及員の数		1		1		3		5	10	3.20	
		b. 普及員の役割の適切性		1		3		1		6	11	3.09	
3.2.3 施設/機材		a. 土地・建物・施設(執務・作業スペース)		1		5		4		2	12	2.58	
		b. 機材・備品		1		3		5		4	13	2.92	
3.2.4 運営コスト		a. 金額				1		4		3	8	3.25	
		b. 執行のタイミング						5		3	8	3.38	
3.3 投入及び活動と成果の因果関係		3.3.1 活用されていない投入はあるか。あるとすれば何か。											
	3.3.2 成果を算出するために適切な投入がなされたか。		全く違う		やや違う		ある程度	3	非常に	6	9	3.67	
	3.3.3 活動は、各成果を算出するために十分であったか。		全く違う		やや違う	1	ある程度	4	非常に	4	9	3.33	
	3.3.4 成果を達成するための外部条件はあったか。あればお書きください。												

プロジェクト名：エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

4. インパクト

大項目	小項目	1	(1)	2	(2)	3	(3)	4	(4)	Total	Average
4.1 上位目標達成の見込み	4.1.1 チンボラソ県の農村開発モデルに関連した持続的総合農村開発事業がシエラ地域で実施される見込みか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	3	非常に	6	10	3.50
	4.1.2 持続的総合農村開発事業実施にあたって、実施体制で課題になっていることがあればお書きください。										
	4.1.3 社会経済的要因、社会文化的要因などの状況は変化していないか。	全く違う	3	やや違う	2	ある程度	4	非常に		9	2.11
4.2 因果関係	4.2.1 上位目標は、プロジェクト終了後3～5年後に達成できる見込みか。(上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか)	全く違う	2	やや違う		ある程度	4	非常に	4	10	3.00
	4.2.2 県政府、関係省庁及び関係機関の役割、体制が変わらない見込みか。(外部条件)	全く違う	2	やや違う	1	ある程度	4	非常に	3	10	2.80
	4.2.3 パイロット・プロジェクト実施のための予算及び人員は確保され見込みか。(外部条件)	全く違う		やや違う	1	ある程度	4	非常に	4	9	3.33
4.3 波及効果	4.3.1 チンボラソ県の対象集落以外への波及効果の事例はあるか。ある場合は記述してください。										
	4.3.2 プロジェクト実施によりもたらされた予期されなかった <u>正</u> のインパクトはあるか。ある場合は記述してください。										
	4.3.3 プロジェクト実施によりもたらされた予期されなかった <u>負</u> のインパクトはあるか。ある場合は記述してください。										
	4.3.2 負のインパクトが生じている場合、何か対策がとられているか。あれば記述してください。										

質問票回答集計結果

プロジェクト名：エクアドル国テンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

5. 自立発展性

大項目	小項目	1	(1)	2	(2)	3	(3)	4	(4)	Total	Average
5.1 制度・政策面	5.1.1 持続的総合農村開発実施体制強化に対する関係機関の支援は、協力終了後も得られそうか。	全く違う		やや違う		ある程度	4	非常に	6	10	3.60
	5.1.2 関連する政策・制度に変化はあるか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	7	非常に	2	10	3.10
5.2 組織面	5.2.2 テンボラソ県関連機関の事業実施能力や調整能力は向上しているか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	3	非常に	5	9	3.44
	5.2.3 テンボラソ県関連機関の事業実施能力や年間計画及び予算の執行状況はプロジェクトの効果を維持するのに十分か。問題がある場合、問題点を記述してください。	全く違う		やや違う		ある程度	8	非常に	1	9	3.11
5.3 財政面	5.3.1 テンボラソ県の関連機関には今後十分な予算が配分される見込みか。	全く違う	1	やや違う		ある程度	5	非常に	2	8	3.00
5.4 技術面	5.4.1 CPIは定着しているか。	全く違う	1	やや違う	3	ある程度	3	非常に	3	10	2.80
	5.4.2 移転した技術は活用されているか。	全く違う		やや違う	2	ある程度	4	非常に	4	10	3.20
	5.4.3 プロジェクトで作成した戦略計画は関係機関により実施される見込みか。	全く違う		やや違う	2	ある程度	5	非常に	4	11	3.18
	5.4.4 対象集落以外への普及は考えられているか。	全く違う		やや違う	1	ある程度	3	非常に	6	10	3.50
	5.4.5 施設・機材は維持管理されていく見込みか。	全く違う		やや違う		ある程度	3	非常に	6	9	3.67
5.5 自立発展性に関する要因	5.5.1 プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆくために必要な要因は何か。										
	5.5.2 プロジェクトで得られた効果が引き続き発現してゆく際に阻害要因となるものは何か？										

6. 投入実績表

(1) 長短期専門家派遣実績

長期専門家

No.	氏名	指導科目	派遣期間
1	大森 廣寿	チーフアドバイザー / コミュニティ開発人材育成	2009年2月24日～2011年2月23日
2	築瀬 二郎	業務調整 / 参加型開発	2009年3月7日～2011年3月6日

短期専門家

No.	氏名	指導科目	派遣期間
1	小谷 慶子	PCM手法	2009年7月26日～2009年8月30日
2	中島 大介	農村農牧分野開発計画 (農業土木)	2009年10月24日～2009年12月7日
3	大谷 雅代	農村教育分野開発計画 (成人教育)	2009年10月24日～2009年12月7日
4	小川 慎司	農村環境分野開発計画 (土壌保全)	2009年10月24日～2009年12月7日
5	斉藤 昌子	農村保健分野開発計画 (公衆衛生・母子保健)	2009年11月6日～2009年12月7日
6	小川 慎司	農民野外学校手法	2010年2月25日～2010年4月10日

(2) C/P の研修

C/P本邦研修員受入実績

No.	氏名	所属機関	役職		研修分野	研修内容及び 受入機関	派遣期間
			派遣当時	現在			
1	Mariano Curicama Guaman	チンボラソ県庁	県知事	県知事	住民参加型持続的総合農村開発	大分県一村一品運動視察、 その他視察	2009年 10月18日～29日
2	Oswaldo Cornelio Armijos Diaz	チンボラソ県庁	公共事業部長	公共事業部長			

第三国研修員受入実績（ボリビア）

No.	氏名	所属機関	役職		研修分野	研修内容及び 受入機関	派遣期間
			派遣当時	現在			
1	MARIA BELISA ALVAREZ ROMERO	チンボラソ県庁	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	持続的総合農村開発	類似プロジェクトの現場視察 及び意見交換 ボリビア国持続的農村開発の ための実施体制整備計画 (Cambio Rural) フェーズII	2010年 4月10日～ 4月18日
2	SEGUNDO GASPAR NOVILLO SALAZAR	チンボラソ県庁	プロジェクト技術担当	プロジェクト技術担当			
3	VICTOR HUGO BODERO HERRERA	環境省県事務所	C/P技術者	C/P技術者			
4	MARY JULIETA ALVEAR HARO	西語教育事務所	C/P技術者	C/P技術者			
5	VIRGILIO PILAMUNGA QUINCHE	二言語教育事務所	C/P技術者	C/P技術者			
6	CARLOS HUGO BONILLA VEGA	チンボラソ県庁	環境部長	環境部長			
7	OCTAVIO DANIEL GUADALUPE ECHEVERIA	チンボラソ県庁	生産部長	生産部長			
8	MABEL PINTAG PILATUNA	チンボラソ県庁	プロジェクト普及員	プロジェクト普及員			
9	MARIA DOLORES AUCANCELA SAGRAY	チンボラソ県庁	プロジェクト普及員	プロジェクト普及員			
10	SEGUNDO JULIO CANDO MOROCHO	チンボラソ県庁	プロジェクト普及員	プロジェクト普及員			
11	LUIS ENRIQUE MOYOLEMA TENEGUSNIAY	セセル・サン・アントニオ村	村落代表者	村落代表者			
12	MANUEL CRIOLLO DAQUILEMA	サラチュバ村	村落代表者	村落代表者			
13	RAMONA CHIMBOLEMA CHIMBOLEMA	リリオ村	村落代表者	村落代表者			

(3) 機材供与実績

供与機材 <利用状況> A:毎日、B:週に一度、C:時々 <管理状況> A:良好、B:修理必要、C:破損

年度	番号	機材名	メーカー	形式	数量	金額 (USD)	受取日 (購入日)	設置場所	利用 頻度	管理 状況	供与日	供与先
2008	1	車両	TOYOTA	HILUX UX 4x4 CD SR	1	20,270.00	2009年2月18日	県庁駐車場	A	A	2009年3月10日	県庁
	2	車両	TOYOTA	FORTUNER TM	1	27,060.00	2009年2月18日	県庁駐車場	A	A	2009年3月10日	県庁

年度	番号	機材名	メーカー	形式	数量	金額 (USD)	受取日 (購入日)	設置場所	利用 頻度	管理 状況	供与日	供与先
2009	3	複写機	XEROX	Workcentre 5020	1	1,673.60	2009年4月22日	プロジェクト事務所	A	A	2009年4月22日	県庁
	4	塩素浄水器	Provitab	DE 10T	9	6,068.16	2010年2月17日	対象村落	A	A	2010年5月6日	対象村落
	5	自動二輪車	SUZUKI	AX 100	3	3,450.00	2010年2月22日	プロジェクト倉庫	C	A	2010年5月6日	県庁
	6	自動二輪車	YAMAHA	105E CRYPTON	1	1,675.00	2010年2月22日	プロジェクト倉庫	C	A	2010年5月6日	県庁
	7	プロジェクター	EPSON	POWER LITE S8	1	780.00	2010年2月23日	プロジェクト事務所	B	A	2010年5月6日	県庁
	8	GPS	Garmin	GPSmap 60CSx	2	1,500.80	2010年2月25日	プロジェクト事務所	C	A	2010年5月6日	県庁
	9	高度計	Banigo	Modelo 39 profesional	2	1,164.80	2010年3月19日	プロジェクト事務所	C	A	2010年5月6日	県庁
	10	車両	NISSAN	FRONTIER AX 4x4	1	20,690.00	2010年3月11日	県庁駐車場	A	A	2010年5月6日	県庁
	11	ビデオカメラ	SONY	DSC-SR47	1	403.39	2010年3月10日	プロジェクト事務所	A	A	2010年3月10日	県庁
	12	ロッカー	Diseño y Confort	1.8 x 0.9 x 0.4 M	1	200.00	2010年3月25日	プロジェクト事務所	A	A	2010年3月25日	県庁
	13	書棚 (扉付)	Diseño y Confort	1.8 X 1.4 X 0.35 M	1	290.00	2010年3月25日	プロジェクト事務所	A	A	2010年3月25日	県庁
	14	会議テーブル	Diseño y Confort	12人用	1	285.00	2010年3月25日	プロジェクト事務所	A	A	2010年3月25日	県庁
	15	塩素浄水器	Provitab	DE 10T	1	602.00	2010年3月26日	プロジェクト事務所	A	A	2010年3月26日	県庁

(4) セミナー実績

対象者:C/P, 普及員等

年度	コース名 (研修内容)	開催日	期間 (日間)	参加 人数	対象者	所属 (機関・村落等)	備考
2009	PCM 手法(計画立案)	2009年 8月3日 ~ 2009年 8月5日	3	31	C/P, 普及員	GPCH, MAGAP, 環境省、 保健省、教育省(スペイン 語教育、二言語教育)	研修終了後、予行演習を行 い、対象村落にてワークシ ョップを実施
	農民野外学校 ファンリテーター養成	2010年 3月8日 ~ 2010年 3月19 日	10	25	C/P, 普及員	GPCH, MAGAP, 環境省、 保健省、教育省(スペイン 語教育、二言語教育)	研修終了後も引き続き短期 専門家が実施指導し、対象 村落にてワークショップを 実施
2010	農民野外学校 ファンリテーター技術講習	2010年 4月 ~ 2011年 3月			C/P, 普及員	GPCH, MAGAP, 環境省、 保健省、教育省(スペイン 語教育、二言語教育)	毎週水曜日に報告会と次 週計画の策定を実施し、必 要に応じて技術講習会を実 施
	農民野外学校	2010年 4月 ~ 2011年 3月			対象 6 村落の選ばれたメ ンバー(1 村 30 名以内)	対象村落住民	対象1村落で週一回実施
合計(累計)			13	56			

(5) 日本側コスト負担実績

日本側ローカルコスト予算執行実績

機関	執行期間	総額 (日本円)	総額 (米ドル)	備考
国際協力機構 (JICA)	2009年2月～2009年3月	393,810	4,374.70	1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2009年4月～2010年3月	6,261,178	64,355.82	1USD=97.29JPY (2009年4月)
	2010年4月～2010年6月	787,950	8,500.00	1USD=92.70JPY (2010年4月)
	総額	7,442,938	77,230.52	

*専門家派遣、本邦研修、第三国研修、供与機材経費は含まず

(6) C/P 配置実績

合同調整委員会CCCメンバー

	役職	氏名	期間
チンボラソ県庁	★ 県知事	Mariano Cricama Guaman	2009年2月24日 ～ 継続
	★★ プロジェクトマネージャー	Luis Jaya	2009年2月24日 ～ 2009年6月6日
	★★ プロジェクトマネージャー	Maria Beliza Alvarez Romero	2009年6月6日 ～ 継続
農牧省 (MAGAP)	省庁代表	David Espinoza	2009年6月12日 会議出席
	省庁代表	Lucy Montalvo	2009年12月4日 会議出席
環境省	省庁代表	Mónica Tello	2009年6月12日 会議出席
	省庁代表	Pablo Drovot Torres	2009年12月4日 会議出席
保健省	省庁代表	Guillermo Tello	2009年6月12日 会議出席
教育省	省庁代表	Raúl F. Oleas	2009年12月4日 会議出席
	省庁代表	José Ocaña Noriega	2009年6月12日 会議出席
国際協力庁 AGECI	省庁代表	Ana Isabel Padilla Polo	2009年12月4日 会議出席
	省庁代表	Ana Patricia Lozada	2009年6月12日 会議出席
INIAP	省庁代表	Gabriela Rosero	2009年12月4日 会議出席
	省庁代表	Fausto Merino	2009年6月12日 会議出席
INCCA	省庁代表	Fausto Merino	2009年12月4日 会議出席
	省庁代表	Rómulo Chávez	2009年6月12日 会議出席
COMICH	省庁代表	Luis Oña	2009年12月4日 会議出席
	所長	Delfin Tenesaca	2009年6月12日 会議欠席
CONFOCIECH	所長代理	Rosa Agualsaca	2009年12月4日 会議出席
	所長	Pablo Guachilema	2009年6月12日 会議欠席
国際協力機構 JICA	エクスアドル支所長	山口 三郎	2009年6月12日 会議出席
	エクスアドル支所長	高井 正夫	2009年12月4日 会議出席
	チーフアドバイザー	大森 廣寿	2009年6月12日 会議出席
	調整員	篠瀬 二朗	2009年6月12日 会議出席

★ : プロジェクトダイレクター ★★ : プロジェクトマネージャー

プロジェクト運営委員会 (COP) メンバー

	役職	氏名	期間
チンボラソ県庁	★ 県知事	Mariano Cricama Guaman	2009年2月24日 ～ 継続
	★★ プロジェクトマネージャー	Luis Jaya	2009年2月24日 ～ 2009年6月6日
	★★ プロジェクトマネージャー	Maria Beliza Alvarez Romero	2009年2月24日 ～ 2009年6月6日
	生産部長	Octavio Guadalupe	2010年1月 ～ 継続
	環境部長	Carlos Bonilla	2010年1月 ～ 継続
	社会管理部長	Marco Martinez	2009年3月 ～ 継続
農牧省 (MAGAP)	公共事業部長	Oswaldo Armijos	2009年3月 ～ 継続
	県事務所長	Victor Angueta Pérez	2009年3月 ～ 継続
環境省	県事務所長	Victor Hugo Bodero	2009年4月 ～ 2009年9月
	県事務所長	César Freire	2009年9月 ～ 2010年4月9日
	県事務所長	Patricio Hermida	2010年4月10日 ～ 継続
保健省	県事務所長	Wilson Nina	2009年4月 ～ 2009年8月
	県事務所長	Oscar Guevara	2009年9月 ～ 2009年11月
	県事務所長	Ramiro Guerrero	2009年12月 ～ 2010年1月
	県事務所長	César Ayala	2010年2月 ～ 2010年4月9日
教育省	県事務所長	Nelly Recalde	2010年4月16日 ～ 継続
	県事務所長 (スペイン語教育)	Adela Moscoso	2009年3月 ～ 継続
	県事務所長 (二言語教育)	Delfin Aucancela	2009年4月 ～ 2009年8月
国立農牧研究所 (INIAP)	県事務所長 (二言語教育)	José Sayay	2009年9月 ～ 継続
	県事務所長	Fausto Merino	2009年4月 ～ 継続
国立農業研修機関 (INCCA)	県事務所長	Mario Logroño	2009年4月 ～ 継続
国際協力機構 JICA	チーフアドバイザー	大森 廣寿	2009年2月 継続
	調整員	篠瀬 二朗	2009年3月 継続

★ : プロジェクトダイレクター ★★ : プロジェクトマネージャー

カウンターパート

	役職	氏名	期間
チンボラソ県庁	技術者(保健)	María Pagalo	2009年3月 ~ 継続
	技術者(総合)	Gaspar Novillo	2009年7月 ~ 継続
農牧省MAGAP	技術者	Jorge Contero	2009年4月 ~ 2009年8月
	技術者	Cornelio Tello	2009年9月 ~ 2009年10月
	技術者	Jorge Ríos	2009年11月 ~ 2010年2月
	技術者(農牧)常勤	Michael Bedón	2010年3月 ~ 継続
	技術者(農牧)非常勤	Daniel Segovia Z.	2010年3月 ~ 継続
環境省	技術者(環境)	Víctor Hugo Bodero	2010年3月 ~ 継続
保健省	技術者	Boris Velasquez	2009年5月 ~ 2009年10月
	技術者	Susana Padilla	2009年11月 ~ 2010年2月
	技術者(保健)常勤	Germania Vilema	2010年3月 ~ 継続
	技術者(保健)非常勤	Ruth Naranjo	2010年3月 ~ 継続
教育省	技術者	Ana Montes	2009年5月 ~ 2009年5月
	技術者	Bolívar Vinueza	2009年6月 ~ 2009年10月
	技術者	Susana Salazar	2009年11月 ~ 2010年2月
	技術者(教育、西語教育)非常勤	Mery Alvear	2010年3月 ~ 継続
	技術者(教育、西語教育)常勤	Víctor Hugo Viteri	2010年3月 ~ 継続
	技術者(教育、二言語教育)非常勤	Virgilio Pílamunga	2010年9月 ~ 継続

その他関係者

	役職	氏名	期間
チンボラソ県庁	プロジェクト普及員	Alejandro Guanolema	2010年1月 ~ 継続
	プロジェクト普及員	Julio Cando	2009年7月 ~ 2010年7月
	プロジェクト普及員	Néstor Chacha	2010年2月 ~ 継続
	プロジェクト普及員	Mabel Pintag	2009年7月 ~ 2010年6月
	プロジェクト普及員	María Aucancela	2009年7月 ~ 2010年7月
	プロジェクト普及員	Inés Yucailla	2010年2月 ~ 継続
	プロジェクト普及員3名	未定	2010年8月予定 ~
	秘書	Ruth Chuquimarca	2009年3月 ~ 継続
	アシスタント	Carolina Chávez	2009年3月 ~ 継続
国際協力機構JICA	アシスタント	Andrea Mosquera	2009年3月 ~ 2009年7月
	アシスタント	Rubén Aucancela	2009年7月 ~ 継続

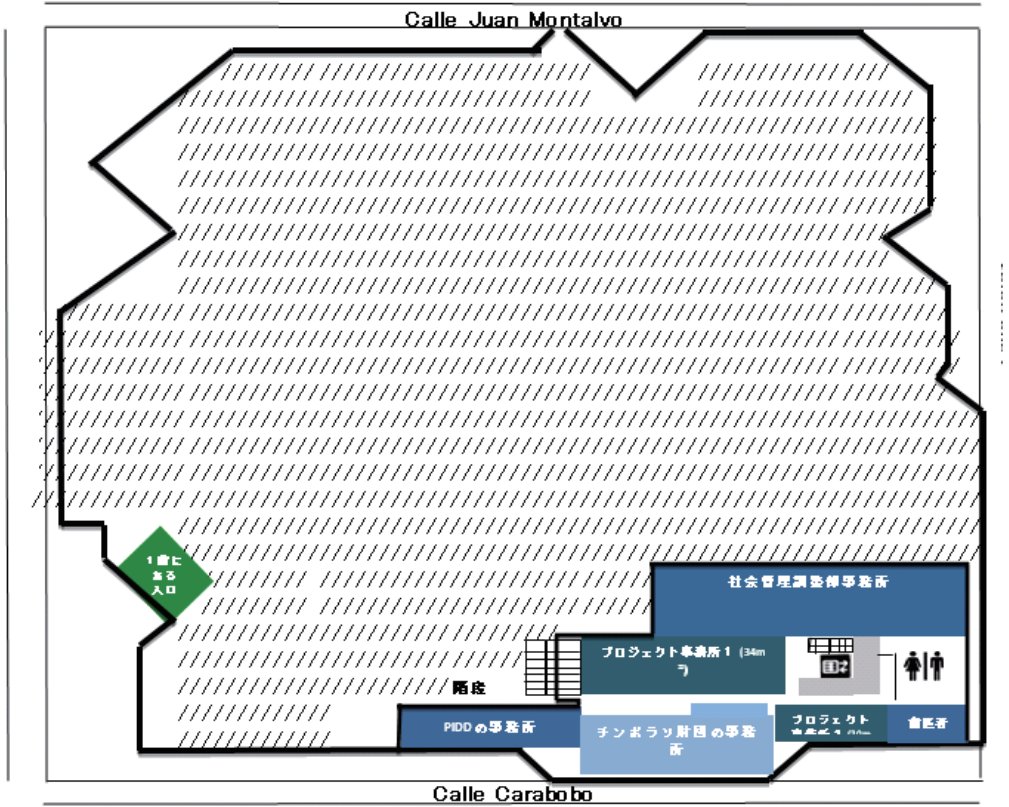
2010年6月末現在

(7) エクアドル側投入実績

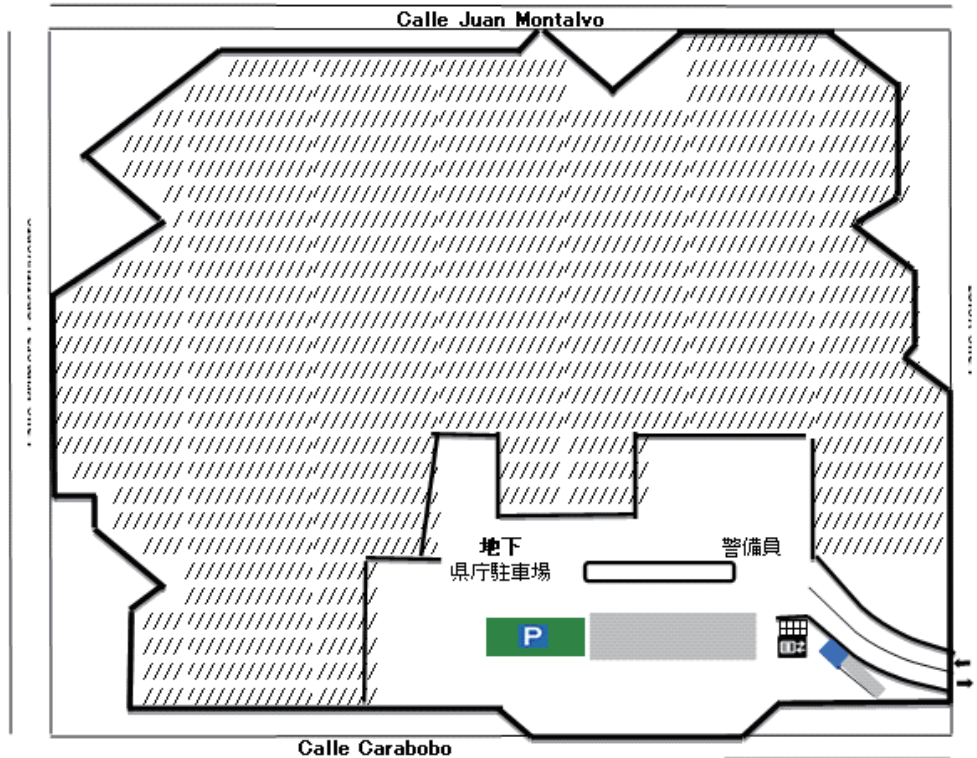
エクアドル側投入執行実績

機関	執行期間	総額 (日本円)	総額 (米ドル)	備考
チンボラソ県庁	2009年2月～2009年12月	4,908,803	54,530.14	1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2010年1月～2010年6月	5,092,867	55,690.18	1USD=91.45JPY (2010年1月)
	小計	10,001,670	110,220.32	
農牧省 MAGAP	2009年2月～2009年12月	0	0.00	1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2010年1月～2010年6月	376,774	4,120.00	1USD=91.45JPY (2010年1月)
	小計	376,774	4,120.00	
環境省	2009年2月～2009年12月	75,599	839.80	1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2010年1月～2010年6月	180,705	1,976.00	1USD=91.45JPY (2010年1月)
	小計	256,304	2,815.80	
保健省	2009年2月～2009年12月	0		1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2010年1月～2010年6月	0		1USD=91.45JPY (2010年1月)
	小計	0	0.00	
教育省 (スペイン語教育 事務所)	2009年2月～2009年12月	474,405	5,270.00	1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2010年1月～2010年6月	270,235	2,955.00	1USD=91.45JPY (2010年1月)
	小計	744,640	8,225.00	
教育省 (二言語教育事 務所)	2009年2月～2009年12月	283,563	3,150.00	1USD=90.02JPY (2009年2月)
	2010年1月～2010年6月	192,045	2,100.00	1USD=91.45JPY (2010年1月)
	小計	475,608	5,250.00	
総額		11,854,996	130,631.12	

(8) エクアドル側提供の施設



県庁建物4回にプロジェクト事務所はある。
 ※プロジェクト事務所1＝専門家、マネジャー、技術者、秘書、アシスタント
 ※プロジェクト事務所2＝普及員6名、短期ボランティア



- プロジェクトの資機材用倉庫 (20m²)
- プロジェクトの3台の車両用の駐車スペース (36m²)

活動実績及び成果 (1)POIに沿った活動実績

活動計画		到達目標	進捗状況と実績	達成率	活動遅延理由	今後の計画
項目	活動内容					
成果1 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。	1-1 プロジェクト運営委員会、分野別ワーキンググループを設置する					
	1-1-1 関係組織からプロジェクト運営委員会のメンバーを選出す	全C/P機関が参加する。	県庁及び各C/P機関の県事務所がプロジェクトに参加している。	4	—	—
	1-1-2 関係組織と各分野別ワーキンググループを立ち上げる。	分野別の課題を議論する場を作る。	戦略策定までは部門別活動が重要視されたが、パイロットプロジェクト段階では部門間の連携が重要となったため、総合技術支援グループを運営していくことになった。	4	—	—
	1-1-3 プロジェクト運営委員会と分野別ワーキンググループの機能を定例化する。	関係者の連携を推進する。	2010年5月26日プロジェクト運営委員会で、以後は同会議は3月に1度、C/P機関の長官レベルの会議は毎月、総合技術支援グループは必要に応じて開催することになった。	4	—	—
	1-2 モデル集落を選定する					
	1-2-1 モデル集落の選定基準を策定する。	関係者の合意を得る。	事前調査団が提案していった基準が採用された。	4	—	—
	1-2-2 モデル集落を選定する。	プロジェクト参加に関し住民の合意を得る。	当初6村、追加で3村、合計9村が採用された。	4	—	—
	1-3 対象地集落で現況調査/ベースライン調査を実施する					
	1-3-1 調査手法を分析し、調査計画を策定する。	実施能力に見合った計画を立てる。	昨年、行なわれた。	4	—	—
	1-3-2 調査を実施する。	C/Pとともに行なう。	昨年、行なわれた。	4	—	—
	1-3-3 調査結果を集計する。	戦略策定に役立たせる。	昨年、報告書を提出した。	4	—	—
	1-4 参加型ワークショップを通じて、集落の開発ニーズを把握する					
	1-4-1 ワークショップの実施計画を策定する。(実施手法含む)	実施可能な計画を策定する。	短期専門家が到着する前に、参加型ワークショップの活動計画を策定した。	4	—	—
	1-4-2 ワークショップのファシリテーターを訓練する。	ファシリテーターが養成される	3日間の研修後、模擬ワークショップを行い技術向上を図った。	4	—	—
	1-4-3 参加型ワークショップを開催する。	C/Pだけで参加型ワークショップを行える	6村は短期専門家主導でワークショップを行い、3村は短期専門家帰国後にC/P主導で行なった。	4	—	—
	1-4-4 ワークショップの結果を集計し、開発ニーズを把握する。	戦略策定に役立たせる。	参加型ワークショップ計画の成果に基づき、部門別共通優先課題を選び出した。	4	—	—
成果2 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する計画策定	2-1 開発ニーズに基づき持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略を策定する。					
	2-1-1 持続的総合農村開発戦略を策定する。	各部門の連携を配慮する	2009年12月4日合同調整委員会で承認された。	4	—	—
	2-1-2 各部門の持続的農村開発戦略を策定する。	各部門の連携を意識する	全体戦略に基づき部門別戦略が策定された。	4	—	—
	2-2 セクター別事業計画を策定する。					
	2-2-1 セクター別活動計画(PDMや投入)を策定する。	戦略にそった事業計画を策定する	持続的総合農村開発戦略の中にセクター別活動計画を記した。さらに、2010年6月にパイロットプロジェクトに関し総合計画を策定した。	4	—	—
	2-2-2 セクター別の中期事業計画を策定する。	6年間の計画を考える。	6年間にわたる中期事業計画が作成された。	4	—	—

項目	活動計画		到達目標	進捗状況と実績	達成率	活動遅延理由	今後の計画
	活動内容						
事業計画策定に能力が強化される。	2-3	各事業計画実施に必要な資金計画を策定する。					
	2-3-1	資金計画を策定する。	集落ニーズに沿った計画を策定する。	資金計画の素案をまとめているところである。	3	—	現在策定中。
	2-3-2	予算源(事業申請の受領者)の分析を行う。	条件を検討する	2KR又はAPCを申請先に想定している。申請内容を検討中である。	3	—	今後実施する。
	2-4	関係機関に事業計画の実施を要請する。					
	2-4-1	事業申請の受領者へ活動計画と予算計画に基づいた事業計画を提案する。	実際に要請する。	8月に実際に要請を行なうことを考えている。	3	—	今後実施する。
	成果3 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関係する事業実施・管理運営能力が強化される。	3-1	パイロット・プロジェクト実施に必要な体制を整える。				
3-1-1		パイロット・プロジェクトの計画を策定する。	部門間の連携を配慮する。	持続的総合農村開発戦略の中で、主要な事業として農民野外学校が提案された。その以外の事業は、2010年6月の総合計画で策定された。	4	—	—
3-1-2		パイロット・プロジェクトの実施体制を構築する。	全C/P機関の参加により実施する。	全C/P機関より技術者が参加し、プロジェクトを実施していく体制の基礎が整った。	4	—	—
3-1-3		各集落でグループ策定と研修を行う。	集落住民が参加する	農民野外学校への参加者が決められ、活動が実施されている。	3	—	パイロットプロジェクトの種類によりグループが異なる。
3-2		モデル集落でパイロット・プロジェクトを実施する。					
3-2-1		モデル集落に対し、パイロット・プロジェクトの計画を説明する。	集落住民の理解を得る。	新たな活動を行なう際は、集落でパイロット・プロジェクト実施の説明を行っている。	3	—	新しいパイロットプロジェクトの度に説明が必要である。
3-2-2		集落が中心的なアクターとして参加し、パイロット・プロジェクトを実施する。	自助努力の概念を広める。	プロジェクト全般に関する話を集落で行なう際は、プロジェクトでは、自助努力に話すようにしている。	3	—	プロジェクト概念の説明は機会あることに行なう。
3-3		モニタリング・評価を行う。					
3-3-1		パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価を通じ、優良事例と不良事例を特定する。	モニタリング評価を行う。	農民野外学校のモニタリングは随時行なっていく。パイロットプロジェクト全体の評価及び満足度調査をプロジェクト終了の3ヶ月から4ヶ月前に行なう予定である。	3	—	評価活動をプロジェクト終了の2ヶ月前まで行なう。
3-3-2		評価結果を集計する。	分かりやすい形にする。	提言に役立つように評価結果をまとめる。	3	—	プロジェクト終了時までには評価結果をとりまとめる。
3-3-3		モニタリング・評価結果に基づき、持続的総合農村開発戦略と活動計画を修正する。	日本側とエクアドル側で合同評価を行う。	2010年8月に終了時評価が行われる。評価結果に従い活動計画を修正していく。それ以外に、プロジェクト自身でも活動評価を行い最終的に提言にまとめる。	3	—	プロジェクト終了時に評価結果に基づき提言を行なう。
3-4		持続的総合農村開発手法案を策定する					
3-4-1		評価結果に基づき、開発手法の分析を行う。(研修教材や実施マニュアルを含む)	開発手法の再検討を念頭において、適宜、活動記録やマニュアルが作成される	評価結果に基づき、開発手法再検討を行なう。	3		プロジェクト終了時までには、開発手法を再検討する。
3-4-2		開発手法のためのマニュアル案を作成する。	CPの連携によって作成される	プロジェクト終了時までには、全活動を振り返って、開発手法マニュアル案を作成する。	3		最終的に、開発手法マニュアルをまとめる。

※達成率4=完了(既に完了している)。 3=完了見込み(プロジェクト終了時までには完了見込み)。 2=課題を残す(プロジェクト終了時までには完了が見込めない)。 1=活動せず。

プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 改訂版

案件名 : チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト

協力期間 : 2009年2月～2011年8月(2年6ヶ月間)

対象地域 : チンボラソ県(コルタ郡、グアモテ郡、リオバンバ郡)

ターゲットグループ : チンボラソ県政府(CPCH)、農業牧畜漁業省県事務所、環境省県事務所、教育省県事務所(二言語局、スペイン語局)、保健省県事務所

協力相手先機関 : チンボラソ県政府(CPCH)、農業牧畜漁業省、環境省、教育省、保健省

裨益者 : チンボラソ県3郡の対象集落住民(各郡2集落 計6集落)

Ver.2 合意年月日: 2010年8月12日

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
スーパーゴール シエラ地域で県政府、関係省庁、関係機関、住民によって持続的総合農村開発事業が実施される。	1) チンボラソ県の農村開発モデルに関連した持続的総合農村開発事業が、シエラ地域で実施される。	1) 対象事業の実施報告書	● エクアドルの貧困削減に対する政策上の重要度が低下しない。
上位目標 チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発事業が実施される。	1) チンボラソ県持続的総合農村開発戦略に基づいたアクションプランが実施される。	1) 対象事業の実施報告書	● エクアドル政府、他県が本事業を農村開発のモデルに採用する。 ● チンボラソ県の貧困削減に向けた持続的総合農村開発政策に変更がない。
プロジェクト目標 チンボラソ県において、貧困削減に向けた持続的総合農村開発実施の実施体制が整備される。	1) チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関により、マルチセクターからなる開発事業実施チームが形成される 2) 持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略に基づく事業実施のための予算が確保される	1) 開発事業実施チームの運営運営にかかる合意書 2) -1 チンボラソ県政府予算書 2) -2 関係省庁のチンボラソ県政府向け事業予算書	● 県政府、関係省庁及び関係機関の役割、体制が大幅に変更されない。 ● 関係省庁の全体予算が大幅に削減されない

<p>成果 1 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する問題分析能力が強化される。</p>	<p>1) C/Pによりモデルコミュニティの現況調査とベースライン調査が計画・実施される。 2) C/Pにより対象コミュニティにお現状把握調査報告書が作成される。(全部で6つの報告書) 3) C/Pによりコミュニティレベルの開発ニーズの把握・共有のための参加型ワークショップが開催される。</p>	<p>1) 対象集落調査報告書 2) ワークショップ報告書</p>	<p>● 関係機関の人事異動が頻繁に起こらないこと</p>
<p>成果 2 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業計画策定能力が強化される。</p>	<p>1) 住民と共有されたチンボラソ県の持続的総合農村開発戦略が策定される。 2) 住民と共有された各セクター(農業・農村開発、環境、教育、保健、公共事業)のための事業計画が策定される。 3) C/Pにより事業計画実施のための資金計画が策定される。 4) C/Pにより事業計画実施のための要請書が関係機関に対し提出される。</p>	<p>1) チンボラソ県持続的総合農村開発戦略及び住民との合意議事録 2) セクター別事業実施計画オヨに住民との合意議事録 3) 事業計画実施のための資金計画 4) 事業計画実施のための要請書</p>	
<p>成果 3 チンボラソ県政府、関係省庁及び関係機関の持続的総合農村開発事業に関する事業実施・管理運営能力が強化される。</p>	<p>1) プロジェクト運営委員会が定期的(月1回程度)に開催され、C/Pによりパイロット・プロジェクト実施報告が行われる。 2) パイロット・プロジェクト実施報告書がプロジェクト運営委員会に提出される。 3) C/Pによりパイロット・プロジェクトのモニタリング・評価が行われる。 4) 持続的総合農村開発手法マニュアルが作成される。 5) 公的機関による事業の実施・運営・管理に関し、住民の満足度が向上する。(ベースライン調査時及び終了時の比較)</p>	<p>1) 住民に対する満足度調査 2) パイロット・プロジェクト実施報告書 3) プロジェクト運営委員会議事録 4) 持続的総合農村開発手法マニュアル</p>	

活動	投入	
<p>"問題分析能力強化"</p> <p>1-1 プロジェクト運営委員会、分野別ワーキンググループを設置する。</p> <p>1-2 モデル集落を選定する。</p> <p>1-3 モデル集落で現況調査/ベースライン調査を実施する。</p> <p>1-4 参加型ワークショップを通じて、集落の開発ニーズを把握する。</p>	<p>投入</p> <p><エクアドル側></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトダイレクター、プロジェクトマネージャー ● プロジェクトスタッフ(チンボラソ県技術者; 農業、環境、教育、保健、公共事業の各分野から各一名以上のフルタイムCP) ● プロジェクトスタッフ(農業、環境、教育、保健、公共事業の各分野の省庁県事務所の担当者; フルタイムCP) ● プロジェクト運営経費(パイロット・プロジェクト実施経費、プロジェクト運営管理費) ● プロジェクト事務所の設置(チンボラソ県庁舎内; 家具、基本備品、電話、インターネット設備) ● アシスタント要員の配置 ● プロジェクト車輛 <p><日本側></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長期専門家(①チーフアドバイザー/コミュニティ開発人材育成 24MM、②参加型開発/業務調整 24MM) ● 短期専門家(参加型ワークショップ手法、土壌保全、教育、保健の各分野; 各分野3ヶ月程度) ● 第三国専門家(PCM手法; アルゼンチン、チリ等より) ● ローカルコンサルタントの配置 ● 第三国研修の実施(ボリビア等の先行事例など) ● 資機材(パイロット・プロジェクト実施のため) ● プロジェクト運営経費の一部補填 ● プロジェクト車輛 	<ul style="list-style-type: none"> ● チンボラソ県の治安が確保される。 ● 集落の継続的な協力が得られる。
<p>"事業計画策定能力強化"</p> <p>2-1 開発ニーズに基づき持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略を策定する。</p> <p>2-2 セクター別事業計画を策定する。</p> <p>2-3 各事業計画実施に必要な資金計画を策定する。</p> <p>2-4 関係機関に事業計画の実施を要請する。</p>		
<p>"事業実施・運営管理能力強化"</p> <p>3-1 パイロット・プロジェクト実施に必要な体制を整える。</p> <p>3-2 モデル集落でパイロット・プロジェクトを実施する。</p> <p>3-3 モニタリング・評価を行う。</p> <p>3-4 持続的総合農村開発手法案を策定する。</p> <p>3-5 2011年以降の本体事業の開始ための準備作業を行う。</p>		

「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」POの変更案(下線部変更部分)

活動	詳細活動	第一年次						第二年次						第三年次			
		2009						2010						2011			
		3,4	5,6	7,8	9,10	11,12	1,2	3,4	5,6	7,8	9,10	11,12	1,2	3,4	5,6	7,8	
問題分析能力強化	1-1 プロジェクト運営委員会、分野別ワーキンググループを設置する。	①関係組織からプロジェクト運営委員会のメンバーを選出する。 ②関係組織と各分野別ワーキンググループを立ち上げる。 ③プロジェクト運営委員会と分野別ワーキンググループの機能を定例化する。	==>														
	1-2 モデル集落を選定する。	①モデル集落の選定基準を策定する。 ②モデル集落を選定する。	==>														
	1-3 モデル集落で現況調査/ベースライン調査を実施する。	①調査手法を分析し、調査計画を策定する。 ②調査を実施する。 ③調査結果を集計する。	==	==>													
	1-4 参加型ワークショップを通じて、集落の開発ニーズを把握する。	①ワークショップの実施計画を策定する。(実施手法含む) ②ワークショップのファシリテーターを訓練する。 ③参加型ワークショップを開催する。 ④ワークショップの結果を集計し、開発ニーズを把握する。				==>											
事業計画策定能力強化	2-1 開発ニーズに基づき持続的総合(マルチセクター型)農村開発戦略を策定する。	①持続的総合農村開発戦略を策定する。 ②セクター別の持続的総合農村開発戦略を策定する。 ③持続的総合農村開発戦略を詳細化する。 ④セクター別の持続的総合農村開発戦略を詳細化する。					==>										
	2-2 セクター別事業計画を策定する。	①セクター別活動計画(PDM, 投入)を策定する。 ②セクター別の中期事業計画を策定する。 ③セクター別活動計画を戦略の見直し結果に応じ詳細化する。 ④セクター別の中期事業計画を戦略の見直し結果に応じ詳細化する。					==>	==>									
	2-3 各事業計画実施に必要な資金計画を策定する。	①2011年度の資金計画を当初の戦略案・事業案を元に策定する。 ②各C/P機関が予算源の確認を行う。 ③中期事業計画に基づき、資金計画を策定する。								==>							
	2-4 関係機関に事業計画の実施を要請する。	①活動計画と予算計画に基づいた2011年度の事業計画を各C/P機関へ提案する。 ②各C/P機関へ活動計画と予算計画に基づいた事業計画を提案する。									==>						
事業実施・運営管理能力強化	3-1 パイロット・プロジェクト実施に必要な体制を整える。	①戦略・事業計画に基づきパイロット・プロジェクトの計画案を策定する。 ②パイロット・プロジェクトの実施体制を構築する。 ③各集落でグループ策定と研修を行う。					==>	==>									
	3-2 モデル集落でパイロット・プロジェクトを実施する。	①モデル集落に対し、パイロット・プロジェクトの計画案を説明する。 ②事業計画ごとのそれぞれの対象地域において対象住民とパイロット・プロジェクトの計画を確定する。 ③集落が中心的なアクターとして参加し、パイロット・プロジェクトを実施する。						==>	==>								
	3-3 モニタリング・評価を行う。	①パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価計画・手法を策定する。 ②パイロット・プロジェクトのモニタリング・評価を通じ、優良事例と不良事例を特定する。 ③評価結果を集計する。 ④モニタリング・評価結果に基づき、持続的総合農村開発戦略と活動計画を修正する。										==>	==>				
	3-4 持続的総合農村開発手法案を策定する。	①評価結果に基づき、開発手法の分析を行う。(研修教材や実施マニュアルを含む) ②開発手法のためのマニュアル案を作成する。															==>
	3-5 2011年以降の本体事業の開始ための準備作業を行う。	①プロモーターの継続的な活動体制を検討し決定する。 ②集落状況の分析を行い、新たな対象集落を選定する。 ③新たな対象集落を含むカントン・バロキア政府と戦略・開発計画の共有を図る。 ④カントン・バロキア政府を含んだ開発の実施体制を整備する。 ⑤2011年の事業計画のそれぞれの対象地域において対象住民と年度事業計画を策定する。 ⑥開発計画に基づき、プロモーターの養成を行う。 ⑦開発手法に基づき2011年の活動対象集落の動機付けを行い、2011年の事業を開始する。 ⑧総合農村開発戦略および開発手法に基づき2012年度の年間計画および予算計画を策定する。 ⑨2012年度の年間予算の申請を行う。								==>	==>						